

第十四條 取締ノ取扱ニ屬スル事項ハ警察署ノ定ムル處ニ從フヘシ

第十五條 貸座敷娼妓ハ一區域毎ニ規約ヲ設ケ取締ノ加印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受ヘシ

第十六條 貸座敷娼妓ニ於テ雇人ヲ置キタル時ハ族籍氏名年齢ヲ詳記シ取締ノ加印ヲ受ケ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ其解雇スル者ハ三日以内ニ人名ヲ届出ヘシ

第十七條 業體ニ關スルコトハ雇人ノ所爲ト雖モ雇主其責ヲ免ル、コトヲ得ス

第二章 貸座敷

第十八條 貸座敷ハ等級業名氏名及樓名若クハ屋號ヲ記シタル看板ヲ店頭ニ掲ケ夜間ハ尙標燈ヲ掲クヘシ

第十九條 貸座敷ハ客帳ヲ製シ遊客ノ住所氏名年齢容貌及衣服ノ品類模様等ヲ詳記シ警察官吏ノ點檢ニ備フヘシ

第二十條 學校ノ徽章ヲ着ケタル生徒ニ遊興セシメ又ハ通行人ニ遊興ヲ勸ムヘカラス

第二十一條 酒肴其他客ノ需メナキ物品ヲ強テ差出スヘカラス

第二十二條 抵償トシテ客ノ衣服又ハ物品ヲ受取ルヘカラス

第二十三條 娼妓ハカメテ正業ニ復セシムル様注意シ費費ヲ爲サシムヘカラス

第二十四條 貸座敷娼妓規則及業體ニ關スル規則類ハ平假名ヲ附シテ平常見易キ場所ニ掲ケ置キ十分了解スル様訓示スヘシ

第二十五條 娼妓廢業又ハ轉寓セントスル時ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムヘカラス

第二十六條 貸座敷娼妓ノ間ニ於テ臨時結約ヲ爲ス時ハ貸座敷主娼妓連署ノ上取締ノ加印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ若シ双方ノ間紛議ヲ生シ訴出テントスル時ハ事由ヲ詳記シ同上届出承認ヲ受ヘシ

第二十七條 貸座敷主一週日以上旅行スル時ハ相當ノ代人ヲ定メ取締加印ノ上所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第三章 娼妓

第二十八條 娼妓ハ必ラス貸座敷ニ寄留スヘシ若シ他ノ貸座敷ニ移轉セントスル時ハ双方ノ貸座敷主連署ノ書面ニ取締ノ加印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ願出鑑札ノ書換ヲ受クヘシ

第二十九條 娼妓ハ警察署又ハ分署ニテ指定シタル日時及場所ニ於テ身體ノ検査ヲ受クヘシ若シ疾病ニ罹リ出場シ難キ時ハ貸座敷主ヲ經テ取締ノ加印ヲ受ケ検査所ニ届出醫師ノ來診ヲ請フヘシ但徵毒ノ兆候アル時ハ期日ニ拘ラス入院治療スヘシ

第三十條 娼妓ハ貸座敷免許地内ニ限り藝妓ヲ兼業スルヲ得但兼業スル時ハ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第三十一條 徵毒ニ罹リタル者ハ都テ検査員ノ差圖ニ從フヘシ

第三十二條 徵毒治療中ハ日割ヲ以テ賦金ヲ免除スヘシ

第三十三條 新ニ免許鑑札ヲ受ケタル娼妓ハ檢微ノ上無毒ノ證ヲ得ルニアラサレハ就業スルヲ得

ス

第三十四條 徵毒ニアラサル疾病ニ罹リ寄留ノ貸座敷ニ於テ治療シ難キ時ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ貸座敷主連署ノ書面ニ取締ノ加印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ願出認可ヲ受クヘシ

第三十五條 娼妓休業全月ニ渉ル時ハ其月ノ賦金ヲ免除スヘシ此場合ニ於テハ貸座敷主連署ノ上取締ノ加印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ但一週間以上休業ノ者ハ檢徴ノ上無毒ノ證ヲ得ニアラサルハ就業スルヲ得ス

第三十六條 貸座敷主ニ於テ不當ノ失費ヲ強ヒ又ハ正當ノ理由ナクシテ轉居及廢業ヲ故障シ其他苛酷ノ取扱ヲ爲ス時ハ警察署分署又ハ巡行巡查ニ密告スヘシ

第三十七條 娼妓ハ徵毒檢査ノ外ハ貸座敷區域外ニ出ツルヲ得ス若シ已ムヲ得サル事故アリ外出シ又ハ他ニ宿泊セントスル時ハ貸座敷主連署ノ上取締ノ加印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ願出認可ヲ受クヘシ

第三十八條 遊客ヨリ金錢衣類物品等ヲ預リ又ハ貰ヒ受ケタル時ハ速ニ貸座敷主ニ告知スヘシ

第四章 罰則

第三十九條 本則第二條第四條第六條第七條第十條第十一條第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十三條第三十四條第三十五條第三十七條第三十八條ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料

ニ處ス(二十一年十二月總令第七十  
七號ヲ以テ本條ノ通改正)

第四十條

第四十一條

第四十二條

第四十三條 第三十九條ニ依リ處分セラレタル者ハ尙其營業ヲ停止シ若クハ禁止スルコトアルヘシ

○明治二十一年四月四日北海道廳訓令號外警察署(宗谷  
ヲ除ク)宛  
本年三月廳令第二十號ヲ以テ貸座敷娼妓取締規則改正候ニ付テハ同規則取扱手續左ノ通心得ヘシ

貸座敷娼妓取締規則取扱手續

第一條 規則第一條ノ場合ニ於テハ貸座敷及娼妓營業免許地ニ於テ從來區域ヲ定メタル場所ハ其區域内ニ限り許可シ其未タ區域ノ定ラサル場所ハ各所ニ散布セサル様注意シ追テ一定ノ見込ヲ立相當ノ手續ヲ以テ繪圖面ヲ添ヘ申出ヘシ

第二條 規則第二條第三條ノ場合ニ於テハ願書ヲ調査シ不都合ナキ時ハ第一號書式ノ免許鑑札ヲ下付スヘシ但等級一等等ニ係ル者ハ現在滿員セスト雖モ上級ノ仕込ヲ以テ營業スル者ハ其等級ニ從ハシムヘシ且樓名屋號ハ其一ヲ用ヒシメ若シ同區域内ニ於テ同名アルトキハ後ニ出願ノ者ヲ改正セシムヘシ

第三條 規則第四條第五條ノ場合ニ於テハ願面ニ具陳スル實情ハ勿論父母ノ承諾若クハ籍面年齢

等詐偽ノ申立ナキヤヲ審査シ且貸座敷主トノ契約書ニ關スル事項ハ綿密願人ニ聞糺シ若シ不都合アル時ハ之ヲ改正セシメ又ハ許可セサル等ノ處分ヲ爲シ其不都合ナシト認メタル者ニ限り第二號書式ノ免許鑑札ヲ下付スヘシ但契約書等ニハ署長ノ檢印ヲ爲スヘシ

妓名ハ同貸座敷内ニ同名ナキヲ要スト雖モ區域内ノ同名ハ改正セシムルニ及ハス

第四條 規則第八條第九條ノ場合ニ於テハ廢業又ハ移轉ノ者ハ賦金其他業體ニ關スル一切ノ費用ヲ納完シタルヤヲ調査シ若シ完納セサルトキハ其手續ヲ爲サシムヘシ但娼妓移轉營業出願ノ者ニハ前許可シタル署ヨリ添翰ヲ下付スルヲ以テ父母ノ連署ヲ要セサルモノトス

第五條 規則第二條第四條第八條第九條ノ場合ニ於テハ貸座敷娼妓ノ名簿ヲ加除スヘシ

第六條 規則第十條ノ場合ニ於テハ郡區役所又ハ戶長役場ヨリ不納者人名通牒アルトキハ該不納者ヲ召喚シ若シクハ巡行ノ巡查又ハ取締ニ命シ完納方ヲ説諭セシムヘシ若シ再三ニ及フトキハ一時營業ヲ停止スル等ノ處分ヲ爲スヘシ

第七條 規則第十一條第十二條ノ場合ニ於テハ貸座敷十戶以上アル地ハ正副取締二名其他ハ正副取締ノ内壹名ヲ標準トシ尙實地ニ依リ斟酌スヘシ但男子ナキ地ハ便宜ノ取計ヲ爲スヘシ

第八條 規則第十五條ノ場合ニ於テハ必要ト認ムル條件ノ規約ヲナサシメ認可スヘシ

第九條 規則第十八條第十九條ノ看板標燈及客帳ハ調査ニ便ナラシムル爲メ其體裁ヲ一定ニシ第三號第四號第五號書式ニ從ハシムヘシ

第十條 規則第二十六條ノ場合ニ於テハ契約書ニ十分ノ注意ヲ爲スヘシ且出訴等ニ至ラントスル

トキハ一應和解方ヲ説諭スヘシト雖モ若シ肯ハサルトキハ強テ干涉スルニ及ハス

第十一條 規則第十條第三十二條及第三十五條ノ場合ニ於テ賦金ヲ割戻スヘキ者アル時ハ郡區役所又ハ戶長役場ニ通牒スヘシ

第十二條 規則第三十七條ノ場合ニ於テハ其事情ヲ審査シ已ムヲ得サル者ニ限り許可スヘシ且願面ニ記載セシ事故ノ外ハ他ノ人家ニ立寄ル等ノ事ナキ様申聞ケ違背シタルトキハ處分ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 規則第三十九條ノ場合ニ於テ懲戒ニ處シタル者ハ監獄署アル地ハ其別房ニ入レ服役セシメ監獄署ナキ地ハ警察署分署ノ留置場ニ入レ他囚ト別異スヘシ但模様ニ依リ服役セシムルニ及ハス

第十四條 規則第四十三條ノ停止期限ハ三十日以内トシ警察署ハ直チニ處分シ分署ハ警察署ニ伺出タル上處分シ俱ニ届出ヘシ其禁止ニ係ルモノハ都テ本廳ニ稟議スヘシ但停止禁止ノ伺書及届書ハ事情ヲ詳具シ且停止ノモノハ解停期限ノ見込ヲ附スヘシ

(書式略ス)

○明治二十一年四月四日北海道廳訓令號外警察署(宗谷警署ヲ除ク)宛

本年三月廳令第二十號ヲ以テ貸座敷娼妓取締規則改正候ニ付テハ同規則中ニ有之取締服務心得并檢徵規則トモ別紙標準ニ據リ警察署長ニ於テ規則ヲ設ケ届出ヘシ

(別紙)

取締服務心得標準

取締ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ貸座敷娼妓ニ關スル取締ノ事務ヲ取扱フヘシ其目左ノ如シ

- 一 貸座敷娼妓ノ願届等ニ加印スル事  
但意見アルモノハ副申スヘシ
- 二 檢微ニ關スル諸務ニ從事スル事
- 三 貸座敷娼妓ノ名簿ヲ調製シ出入ヲ加除スル事
- 四 貸座敷娼妓賦金ノ未納ヲ調査シ督促又ハ申告スル事
- 五 貸座敷娼妓反則ノ有無ニ注意シ且同業ニ關スル規則類ノ周知ヲ計ル事

檢微規則標準

- 第一條 娼妓ノ徵毒ヲ檢査スル爲メ驅微院アラサル地ニ檢微所ヲ設クヘシ
- 第二條 檢微所ハ所轄警察署又ハ分署ノ管理ニ屬スヘシ
- 第三條 檢微醫ハ應立病院又ハ町村立病院ノ醫員ヲ以テ之ニ充ツヘシ若シ該病院ナキ地ハ私立病院ノ醫員若クハ開業醫ヲ以テ之ニ充ルヲ得但手當金ヲ要スルモノハ警察署長ニ於テ認可ヲ受ケ支給スヘシ
- 第四條 檢微ニ關スル費用ハ警察署ヨリ支給スヘシ但娼妓入院中ノ賄費ハ自辨トス
- 第五條 取締ハ警察官ノ指揮ヲ受ケ檢微所ノ事務ニ從事スヘシ
- 第六條 檢微ハ毎土曜日トス其時刻ハ所轄警察署又ハ分署ニ於テ定ムヘシ

第七條 檢微中ハ該室ヘ檢微醫及附添婦ノ外入ルヲ得ス

第八條 取締ハ娼妓ノ檢微表ヲ製シ徵毒ノ感否ヲ記入シ檢微醫ノ檢印ヲ受ケ出張ノ警察官ニ差出スヘシ

第九條 娼妓徵毒ニ感染シタル時ハ直ニ入院治療セシメ入院中ハ都テ病院ノ規則ニ從ハシムヘシ但病院ナキ地ハ別ニ定ムル處ニ從テ治療セシムヘシ

○明治二十四年七月二十九日北海道廳訓第七十號警察署(宗谷)宛

明治二十三年十二月二日訓令號外貸座敷娼妓取締給料並ニ文具料支給ノ件廢止ス

○明治二十一年四月六日北海道廳訓令號外警察署(宗谷)宛

府縣ヨリ寄留ノ者ニテ貸座敷娼妓營業願出候節ハ自今該府縣添翰ノ有無ニ拘ハラズ詮議ノ上許否シ藝妓ハ添翰ナキモノト雖モ許可スルヲ得

○明治二十四年六月十五日北海道廳告示第十六號

北海道根室國根室郡根室彌生町六丁目七丁目及同町接續地根室村字ハツタラ五十三番地ヲ以テ貸座敷免許地ト定ム

○明治二十五年四月二日北海道廳告示第二十五號

北海道廳振國室蘭郡室蘭本町通字(ライナラシ)ヲ以テ娼妓貸座敷免許地ト定ム

○明治二十五年五月二十八日北海道廳訓第四百十五號檜山外五郡役所宛

檜山郡江差新地町貸座敷營業免許地更ニ新地裏町迄取廣メ該營業免許地ト定ム

○明治二十五年五月二十八日北海道廳訓第四百十五號江差警署宛  
檜山郡江差新地町貸座敷營業免許地更ニ新地裏町迄取廣メ該營業免許地ト相定候條夫々達方取計  
フヘシ

○明治二十六年七月八日北海道廳訓第二百八號小樽警署宛

古平郡古平貸座敷免許地ハ自今新地町五番地ヨリ同町二十七番地迄ノ間ト定メ候條取締ヘ達方取  
計フヘシ

○明治二十六年七月八日北海道廳訓第二百八號小樽外六郡役所宛

古平郡古平貸座敷免許地ハ自今新地町五番地ヨリ同町二十七番地迄ノ間ト定ム

○明治二十六年十月二十五日北海道廳訓第二百九十八號釧路警署宛

厚岸郡厚岸貸座敷ハ自今別紙圖面ノ個所ヲ以テ假免許地區域ト定メ候條分署長及營業者ヘ達方取  
計フヘシ

(圖面ハ略ス)

○明治二十六年十月二十五日北海道廳訓第二百九十八號釧路外十二郡役所宛

厚岸郡厚岸貸座敷ハ自今別紙圖面ノ個所ヲ以テ假免許地區域ト定ム

(圖面ハ略ス)

○明治二十六年十一月十八日北海道廳告示第七十六號

千島國沙那郡留別村字「トセツブ」ヲ貸座敷娼妓免許地ト定ム

○明治十七年九月三十日根室縣甲第五十九號布達

藝人取締規則別紙ノ通相定メ來ル十月十五日ヨリ施行ス

但現營業者ハ此規則ニ依リ同日限リ願出鑑札ヲ受クヘシ

右布達候事

(別紙)

藝人取締規則

第一條 藝人(俳優軍談落語曲馬白拍子道化踊等總テ劇場寄席觀物場等ニ於テ營業ヲ爲ス者)タラントスル者ハ戶長(戶長アラサ  
ル地ハ郡長)ノ與印ヲ受ケ所轄

警察署又ハ分署ヘ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 廢業スルトキハ第一條ノ手續ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ヘ届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第三條 屬籍住所氏名ヲ轉換シ又ハ鑑札ヲ遺失毀損シタルトキハ第一條手續ニ從ヒ所轄警察署又  
ハ分署ヘ願出テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ

但遺失毀損ニ係ルモノハ與印ヲ要セス

第四條 第一條第三條ノ場合ニ於テハ鑑札手数料トシテ金拾錢ヲ納ムヘシ

第五條 夜間十二時ヲ過キ演劇又ハ講談等ヲ爲スヘカラス

但小屋掛ニ係ルモノハ日没限トス

第六條 興行ノ許可ヲ得サル場所ニ於テ演劇講談等ヲ爲スヘカラス

第七條 猥褻又ハ世安ニ妨害アルノ所作講談等及劇場ニアラサル場所ニ於テ演劇類似ノ所作ヲ爲

スヘカラス

第八條 寄席ニ於テ燈火ヲ消シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ客席ヲ暗黒ニスヘカラス

第九條 寄席ニ於テ來客ヘ圖ヲ賣リ當リ圖ト唱ヘ物品ヲ與フヘカラス

第十條 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○明治二十一年三月三十一日北海道廳令第二十一號

藝妓取締規則左ノ通相定メ本年五月一日ヨリ施行ス

但明治十六年<sup>七</sup>函館縣甲第三十四號布達及明治十八年<sup>三</sup>札幌縣甲第十號布達明治十六年<sup>十一</sup>根室

縣甲第五十三號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

藝妓取締規則

第一條 藝妓營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ族籍住所氏名年齡藝名等級ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 族籍住所氏名藝名等級ヲ變換シ及ヒ鑑札ヲ遺失毀損シタル時ハ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ所轄警察署又ハ分署ニ願出鑑札ノ書換ヲ受クヘシ

第三條 免許鑑札ハ營業時間常ニ携帯スヘシ

第四條 免許鑑札ハ貸借又ハ讓與スルヲ得ス

第五條 廢業スル者ハ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第六條 藝妓ハ便宜組合ヲ設ケ同業中ヨリ世話人一名ヲ撰舉シ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ

受クヘシ

第七條 藝妓ハ娼妓兼業ノ者ニアラサレハ貸座敷ニ寄留若クハ宿泊スルヲ得ス

第八條 此規則第一條第二條第三條第四條第七條ニ違背スル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○明治十五年六月二十六日札幌縣甲第五十九號布達

玉突大弓揚弓室内射的吹矢玉轉ハシ投扇等ノ業ヲ營マント欲スル者ハ郡區役所ヘ願出許可ヲ得ヘシ此旨布達候事

○明治十七年二月十六日札幌縣丙第十八號<sup>警察本</sup>達<sup>分署宛</sup>(託鉢免許方並託鉢者心得ノ件第七類社寺ノ部<sup>神官ニ出ツ</sup>僧侶ニ出ツ)

○明治十七年二月十八日函館縣甲第三號布達

明治十六年<sup>十二</sup>第五十號布告古物商取締條例細則左ノ通相定候條此旨布達候事

古物商取締條例細則

第一條 古物商取締條例第一條ノ商業ヲ爲サントスルモノハ其願書ニ組合取締人又ハ月番加印ノ上左ノ雛形ノ鑑札ヲ製シ所轄警察署ヘ願出檢印ヲ受ケ店頭ニ掲クヘシ

但シ地方税ニ關シ看板ヲ掲クルモノハ其看板ヲ以テ該鑑札ニ換用シ檢印ヲ受ク可シ

檢印	住所
○何營業	氏名
寸	三

第二條 古物商ニシテ床店又露店(刀劍商ヲ除ク)ニテ販賣シ又ハ行商ヲ爲ントスルモノ若クハ傭人又ハ子弟ニシテ其業ヲ爲ントスル者ハ第一條ノ手續ヲ以テ左ノ雛形ノ鑑札ヲ製シ所轄警察署ノ檢印ヲ受ケ床店及ヒ露店ニ於テハ店頭ニ標出シ行商ハ顯ハニ携帯ス可シ

雇人ノ携帯スル鑑札ハ雇主氏名ヲ肩書スヘシ

警察署檢印	住所	氏名	行	商	床店及露店
			市 五寸	市 二寸	市 一尺
		明治何年何月 何年何ヶ月			市 三寸

第三條 營業鑑札ヲ貸借スルヲ許サス

第四條 廢業轉店改姓名又ハ鑑札ヲ遺失毀損或ハ其他ノ事故ニ依リ失却シタルトキハ第一條ノ手續ニ循ヒ鑑札ノ消印又ハ檢印ヲ受ク可シ

第五條 第一條第二條ノ手續ニ依リ營業ノ許可ヲ受ケタルモノ第四條ノ場合ニ依リ鑑札ニ消印又ハ檢印ヲ受ケタルトキハ其旨速ニ所轄郡區役所ヘ届出ヘシ

第六條 古物商ハ一市區ヲ一組トナシ組合ヲ設ケ適宜取締人又ハ月番ヲ置キ其取締人又ハ月番ハ組合中ノ取締ヲ爲ス可シ(十七年八月函館縣甲第三十號ヲ以テ本條ノ通改正)

第七條 取締人又ハ月番ハ組合中ヨリ之ヲ公撰シ該姓名ハ所轄警察署ヘ届出ツ可シ但組合ノ爲メニ要スル總テノ費用ハ勿論警察署ニ於テ便宜示達書ヲ活版ニ付シタル費用等ハ

各組合ノ協議ヲ以テ支辨スヘキモノトス(十七年八月函館縣甲第三十號ヲ以テ但本條ノ通改正)

第八條 古物商ノ營業ヲ營ントスルモノアルトキ取締人又ハ月番ニ於テ組合ニ入ルヲ拒ムヲ得ス

第九條 取締人又ハ月番ニ於テハ警察署ヨリ示達スル贓物及ヒ盜罪詐欺取財賭博ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタルモノ、住所姓名ハ速ニ組合中ヘ通報ス可シ

第十條 古物商ハ左ノ各種ノ帳簿ヲ製シ示達帳ノ外ハ新調ノ都度所轄警察署ノ檢印ヲ受ク可シ

第一 物品買入明細帳  
此帳簿ニハ物品買入又ハ讓受ケタルトキ第一號書式ニ準シ記載ス可シ但古物商取締條例第四條但書及第六條ノ場合ニ於テ警察官ノ認可ヲ得タルトキハ其檢印ヲ受ク可シ第二項第三項亦全シ

第二 物品讓渡明細帳  
此帳簿ニハ物品賣渡又ハ讓渡シタルトキ第二號書式ニ準シ記載ス可シ

第三 物品預帳  
此帳簿ニハ物品ヲ預リタルトキ其都度第三號書式ニ準シ記載ス可シ

第四 示達帳  
此帳簿ニハ贓物其外示達セラレタルモノヲ記入順次綴込ム可シ

第十一條 商品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキハ一日前特別取締ニ付セラレタル者ハ三日前又他府縣ヨリ受取タルトキハ其到着ノ翌日マテニ所轄警察署ヘ届出可シ

第二條 古物商ニシテ床店又露店(刀劍商ヲ除ク)ニテ販賣シ又ハ行商ヲ爲ントスルモノ若クハ傭人又ハ子弟ニシテ其業ヲ爲ントスル者ハ第一條ノ手續ヲ以テ左ノ雛形ノ鑑札ヲ製シ所轄警察署ノ檢印ヲ受ケ床店及ヒ露店ニ於テハ店頭ニ標出シ行商ハ顯ハニ携帯ス可シ

雇人ノ携帯スル鑑札ハ雇主氏名ヲ肩書スヘシ

警察署檢印	
何 商	住 所
氏 名	行 商
明治何年何月 何年何ヶ月	市 五寸 市 二寸
	床店及露店 中一尺 中三寸

第三條 營業鑑札ヲ貸借スルヲ許サス

第四條 廢業轉店改姓名又ハ鑑札ヲ遺失毀損或ハ其他ノ事故ニ依リ失却シタルトキハ第一條ノ手續ニ循ヒ鑑札ノ消印又ハ檢印ヲ受ク可シ

第五條 第一條第二條ノ手續ニ依リ營業ノ許可ヲ受ケタルモノ第四條ノ場合ニ依リ鑑札ニ消印又ハ檢印ヲ受ケタルトキハ其旨速ニ所轄郡區役所ヘ届出ヘシ

第六條 古物商ハ一市區ヲ一組トナシ組合ヲ設ケ適宜取締人又ハ月番ヲ置キ其取締人又ハ月番ハ組合中ノ取締ヲ爲ス可シ(十七年八月函館縣甲第三十號ヲ以テ本條ノ通改正)

第七條 取締人又ハ月番ハ組合中ヨリ之ヲ公撰シ該姓名ハ所轄警察署ヘ届出ツ可シ但組合ノ爲メニ要スル總テノ費用ハ勿論警察署ニ於テ便宜示達書ヲ活版ニ付シタル費用等ハ

各組合ノ協議ヲ以テ支辨スヘキモノトス(十七年八月函館縣甲第三十號ヲ以テ但本條ノ通改正)

第八條 古物商ノ營業ヲ營ントスルモノアルトキ取締人又ハ月番ニ於テ組合ニ入ルヲ拒ムヲ得ス

第九條 取締人又ハ月番ニ於テハ警察署ヨリ示達スル贓物及ヒ盜罪詐欺取財賭博ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタルモノ、住所姓名ハ速ニ組合中ヘ通報ス可シ

第十條 古物商ハ左ノ各種ノ帳簿ヲ製シ示達帳ノ外ハ新調ノ都度所轄警察署ノ檢印ヲ受ク可シ

第一 物品買入明細帳  
此帳簿ニハ物品買入又ハ讓受ケタルトキ第一號書式ニ準シ記載ス可シ但古物商取締條例第四條但書及第六條ノ場合ニ於テ警察官ノ認可ヲ得タルトキハ其檢印ヲ受ク可シ第二項第三項亦全シ

第二 物品讓渡明細帳

此帳簿ニハ物品讓渡又ハ讓渡シタルトキ第二號書式ニ準シ記載ス可シ

第三 物品預帳

此帳簿ニハ物品ヲ預リタルトキ其都度第三號書式ニ準シ記載ス可シ

第四 示達帳

此帳簿ニハ贓物其外示達セラレタルモノヲ記入順次綴込ム可シ

第十一條 商品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキハ一日前特別取締ニ付セラレタル者ハ三日前又他府縣ヨリ受取タルトキハ其到着ノ翌日マテニ所轄警察署ヘ届出可シ



第十二條 他府縣へ運送スル荷物ニハ差出人及請取人ノ住所氏名并其物品ノ類名ヲ標記ス可シ  
第十三條 此規則ニ違犯シタル者ハ古物商取締條例ニ明文アルノ外ハ違警罪ヲ以テ處分セラル可シ

第一號 物品買入明細帳書式

何郡(區)何町(村)番地  
賣主(又ハ)讓主 氏 名

(特別取締ニ付セラレタル期限内ハ年齢ヲ記入スヘシ)  
(本人身元詳ナラサルトキハ別ニ身元詳ナル證人ヲ立其住所氏名ヲ列記スヘシ)

年月日 特別取締ニ付セラレタル期限内ハ時刻ヲ記入スヘシ

價金何拾圓也

一何色羽二重紋付男小袖

何 枚

但シ紋何々何ヶ所裏何色袖口何

價金何拾何圓何拾錢也

一何色縮緬女小袖

何 枚

但シ紋何々ヶ所胴裏何裾何袖口何

價金何百何圓也

一金側片硝子懷中時計

何 箇

但シ器械何國製番號何番何十號附屬品何

價金何拾何圓也

一黒塗八寸重箱

同

但シ朱塗蓋金箱ニテ何々ノ紋付又ハ金梨子地何々ノ蒔畫アリ

幾品

第二號 物品讓渡明細帳

何郡(區)何町(村)何番地

買主(又ハ)讓受主 氏 名

(特別取締ニ付セラレタル期限内ハ年齢ヲモ記入スヘシ)

年月日 特別取締ニ付セラレタル期限内ハ時刻ヲモ記入スヘシ

價金何拾何圓也

一何色羽二重紋付男小袖

何 枚

價金何拾何圓也

一黒塗八寸重箱

何 箇

價金何拾何圓也

一何々

幾品

第三號 物品預帳書式

何郡(區)何町(村)何番地

預主氏名

(條例第六條ニ依リ警察官ノ許可ヲ受ケ物  
品ヲ預リタルトキハ其旨ヲ記入スヘシ)

年月日

一何色羽二重紋付小袖

但シ火盜難保護ノ爲預ル

一黒塗八寸重箱

但シ何々爲メ預ル

一何々

何品

第四號 他府縣下運送品届書式

記

一古着荷物

何箇

一古道具類荷物

同

但シ他府縣下何郡何町(村)氏名(送ル荷  
ヨリ着)

右荷物何便ヲ以テ何月何日到着候間(特別取締ニ付セラレタルモノ他府縣下ニ物品ヲ  
運送セントスルトキハ其品目明細書ヲ添フヘシ)此段御届仕候也

何區(郡)何町(村)何番地

年月日

何商氏

名印

何警察署

御中

○明治十七年二月十九日函館縣番外達警察本署

今般甲第三號古物商取締條例細則布達候ニ付テハ其取扱手續左ノ通可相心得此旨相達候事

古物商取締條例細則取扱手續

第一條 警察署ニ於テ細則第一條第六條ニ依リ營業ヲ許可シ鑑札ノ檢印又ハ消印ヲ爲シタルトキ

ハ第一號ノ書式ノ簿冊ヲ製シ置キ時々記載スヘシ

第二條 警察署ニ於テハ盜罪詐欺取財賭博ノ罪及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケ

タルモノ、住所姓名簿ヲ製シ置キ贓物簿ト共ニ取締人又ハ月番ニ時々之ヲ示達スヘシ

第三條 細則第六條但書ニ依リ組合ヲ設ケ難キ旨届出タルトキハ其理由ヲ審案シ之ヲ許可スヘシ

但シ第二條ノ手續ハ便宜示達スヘシ

第四條 古物商取締條例第六條第十四條ノ犯則者アルトキハ訊問書ニ證憑書類ヲ添ヘ檢事ニ告發

スヘシ

第五條 古物商取締條例第十五條第十九條ニ依リ特別取締ニ付スルモノ及ヒ營業ノ禁止又ハ停止

ヲ要スルト認ルモノハ其事由本署ヲ經テ縣令ヘ具申スヘシ

第六條 第一條營業者ノ異動及ヒ第四條犯則者ノ犯狀及ヒ姓名ハ前月分翌月七日迄ニ警察本署ヲ

經テ縣令ヘ具申スヘシ

第一號 帳簿雛形 表紙

年月日  
古物商營業者鑑札下付人名簿  
何警察署

帳簿雛形

許可年月日	鑑札番號	廢業年月日	營業種類	族籍住所	姓名年齡
下付年月日					

○明治十七年五月五日根室縣甲第三十號布達

明治十六年<sup>十二</sup>第五十號ヲ以テ古物商取締條例布告相成候ニ付テハ同條例細則別冊ノ通制定ス  
但本文ニ屬スル從前布達々等ハ總テ廢止ス現營業者ハ此規則ニ依リ更ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

(別冊)

古物商取締條例細則

第一條 古物商ノ免許ヲ得ントスル者ハ其願書ニ組合取締加印ノ上戸長(戸長アラサ  
ル地ハ郡長)ノ與印ヲ受ケ

所轄警察署又ハ分署へ願出免許鑑札ヲ受クヘシ(十九年五月根室支廳甲第  
八號ヲ以テ本條ノ通改正)

但鑑札手数料トシテ金拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 屬籍住所氏名ヲ轉換シ又ハ鑑札ヲ遺失毀損シタルトキハ第一條ノ手續ニ依リ(遺失毀損ノト  
キハ戸長ノ與  
印ヲ要  
セス)警察署又ハ分署へ願出テ鑑札ノ書換ヲ受クヘシ(同上)

但鑑札書換手数料トシテ金拾錢ヲ納ムヘシ

第三條 廢業シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ鑑札ヲ返納スヘシ(同上)

第四條 古物商ハ左ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

○何商 □ 組合取締  
ノ格印 住所 長一尺五寸  
屋號 巾六寸  
氏名

第五條 古物商ハ警察署又ハ分署一管内ヲ一組トシ組合毎ニ取締一名乃至二名ヲ置キ組合ノ諸取締ヲ爲スヘシ

但土地ノ狀況營業者ノ多寡ニ依リ組合ヲ設ケ難キ事狀アルモノハ所轄警察署又ハ分署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ(同上)

第六條 組合取締ヲ撰定シタルトキハ其屬籍住所氏名年齢等ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ(同上)

但其任ニ適セサルモノト見認ムルトキハ改撰セシムルコトアルヘシ

第七條 組合取締ハ組合名簿ヲ備ヘ置キ住所屋號氏名年齢ヲ詳記シ其實印ヲ取り増減變更毎ニ之ヲ加除スヘシ

第八條 組合取締ハ取締ニ關スル諸達及贓物ノ品觸等組合中へ送達シ其證印ヲ取り警察署又ハ分署ニ返納スヘシ

第九條 古物商ハ左ノ各種ノ帳簿ヲ製シ第一第二第三ノ帳簿ハ紙數ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ其紙數ヲ増減スルトキ亦同シ

一 物品<sup>買入</sup>讓受<sup>交換</sup>明細帳

此帳簿ニハ物品買入又ハ讓受交換シタルトキ第一號書式ニ準シ記載シ實印ヲ取り置クヘシ但條例第四條但書及ヒ第六條ノ場合ニ於テ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ其檢印ヲ受クヘシ第二第三ノ帳簿モ亦同シ

二 物品讓渡明細帳

此帳簿ニハ物品賣渡又ハ讓渡シタルトキ第二號書式ニ準シ記載スヘシ

三 物品預帳

此帳簿ニハ物品ヲ預リタルトキ第三號書式ニ準シ記載スヘシ

四 品觸帳

此帳簿ニハ品觸全文并到達シタル年月日時ヲ記載スヘシ

第十條 古物商ニシテ床店又ハ露店(刀劍商ヲ除ク)ニテ販賣若クハ行商ヲ爲サントスル者ハ第一條ノ手續ニ依リ左ノ雛形ノ木札ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ床店及露店ニ於テハ店頭ニ掲出シ行商ハ顯ハニ携帯スヘシ

一 但廢業シタルトキハ消印ヲ受クヘシ

雇人ノ携帯スル鑑札ハ雇主ノ氏名ヲ肩書スヘシ

<input type="checkbox"/> 警察署分署ノ檢印 ○ 何商 氏名 年齢 住所 行商 床店及露店 <small>堅一尺二寸 巾四寸</small>	<input type="checkbox"/> 警察署分署ノ檢印 住所 行商 <small>堅五寸 巾二寸五分</small>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------

第十一條 前條ノ木札ヲ遺失毀損シ若クハ轉店改姓名等ノ節ハ第二條ノ手續ニ依リ所轄警察署又ハ分署へ願出テ更ニ檢印ヲ受クヘシ

第十二條 條例第四條第五條證人ヲ要スヘキ物品ヲ買受讓受又ハ交換シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第十三條 條例第九條ニ依リ他府縣ニ運送スル物品ノ目錄ハ其積出シ二日以前ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ他府縣ヨリ受取リタルトキモ亦到着後二日以内ニ届出ツヘシ

第十四條 他府縣へ運送スル荷物ニハ差出人及受取人ノ住所氏名并其物品ノ類名ヲ標記スヘシ

第十五條 物品ノ内品觸ニ類似スルモノアル歟又ハ賣主讓渡主ノ舉動不審ナル歟若クハ疑ハシキ物品ト見認ムル時ハ速ニ警察署分署又ハ巡行ノ巡查ニ告知スヘシ

第十六條 此規則ニ違背シタル者古物商取締條例ニ明文アルノ外違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ  
(第一號物品讓受明細帳書式)

何郡何町(村)何番地

賣主又ハ讓主 氏

名印

特別取締ニ付セラレタル期限内ハ年齢ヲモ記入ス  
本人身元詳カナラサルトキ別ニ身元詳ガナル證人ヲ立  
テルトキハ其住所氏名ヲ列記シ實印ヲ取り置ケ可シ警  
察官巡査ノ認可ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ記入スヘシ

何年月日 特別取締ニ付セラレタル  
期限内ハ時刻ヲ記入ス

一元價金何拾圓何拾錢也

一何色何地質何縞或ハ紋付男小袖

但紋丸ノ中ニ何々何ヶ所  
裏何色袖口何

一元價金、、、、、、

一銀側片硝子懷中時計

但器械何ノ番號何千何百號  
付屬品何々

一元價金、、、、、、

一何塗何寸重箱

但裏何塗蓋何ニテ何摸樣  
又ハ何々ノ時給アリ

一元價金、、、、、、

何 箇

何 箇

何 枚

一何品、、、、、、

〆何品

(第二號物品讓渡明細帳書式)

何年月日 特別取締ニ付セラレタル  
期限内ハ時刻ヲ記入ス

一元價金何拾圓何拾錢也

一何地質何紋付男小袖

一元價金、、、、、、

一黑塗何寸重箱

一元價金、、、、、、

一何品、、、、、、

〆何品

(第三號物品預帳書式)

何郡何町(村)何番地

預ケ主 氏

名印

何年月日

一何色何地質何紋付縞何品

何 枚

買主讓主受主詳カニスルコトヲ得タルトキハ住所氏名  
年齢ヲ記載スルコト第一號書式ニ同シ

一 何塗何寸重箱	何	箇
一 〃〃〃〃〃〃〃〃	〃	〃
〃何品	何々ノ爲メ預ル	
(第四號物品他府縣運送受取届書式)		
一 古着荷物	何	箇
内		
何々羽織	何	枚
何々綿入	何	枚
何々裕	何	枚
〃何品		
一 古道具類荷物	何	箇
内		
何々	〃	〃
〃〃〃〃	〃	〃
〃何品		

右荷物何年何月何日何便ヲ以テ何府何縣何國何郡何區何町村何番地某(へ差立候間ヨリ到着候間別紙送狀相)

添)此段御届申上候也

年月日

何郡何町(村)何番地  
何商 氏

名印

何警察署(分署)  
御中

○明治十七年五月五日根室縣丁第二十二號達警察本署警  
察署分署宛  
古物商取締條例取扱手續別冊ノ通相定候條此旨相達候事

(別冊)

古物商取締條例取扱手續

第一條 古物商ノ免許ヲ得ンコトヲ願出テタルトキハ其願書ヲ審査シ差支ナキ者ハ之ヲ許スヘシ  
但特別取締期限中廢業シタル者又ハ廢業スルト否トヲ問ハス其商家ニ同居スル者ナルトキハ  
免許スヘカラサルモノニ付願書ヲ却下スヘシ

第二條 免許鑑札ヲ下付スルトキハ其族籍住所屋號氏名年齢及鑑札番號等第一號書式ノ帳簿ニ記  
載シ成規ノ鑑札料ヲ徴收シ本人ニ下付スヘシ

第三條 細則第五條但書ニ依リ組合ヲ設ケ難キ旨願出タルトキハ其土地ノ狀況ヲ審査シ之ヲ許否  
スヘシ

第四條 細則第九條ニ依リ帳簿ヲ持參シタルトキハ年月日及ヒ署名ヲ記シ署印ヲ捺シ下渡スヘシ

第五條 細則第十條第十一條ニ依リ願出タルトキハ住所氏名年齢年月日等ヲ帳簿ニ記載シ烙印ヲ與フヘシ

但廢棄ニ屬シタル看板ハ消印スヘシ(第二號書式)

第六條 盜難訴等ノ中品觸ヲ要スヘキモノト認ムルトキハ其遭難ノ年月日時物品ノ模様恰好寸法員數等ヲ詳記シ組合取締ニ送達スヘシ(第三號書式)

第七條 左ノ各項一ヶ月毎ニ取纏メ翌月五日迄ニ警察本署(分署ハ所屬警察署ヲ經由シ)ニ報告スヘシ

一 條例第九條ニ依リ届出ヲ爲シタルトキ物品ノ箇數及ヒ其差立人受取人ノ住所氏名等

二 條例第十一條ニ依リ品觸類似ノ品ト認メ届出タルトキ又ハ他ノ場合ニ於テ發見シタルトキ其品柄及ヒ發見ノ事由

三 細則第一條第二條第三條ノ開廢業及第十條第十一條ニ依リ檢印ヲ與ヘ又ハ廢業ヲ届出タルトキハ其住所氏名年齢等

第八條 分署ニ於テ前條ノ處分ヲ爲ストキハ所屬警察署ノ認可ヲ得ヘシ

第九條 條例第九條第二項ノ處分ヲ爲ストキハ警部警部補(代理巡查ヲ含蓄ス)之ヲ爲スヘシ

第十條 警察署分署ニ於テハ毎月一回以上署員ヲシテ古物商ノ店舗ニ臨ミ帳簿ヲ檢査シ條例ニ違背セサルヤ否ヲ視察シ其證トシテ帳簿ニ認印スヘシ

但特別取締期限中ノ者ハ毎月二回以上之ヲ爲スヘシ

第十一條 條例第四條第六條ノ場合ニ於テハ精密取調不都合ナキトキハ之ヲ許可シ其證トシテ帳

簿ノ品目ニ檢印スヘシ

第十二條 條例第十六條第五項ニ依リ帳簿ノ檢査ヲ爲シタルトキハ年月日ヲ記シ署長(分署ハ分署長)之ニ檢印スヘシ

第十三條 條例第十六條第六項ノ場合ニ於テハ篤ト其事實ヲ取糺シ宿泊又ハ同居人叢ニ盜罪詐偽取財並刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者其他不都合ノ所爲アル者ハ認可スヘカラス

但旅行ヲ認可シタルトキハ旅行地ノ警察署又ハ分署ニ通報スヘシ

第十四條 條例第十八條ノ場合ニ於テハ其品行貧富ヲ調査シ其如何ニ依リ罰金ヲ納完シ若クハ輕禁錮ニ換ユル迄ノ間留置スルコトヲ得(第五號書式)

第十五條 條例第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰スヘキモノト認ムルトキハ犯罪取扱手續内則ニ依リ處分スヘシ

第十六條 條例ニ違背シ處斷ヲ受ケタル者アルトキ條例第十五條第十九條ニ依リ處分スヘキモノト認ムルトキハ意見ヲ付シ警察本署長(分署ハ所屬警察署ヲ經由シ)ニ具申スヘシ(雛形略ス)

○明治十七年九月二日札幌縣甲第五十四號細則  
本年一月第三號布達古物商營業取締規則相廢シ更ニ古物商取締條例細則別冊之通相定ム  
(別冊)

古物商取締條例細則

第一條 古物商營業ヲ爲ント欲スル者ハ取締連署戸長(戸長アラサル地ハ郡區長)ノ與印ヲ受タル書面ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ(二十年四月北海道廳令第三十五號ヲ以テ本條ノ通改正)

但廢業セントスルトキハ本條ノ手續ニ依リ鑑札ヲ返納スヘシ

第二條 古物商ハ屬籍氏名ヲ轉換シ又ハ鑑札ヲ紛失毀損シタルトキハ其事由ヲ具シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ

第三條 鑑札ハ貸借又ハ讓渡等ヲ許サス

第四條 古物商ハ左ノ雛形ノ看板ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ク之レヲ店頭ニ掲クヘシ但廢業シタル時ハ消印ヲ受クヘシ

木質	警察署又ハ分署檢印	郡區町村番地
○	何々商	屋號
適宜	氏名	
		竪二尺五寸
		巾七寸

第五條 古物商ハ便宜組合ヲ設ケ毎組一名若クハ數名ノ取締人ヲ選定シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ其改選シタルトキ亦同シ

但地方ノ便宜ニ依リ組合ヲ分合スルヲ得ルト雖トモ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

第六條 取締人ハ組合名簿ヲ製シ住所屋號氏名年齢ヲ記載シ實印ヲ取り置キ其異動アル毎ニ訂正スヘシ

第七條 取締人ハ取締ニ關スル諸達及ヒ贓物ノ品觸等組合中へ送達シ證印ヲ取り置クヘシ

第八條 古物商ハ左ノ各種ノ帳簿ヲ製シ第一第二第三ノ帳簿ハ紙數ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ其紙數ヲ増減スルトキ亦同シ

第一 物品(買入讓受交換)明細帳

此帳簿ニハ物品買入又ハ讓受交換シタルトキ第一號書式ニ準シ記載シ置クヘシ條例第四條但書及第六條ノ場合ニ於テ警察官ノ認可若シクハ許可ヲ受ケタルトキハ其檢印ヲ受クヘシ第二第三ノ帳簿モ亦同シ

第二 物品(賣讓渡)明細帳

此帳簿ニハ物品賣渡又ハ讓渡シタルトキ第二號書式ニ準シ記載スヘシ

第三 物品預帳

此帳簿ニハ物品ヲ預リタルトキ第三號書式ニ準シ記載スヘシ

第四 品觸帳

此帳簿ニハ條例第十條ニ依リ品觸ノ全文并到達シタル年月日時ヲ記載スヘシ

第九條 古物商ニシテ床店又ハ露店(刀劍商ヲ除ク)ニテ販賣若クハ行商ヲ爲サントスル者ハ第一條ノ手續ニ準シ左ノ雛形ノ木札ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ床店及露店ニ於テハ店頭ニ掲出



シ行商ハ顯ハニ携帶スヘシ  
但廢業シタルトキハ消印ヲ受クヘシ

警察署又ハ分署檢印  
雇人ノ携帶スルモノハ雇主ノ氏名ヲ肩書スヘシ

木質  
番號

何商

警察

郡區町村番地

氏名

年齡

行

商

巾 五寸五分

床店及露店

巾 一尺二寸

第十條 條例第九條ニ依リ他府縣ニ運送スル物品ノ目錄ハ其積出シ二日以前第四號書式ニ準シ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ他府縣ヨリ受取タルトキハ到着後二日以内ニ届出ヘシ

第十一條 他府縣ヘ運送スル荷物ニハ差出人及受取人ノ住所氏名并其物品ノ類名ヲ標記スヘシ

第十二條 古物商ハ品類ニ類似スルモノアル歟又ハ賣主讓主ノ舉動不審ナル歟若クハ疑ハシキ物品ト見認タル時ハ最寄警察署又ハ分署若クハ巡行ノ巡查ニ密告スヘシ

第十三條 此規則ニ違背シタル者條例ニ明文アルノ外ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

第一號物品讓受明細帳書式

買入  
交換

何郡(區)何町(村)何番地

賣主又ハ讓主 氏名

名印

特別取締ニ付セラレタル期限内ハ年齡ヲモ記入ス  
本人身元詳カナラサルトキ別ニ身元詳カナル證人ヲ立  
タルトキハ其住所氏名ヲ列記シ實印ヲ取リ置ク可シ警  
察官巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ其認印ヲ受置クヘシ

何年月日 特別取締ニ付セラレタル  
期限内ハ時刻ヲ記入ス

一元價金何拾圓何拾錢也

一元價金何拾圓何拾錢也

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

一元價金、、、、、

第二號物品讓渡明細帳書式

何年月日 特別取締ニ付セラレタル  
期限内ハ時刻ヲ記入ス

一元價金何拾圓何拾錢也

一元價金何拾圓何拾錢也

一元價金何拾圓何拾錢也

一元價金何拾圓何拾錢也

一元價金何拾圓何拾錢也

一元價金何拾圓何拾錢也

一元價金何拾圓何拾錢也

一元價金何拾圓何拾錢也

一元價金何拾圓何拾錢也

一元價金何拾圓何拾錢也

一元價金何拾圓何拾錢也

買主讓主受主詳カニスルコトヲ得タルトキハ住所氏名年  
齡ヲ記載スルコト第一號書式ニ同シ

何枚

一元價金、、、、

一黑塗何寸重箱

一元價金、、、、

一何品

何品

第三號物品預帳書式

何郡區何町(村)何番地

預ケ主 氏

名印

何年月日

一何色何地質何紋付縞何品

一何塗何寸重箱

一、、、、

何品

何々ノ爲メ預ル

第四號物品他府縣運送受取届書式

記

一古着荷物

何箇

内

何々羽織

何枚

何々綿入

何枚

何々裕

何枚

何品

一古道具類荷物

何箇

内

何々

、、、

何品

右荷物何年何月何日何便ヲ以テ何府縣何國何郡區何町村何番地何某(ハ差立候間ヨリ到着候間別紙送狀相添)此段御届仕候也

何郡區何町(村)何番地

年月日

何商氏

名印

何警察署(分署)

御中

○明治十七年九月二日札幌縣丙第七十三號達警察署警察分署宛

本年一丙第八號達古物商取締手續相廢シ更ニ古物商取締條例取扱手續別紙之通相定ム

古物商取締條例取扱手續

- 第一條 古物商營業願書ヲ差出シタルトキハ篤ト取調不都合ナキ者ハ許可スヘシ(十九年十二月成第(四)號達ヲ以テ本條改正)
- 第二條 古物商營業免許シタルトキハ願書ニ指令ヲナサス鑑札ヲ下付スヘシ
- 第三條 警察署又ハ分署ニ於テハ部内古物商名簿ヲ製シ其屬籍住所屋號氏名ヲ記載シ異動アル毎ニ訂正スヘシ(同上)
- 第四條 細則第八條ニ依リ帳簿ヲ差出シタルトキハ表面ニ年月日及ヒ署名ヲ記シ検印ヲ押捺スヘシ
- 第五條 細則第九條ニ依リ行商願出タルトキハ行商名簿ニ其屬籍住所屋號氏名木札ノ番號ヲ記載シ許可スヘシ
- 第六條 條例第五條第三項第九條第二項第二十一條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ届出ヘシ
- 第七條 盜難ニ罹リタル物品中品觸ヲ要スルモノハ其遭難ノ年月日時物品ノ形狀ヲ詳記シ取締人ニ下付スヘシ
- 第八條 前條ノ物品中若シ他ノ部内營業者ニ品觸ヲ要スヘキモノト認ムルトキハ物品目錄ヲ他ノ警察署又ハ分署ヘ送致スヘシ
- 第九條 條例第十六條第六項ノ場合ニ於テハ其事實ヲ取糺シ若シ不都合ノ所爲アルトキハ認可スヘカラス且他ノ部内ニ旅行ヲ認可シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ通報シ取締ヲナスヘシ
- 第十條 條例第十三條ニ依リ帳簿ヲ調査セシムル爲メ便宜專務者ヲ置キ検査セシムヘシ

但検査シタルトキハ其帳簿ニ年月日ヲ記シ検印スヘシ

第十一條 條例第十五條第十九條ニ依リ處分スヘキモノハ意見ヲ附シ縣令ニ具狀スヘシ

○明治十七年五月七日根室縣甲第三十二號布達

本年三月第九號布告質屋取締條例第十八條ニ依リ細則別冊ノ通り相定メ本月十五日ヨリ施行ス但本則ニ屬スル從前ノ布達等ハ總テ廢止ス

質屋取締條例細則

- 第一條 質屋ノ免許ヲ得ントスル者ハ其願書ニ組合取締加印ノ上戸長(戸長アラサ)ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ(十九年五月根室支廳甲第九號布達ヲ以テ本條ノ通り改正)
- 但鑑札手數料トシテ金拾錢ヲ納ムヘシ
- 第二條 族籍住所氏名ヲ轉換シ又ハ鑑札ヲ遺失毀損シタルトキハ第一條ノ手續ニ依リ(遺失毀損ノトキハ)警察署又ハ分署ヘ願出テ鑑札ノ書換ヲ受クヘシ但鑑札書換手數料トシテ金拾錢ヲ納ムヘシ(同上)
- 第三條 廢業シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出テ鑑札返納スヘシ(同上)
- 第四條 質屋ハ左ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

○ 質屋 □ 組合取締ノ烙印 住所 屋號 氏名

長一尺五寸 巾六寸

第五條 質屋ハ警察署又ハ分署一管内ヲ一組トシ組合毎ニ取締一名乃至二名ヲ置キ組合ノ諸取締ヲ爲スヘシ但土地ノ狀況營業者ノ多寡ニ依リ組合ヲ設ケ難キ事情アルモノハ所轄警察署又ハ分署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ(同上)

第六條 組合取締ヲ撰定シタルトキハ其族籍住所氏名年齢等ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ(同上)

但其任ニ適セサルモノト認ムルトキハ改撰セシムルコトアルヘシ

第七條 組合取締ハ組合名簿ヲ備ヘ置キ住所屋號氏名年齢ヲ詳記シ其實印ヲ取り増減變更毎ニ之ヲ加除スヘシ

第八條 組合取締ハ警察署又ハ分署ヨリ示達セラレタル品觸等ヲ組合中へ送達シ其證印ヲ取り其署ニ返納スヘシ

第九條 質屋ハ自宅外ニ於テ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

第十條 條例第二條質物臺帳第九條流質物賣拂帳ハ第一號第二號書式ニ準シ記載シ條例第六條ノ場合ニ於テハ警察署へ届出タルノ證トシテ質物臺帳ノ品目ニ檢印ヲ受クヘシ

第十一條 質屋ハ品觸帳ヲ備ヘ置キ條例第十條ニ依リ品觸全文并到達シタル年月日時ヲ記載スヘシ

第十二條 條例第八條ニ依リ差出物品目錄ハ第三號書式ニ準シ記載スヘシ

第十三條 條例第四條第五條證人ヲ要スヘキ物品ヲ質ニ取りタルトキハ三日以内ク所轄警察署又

ハ分署ニ届出ツヘシ

第十四條 此細則ニ違背シタル者質屋取締條例ニ明文アルノ外違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ  
(第一號質物臺帳書式)

何國何町(村)何番地

質置主 氏 名 印

(本人身元詳カナラサル等ニテ別ニ身元詳カナル證人ヲ立テタルトキハ)

(何那何町(村)何番地)

(證人) (氏) 名 印

何年 月 日

(何年月日受戻)

一金何拾圓何拾錢

此質物

何色何地質何縞男拾

壹 枚

但裏何色何地質

何色何地質何紋付女羽織

壹 枚

但、、、、、、、、

一金何圓何拾錢

(何年月日賣拂)

此質物

銀側硝子懷中時計  
但 器械何番號何千何  
百號付屬品何々

壹 個

〆何品

(第二號流質物賣拂帳書式)

何年何月何日質物トシテ受取

質置主 氏

名 印

買主 氏

名 印

郡區何町(村)何番地

何年 月 日

一元價金何拾何圓何拾錢

一元地質何色紋付男女小袖

一元價金、、、、、

一何塗何寸重箱

〆何品

(第三號流質物賣拂目錄書式)

何郡何町(村)何番地

壹 枚

何 個

質置主 氏

名

何年 月 日

一何色地質何編男女綿入

一何色何地質男女帶

一、、、、、

一、、、、、

一、、、、、

一、、、、、

一、、、、、

一、、、、、

〆何品

右物品流質ニ相成候間來ル何日賣却致度此段御届申上候也

何郡何町(村)何番地

質 屋 氏

名 印

何警察署(分署)  
御 中

○明治十七年五月七日根室縣丁第二十三號達警察本署警察署及分署宛  
質屋取締條例取扱手續別冊ノ通相定メ候條此旨相達候事

(別 冊)  
質屋取締條例取扱手續

第一條 質屋ノ免許ヲ得ンコトヲ願出タルトキハ其願書ヲ審査シ差支ナキ者ハ之ヲ許可スヘシ  
但左ノ各項ニ觸ル者ハ免許スヘカラサルモノニ付願書ヲ却下スヘシ  
一 盜罪詐欺取財並刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者  
二 此條例ニ依リ營業ヲ禁止停止セラレタル者ノ家ニ同居スル者  
三 古物商取締條例ニ依リ營業ヲ停止禁止セラレ又ハ特別取締ニ付セラレ若クハ其家ニ同居スル者

第二條 免許鑑札ヲ下付スルトキハ其族籍住所屋號氏名年齢及鑑札番號等第一號書式ノ帳簿ニ記載シ成規ノ鑑札料ヲ徴收シ本人ヘ下付スヘシ細則第二條ノ場合モ亦同シ

第三條 細則第五條但書ニ依リ組合ヲ設ケ難キ旨届出タルトキハ其土地ノ狀況ヲ審査シ之ヲ許可スヘシ

第四條 細則第六條ニ依リ組合取締ヲ選定シタル旨届出タルトキハ其適否ヲ調査シ差支ナキモノハ之ヲ認可スヘシ

第五條 盜難訴等ノ中品觸ヲ要スヘキモノト認ムルトキハ其遭難ノ年月日時物品ノ模様恰好寸法員數等ヲ詳記シ組合取締ニ送達シ速ニ組合中ヘ廻達セシムヘシ

第六條 條例第二條ニ依リ質物臺帳ヲ持參シタルトキハ年月日及ヒ署名ヲ記シ署印ヲ捺シ下渡スヘシ

第七條 條例第五條第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ其事由並品目ヲ警察本署(分署ハ所屬警署ヲ經由シ)ニ報告

スヘシ

第八條 警察署又ハ分署ニ於テハ毎月一回以上署員ヲシテ質屋ノ店舗ニ臨ミ帳簿ヲ検査シ條例ニ違背セサルヤ否ヲ視察シ其證トシテ帳簿ニ認印スヘシ

第九條 條例第八條ニ依リ差出シタル目錄中品觸類似ノ品アルカ又ハ贓物ノ疑アルモノハ一時其物品ヲ差押ユルコトヲ得

第十條 條例第十四條ニ依リ罰セラルヘキ者ト認ムルトキハ犯罪取扱手續内則ニ依リ處分スヘシ

第十一條 條例ニ違背シ處斷ヲ受ケタル者條例第十五條ニ依リ處分スヘキモノト認ムルトキハ意見書ヲ添ヘ警察本署(分署ハ所屬警署ヲ經由シ)ニ具申スヘシ

(雜形略ス)

○明治十七年五月九日函館縣甲第十四號布達

本年三月第九號布告ノ旨ニ依リ質屋取締條例細則別紙之通相定候條此旨布達候事

質屋取締條例細則

第一條 質屋營業ヲ爲サントスル者ハ願書正副二通ヲ製シ組合取締人連署ノ上戸長(戸長アラサル町村ハ郡區長)ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ヘ差出シ許可ヲ受クヘシ

第二條 前條許可ヲ受ケタルモノハ地方税ニ關シ店頭ニ掲クル看板ニ所轄警察署ノ記號及檢印ヲ受クヘシ

第三條 廢業轉居改姓名又ハ看板ヲ毀損或ハ其他ノ事故ニ依リ失却シタルトキハ第一條ノ手續ニ

從ヒ其旨所轄警察署へ届出テ看板ノ消印又ハ記號檢印ヲ受クヘシ

第四條 第一條ノ手續ニ依リ營業ノ許可ヲ受ケタルモノ及第三條ノ場合ニ依リ看板ニ消印又ハ檢印ヲ受ケタルトキハ其旨速ニ所轄郡區役所へ届出ヘシ

第五條 質屋營業人ハ一市區ヲ一組トナシ組合ヲ設ケ一名乃至數名ノ取締ヲ置キ組合中ノ取締ヲナサシムヘシ(十七年八月函館縣甲第三十一號布達ヲ以テ本條ノ改正)

但村落及同業者僅少ニシテ組合ヲ設ケ難キ市區ハ所轄警察署ノ指揮ヲ受クヘシ

第六條 取締ハ組合中ヨリ之ヲ公撰シ其住所氏名年齢身分ヲ記載シ所轄警察署へ届出ヘシ

但シ組合ノ爲メニ要スル總テノ費用ハ勿論警察署ニ於テ便宜示達書ヲ活版ニ付シタル費用等ハ各組合ノ協議ヲ以テ支辨スヘキモノトス(同上)

第七條 取締ハ組合名簿二通ヲ製シ組合中各自ノ住所屋號氏名年齢ヲ記載シ實印ヲ取り其一通ハ所轄警察署へ差出シ一通ハ取締ノ手元ニ備置クヘシ

第八條 警察署ニ於テ取締人中不都合ノ所爲アリト認ルトキハ改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 取締ニ於テハ示達ヲ受ケタル贓物及盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ノ住所姓名ハ速ニ組合中へ通報シ證印ヲ取置クヘシ

第十條 流質物賣捌帳新調ノ節ハ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第十一條 質物臺帳流質物賣捌帳及示達帳ニハ附録ノ通り記載證印ヲ取置クヘシ  
但シ示達帳ノ外ハ許可ヲ得スシテ之ヲ改正シ又ハ分合冊スルヲ許サス

第十二條 此規則ニ違背シタル者ハ質屋取締條例ニ明文アルノ外ハ違警罪ヲ以テ處分セラレヘシ  
(第一號) 質物臺帳書式

何郡(區)何町(村)何番地職業

質入主 氏 名

但シ條例第四五條ニ依リ質物ヲ取りタルトキハ質證主ノ次ヘ其證人又ハ父母後見人雇主ヲ本人同様記載捺印セシム

幾 個枚

明治何年何號

一何々

但シ品柄色合模様紋所記號等ヲ詳記ス

此貸金何圓

何年何月何日質入  
何年何月何日受戻シ或ハ流質

同上

同上

一何々

但シ同上  
右ハ何年何月何日第何號ノ質物何々品ト入換何年何月何日  
何年何月何日受戻或ハ何年何月何日流質

(第二號) 流質物賣捌帳書式

何區(郡)何町(村)何番地職業

買主 氏 名 印

質物臺帳ノ號

一何々

此代價何圓

幾

個枚

右ハ何年何月何日賣拂

(第三號)

示達帳書式

一取締ヨリ示達スル所ノ全文

右何年何月何日到達何日寫ス或ハ編ム

(第四號)

流質物賣拂届書式

別紙目錄ノ流質物來ル何日賣拂候間此段御届仕候也

年月日

何郡(區)何町(村)何番地

質屋氏

名印

何警察署(分署)

御中

目錄書式

記

質物臺帳ノ號

一何々

幾

個枚

何年何月何日流質

同上

一同上

同上

同上

以上

○明治十七年五月九日函館縣番外達警察本署宛  
今般甲第十四號質屋取締條例細則布達候ニ付テハ其取扱手續左ノ通可相心得此旨相達候事

質屋取締條例取扱手續

第一條 警察署ニ於テハ質屋名簿ヲ製シ置キ細則第一條第三條ニ依リ營業ヲ許可シ及看板ノ消印又ハ檢印ヲ爲シタルトキハ其時々登錄スヘシ

但シ營業者分署ノ部内ナルトキハ開廢業異動共其都度該分署ニ通知スヘシ

第二條 警察署(分署部内ニシテ至急ヲ要スルトキハ分署)ニ於テ贓物ノ品觸ヲ要スヘキモノト認ルトキ及ヒ盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ノ住所姓名ハ時々取締人ニ示達シ組合中へ廻達ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第三條 細則第五條ノ但書ニ依リ組合ヲ設ケ難キ旨届出タルトキハ其理由ヲ審按シ之ヲ許可スヘシ

第四條 條例第六條ニ明記アル者ヨリ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シ又ハ流質物賣拂ヲ届出タルトキハ警察署分署ニ於テ便宜檢査處分ヲナスヘシ



第五條 警察署分署ニ於テハ臨時營業者ノ家宅ニ臨ミ質物及臺帳ヲ點檢スヘシ

第六條 條例第五條第十三條ニ依リ質物ヲ取戻シ或ハ差押ヘタルトキ及第十五條ニ依リ營業ノ禁示又ハ停止ヲ要スルト認ムルモノハ其事由本署ヲ經テ縣令ニ具申スヘシ

但シ分署ニ於テハ所屬警察署ニ報告スヘシ

第七條 條例第十四條ノ犯則者及ヒ營業者開廢業其他ノ異動ハ前月分翌月七日迄ニ本署ヲ經テ縣令ニ具申スヘシ

○明治十七年五月九日札幌縣甲第二十四號布達

本年三第九號布告質屋取締條例第十八條ニ依リ細則別紙ノ通之ヲ定ム

(別紙)

質屋取締條例細則

第一條 質屋營業ヲナサント欲スル者ハ取締連署局長戶長アラサル地方ハ郡區長ノ與印ヲ受タル書面ヲ以テ所轄

警察署又ハ分署ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ(二十年四月總令第三十四號ヲ以テ本條ノ通改正)

第二條 質屋營業者ハ便宜組合ヲ設ケ毎組一名若クハ二名ノ取締ヲ置キ其組合名簿ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ(同上)

但組合ニ出入アルトキハ本條ニ準シ毎月末届出ヘシ

第三條 取締ハ組合中ノ諸事取締ヲ爲シ營業上ニ關スル願届ニ連署スヘシ(同上)

第四條 鑑札ヲ毀損シ及ヒ改氏名代替又ハ他ノ警察署分署ノ所轄内ニ轉居セシトキハ第一條ノ手

續ニ準シ縣廳ヘ届出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ(同上)

但轉居セントスルトキハ其旨所轄警察署又ハ分署ヘ届置クヘシ

第五條 廢業若クハ營業禁止シタルトキハ第一條ノ手續ヲ以テ鑑札ヲ返納スヘシ(同上)

第六條 鑑札ハ貸借讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 質屋營業者ハ左ノ看板ヲ製シ之ヲ店頭ニ掲クヘシ

木質

郡區町村番地

竪二尺五寸

適宜

○質屋營業

屋號

氏名

幅七寸

第八條 取締ハ組合名簿ヲ製シ住所屋號氏名年齢ヲ記載シ實印ヲ取り置クヘシ

第九條 取締ハ營業ニ關スル諸違及贓物ノ品觸レ等組合ヘ回達シ證印ヲ取り置クヘシ

第十條 質屋營業者品觸レヲ他ニ送附スルトキハ其氏名並ニ年月日時ヲ各自名下ニ記載押印スヘシ

第十一條 質屋ハ左ノ帳簿ヲ備置クヘシ

一 質物臺帳

一 流質物賣拂帳

一 品觸寫帳

品觸寫帳ヲ除クノ外簿中空行ヲ置キ又ハ文字ヲ改竄スヘカラス若シ挿入削除アルトキハ之ニ認印シ原字體ヲ存シ置クヘシ

第十二條 流質物賣拂帳及ヒ品觸寫帳ハ新調毎ニ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 質物臺帳流質物賣拂帳ハ第一號第二號書式ニ準シテ記載スヘシ

第十四條 寄藏品ト雖モ質物ト同シク質物臺帳ニ記載スヘシ

第十五條 質屋ハ質物ノ流期ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第十六條 質物ノ流期ニ至ラントスルトキハ必ス其旨ヲ質入主ヘ通報スヘシ又流質物賣却ノ際所轄警察署又ハ分署ニ差出スヘキ物品目錄ハ第三號書式ニ從フヘシ

第十七條 左ノ事項ハ質入主ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ  
一 流質期限  
二 利子ノ割合  
三 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨

第十八條 遺失賊難等アリ物主ヨリ直ニ物品取調ノ依頼ヲ受ケタルトキハ速ニ其求ニ應シ組合中ニモ亦注意方通報スヘシ  
但此場合ニ於テハ物主ヨリ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届ケシムヘシ

第十九條 此規則第四條第五條第六條第七條第九條第十條第十一條十二條第十五條第十六條第十七條ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セララルヘシ

第二十條 質屋取締條例ニ依リ營業ヲ停止スルハ一月以上一年以下トス

第壹號 質物臺帳書式

- 一 番號ハ一ケ年毎ニ號數ヲ止メ翌年ヨリ新タニ始ム可シ
- 一 入換品ハ朱書ノ如ク其物品及年月日ヲ記載シ品目ハ朱ニテ塗抹スヘシ
- 一 受戻シタルモノ及ヒ流質賣拂ヒタルモノハ朱書ノ如ク記入シ番號品目ハ朱ニテ塗抹スヘシ
- 一 寄藏品ハ預ケ主預リ品ト記シ質物ト區別スヘシ

何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地

質入主 氏 名

(證人ヲ要シタルトキハ其住所氏名ヲ列記シ本人及ヒ證人ノ實印ヲ捺捺セシムヘシ)

何年何月日質入

第何號

貸金何百何拾圓也

利子何々

一何色何々紋付男小袖

何 枚

何ヶ所裏何色袖口何

第何號

貸金何百何拾圓也

利子何程

一何色何々女小袖

何年何月入換

但紋何壹々所  
但胴裏何拾何袖口何

一何縞男羽織 一枚

但胴裏鼠カイク

第何號 何年 月 日受戻

貸金何拾何圓也

一金側片硝子懷中時計

但器械何々國製番  
號何號附屬品何

何 箇

第何號 何年 月 日賣拂

貸金何拾何圓何錢也

一黑塗何寸重箱

但朱塗蓋金箔ニテ何々ノ紋付又  
ハ金梨子地何々ノ時給アリ

何 箇

第二號 流質物賣拂帳書式

何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地  
買主又ハ讓主 氏 名

何年月日賣拂

何年第何號

一何色何々紋付男小袖

何 枚

價金何拾何圓也

何年第何百何號

一黑塗何寸重箱

何 箇

價金何圓何錢也

何品

第三號 流質物賣拂屆書式

何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地  
買主又ハ讓主 氏 名

何年月日賣拂

何年第何號

一何色何々紋付男小袖

何 枚

價金何拾何圓也

何年第何百何號

一黑塗何寸重箱

何 箇

價金何圓何錢也

何品

右ハ流質品ニ付來ル何月何日賣拂候間此段御届仕候也

何郡(區)何町(村)何番地

年月日

何警察署又ハ分署

質屋氏

名印

御中

(用紙西洋厚紙)

〔竪四寸五分〕

表面

質屋營業免許鑑札		第 號
名	姓	
籍		族

〆川

裏面

明治年月日

札 幌 縣

○明治十七年五月八日札幌縣内第四十八號達警察署警察分署宛  
 質屋取締手續別紙ノ通之ヲ定ム

質屋取締手續

第一條 質屋營業願書ヲ差出シタルトキハ篤ト取調不都合ナキ者ハ許可スヘシ(十九年十二月北海道廳  
 改正ノ通) 戊辰第五號達ヲ以テ本條

第二條 質屋營業免許シタルトキハ願書ニ指令ヲナス免許鑑札ヲ下附スヘシ(同上)

第三條 警察署又ハ分署ニ於テハ部内質屋名簿ヲ製シ其屬籍住所屋號氏名ヲ記載シ異動アル毎ニ訂正スヘシ(同上)

第四條 細則第十二條ニ依リ檢印ヲ受ケンコトヲ願出タルトキハ帳簿ノ表面ニ署印ヲ押捺スヘシ

第五條 盜難訴等ノ中品觸ヲ要スルモノハ其遭難ノ年月日時及ヒ物品ノ摸樣格好竊柄損所等ヲ詳記シ速ニ取締ニ下付シ組合中へ廻達ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第六條 管内質屋營業者ニ品觸ヲ要スヘキモノト認ムルトキハ物品目錄ヲ警察本署分署ハ所屬警察署ヲ經テ送致シ警察本署ヨリ各警察分署ニ廻達スヘシ

第七條 前條ノ品觸ニ依リ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ速ニ警察本署ニ報告スヘシ

第八條 條例第六條第七條及第十一條ニ依リ届出タル物品贓物ト確認シタルトキハ其品差押ヘ置キ品主ノ身元捜査ヲ爲スヘシ

第九條 條例第八條ニ依リ届出タル物品贓物ト見認メタルトキハ之ヲ差止ムルコトヲ得

第十條 條例第十三條ニ依リ質物及帳簿ヲ檢査セシムル爲メ一名若クハ二名ノ專務者ヲ置キ少クモ一ヶ月一回檢査セシムヘシ

但檢査ヲ爲シタルトキハ其帳簿ニ年月日ヲ記シ檢印スヘシ

第十一條 各署ニ於テハ豫テ盜罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處分ヲ受ケタルモノ、住所氏名等ヲ質屋營業者ニ示シ置クヘシ

第十二條 條例第十五條ニ據リ處分スヘキモノト認タルトキハ意見ヲ付シ警察本署ヲ經テ縣令ニ

具申スヘシ

○明治二十二年十一月二十一日北海道廳令第六十七號

宿屋取締規則左ノ通相定メ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス

但明治十一年<sup>十一</sup>月開拓使函館支廳第四百十四號布達明治十四年<sup>八</sup>月同廳第五十號布達明治十六年<sup>三</sup>月函

館縣甲第十號布達同年<sup>三</sup>月同縣甲第十九號布達明治十七年<sup>五</sup>月同縣甲第十三號布達及明治十六年<sup>六</sup>月

根室縣甲第三十三號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

宿屋取締規則

第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物及間取等ヲ記シタル圖面  
ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ニ願出允許ヲ請フヘシ其間取等ヲ變更シタル時ハ圖面ヲ以テ届出認  
可ヲ受クヘシ

第三條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ允許ヲ與ヘス

- 一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者
- 二 白痴瘋癲者
- 三 強窃盜及詐僞取財ノ罪ヲ犯シタル者
- 四 監視中ノ者

第四條 改氏名又ハ廢業シタル時ハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第五條 宿屋營業人ハ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

第六條 營業人ハ所轄警察署又ハ分署ノ部内ヨリ以テ區域トシ其種類ニ從ヒ各組合ヲ設クヘシ  
但部内ノ狀況ニ依リ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ便宜之ヲ數組トナスコトヲ得

第七條 組合ヲ設ケス又ハ組合ニ入ラスシテ營業ヲ爲スヘカラス

第八條 組合ニハ各營業人中ヨリ取締一人ヲ公撰シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 取締ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 宿屋營業ニ關スル規則命令ヲ營業人ニ通知スル事
  - 二 組合營業人ノ願届ニ加印スル事
  - 三 取締ノ撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フ事
- 右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第十條 組合ニ於テハ規約ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 強テ客ヲ誘引スヘカラス

第十二條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄託ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ

第十三條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫リニ其室内ニ入ラシムヘカラス

第十四條 宿泊人疾病ニ罹ル時ハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十五條 宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタル時ハ即時ニ警察署分署巡查番所若クハ巡

行ノ巡查ニ届出ヘシ

第十六條 宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押取シ又ハ受領スヘカラス

第十七條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス

第十八條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十九條 午後十二時後歌舞音曲ヲ爲サシムヘカラス

第二章 旅人宿

第二十條 旅人宿ハ客室ニ充分ノ光線ヲ取リ且空氣ノ流通ヲ便ナラシムヘシ

第二十一條 客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戸棚等ヲ設クヘシ

第二十二條 二階以上ノ客室二十坪以上アルモノハ階子二箇以上ヲ設クヘシ

但階子ノ幅ハ四尺以上タルヘシ

第二十三條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ尿尿ヲ受容スヘキ部分ハ漏脱滲透セサル樣構造スヘシ

第二十四條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第二十五條 客室ノ番號ハ其出入口ニ揭示スヘシ

第二十六條 正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絕スヘカラス

第二十七條 旅人宿營業人ハ左ノ書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發著毎ニ原簿ニ記入シ且

甲乙書式ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

但警察署分署ナキ地ハ甲乙書式ノ届出ヲナスニ及ハス

宿泊人名簿書式(用紙寸法適宜)

番 號	氏 名	年 齡	職 業	住 籍	所 住 地 特 殊 事 故	相 親 ノ 前 夜 宿 行 先 地	到 著 日 時 刻	出 發 日 時 刻

甲號(用紙寸法適宜)

明 治 何 年 何 月 何 日	投 宿 届	郡區町村番地族籍	何	某
第 氏 名	第 籍			

相 貌 特 徵 其 他 事 故	投 宿 日 時	行 先 地	何		
			前 夜 宿 泊 所	職 業	
住 所	年 齡	年	何	號	

乙號

明治何年 何月何日	出 發 屆	郡區町村番地族籍 屋號	何	某 ◎
氏 名	投 宿 番 號	出 發 日 時		

第三章 下宿屋

第二十八條 下宿屋トハ一ヶ月ノ賄料座敷等ヲ約定シ寄寓セシムルヲ云フ  
 第二十九條 下宿屋營業人ハ下宿人ノ族籍住所職業氏名年齢及下宿ノ事由ヲ記シタル届書ヲ所轄警察署又ハ分署ニ差出シ檢印ヲ受ケ所持スヘシ  
 第二十條 本則第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條ハ下宿屋ニ於テモ適用スヘシ

第三十一條 下宿屋ハ下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲示スヘシ  
 第三十二條 下宿人他ニ轉宿シ又ハ三日以上外泊シテ其所在不分明ナル時ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第四章 木賃宿

第三十三條 木賃宿ハ宿泊人滞在中外泊シタル者アル時ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出スヘシ  
 但警察署分署ナキ地ハ帳簿ニ記入シ警察官吏ノ調査ニ備フヘシ  
 第三十四條 宿泊人届出方ハ本則第二十七條ノ例ニ從フヘシ  
 第三十五條 本則第二條第四條第十一條第十五條第十六條第十七條第十九條第二十七條第二十九條第三十二條第三十三條第三十四條ニ違背シタル者及第七條ニ違背シ組合ニ入ラスシテ營業ヲ爲シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○明治二十二年十一月二十一日北海道廳令第六十八號  
 明治二十二年<sup>十一月</sup>北海道廳令第六十七號宿屋取締規則第二條營業用ニ供スル建物及間取ニ關スル事項及第二十條ヨリ第二十五條ニ至ルマテ第三十條ハ札幌函館兩區福山江差壽都岩内小樽増毛室蘭釧路厚岸根室各町及森苫小牧浦河幌泉ノ四ヶ村ヲ除クノ外當分之ヲ施行セス  
 ○明治二十二年十二月五日北海道廳訓令號外<sup>警察署</sup>分署宛  
 宿屋取締規則ノ儀左ノ取扱心得ニヨリ施行スヘシ

宿屋取締規則取扱心得

第一條 規則第二條中營業ノ用ニ供スル建物及間取ニ關スル事項ノ施行地ニ於テハ第三條及第二十條乃至第二十三條ニ牴觸セサルヤ且構造堅牢ニシテ非常口等具備シ危險ノ虞ナキヤヲ調査シテ之ヲ許可スヘシ但同條前記ノ事項ヲ施行セサル地ハ第三條牴觸ノ有無ヲ調査シテ許可スヘシ

第二條 規則第五條ノ看板ハ左ノ雛形ニヨラシムヘシ但樓名館名屋號等氏名ノ上ニ記載スルハ妨ケナシトス

木札	旅人宿 (下宿屋)	區町村番地	氏名	幅七寸	豎三尺
----	-----------	-------	----	-----	-----

第三條 規則第六條ハ從來組合アリ不都合ナキモノハ其儘トシ新タニ之ヲ設クルモノハ専ラ營業者ノ便宜ヲ計ルコトニ注意スヘシ

第四條 規則第八條ノ取締ハ男子ニシテ筆算ニ通シ且不正ノ所業等之ナキモノナルヤヲ調査シテ認可スヘシ

第五條 規則第九條ノ規約ニ於テハ宿泊料其他組合必要ノ條項ヲ結約セシムヘシ

第六條 規則第十八條緊要ノ事項ハ必スシモ客室ニ掲載セシムルニ及ハサルヲ以テ廊下等ノ如キ見易キ場所ニ掲載セシムルコトトスヘシ

第七條 規則第二十條乃至第二十五條及第三十條ハ施行ノ地ニ於テハ實地檢査ヲ爲シ之ヲ實行セ

シムヘシ

第八條 規則第二十七條ノ警察署分署アラサル地ノ帳簿ハ巡查巡回ノ日ヲ以テ調査ヲ爲サシムヘシ

第九條 規則第三十一條ノ標札ハ長サ四寸巾壹寸五分ヨリ少ナカラサルモノヲ用ヒシムヘシ

第十條 規則第三十二條第三十三條届出ノ外泊人ハ常ニ其舉動ニ注意シ該營業人届出ニ對スル實効ヲ奏スルコトヲ期スヘシ但警察署分署ナキ地ハ第八條ノ手續ニ依リ調査セシメ之ヲ署長ニ報告セシムヘシ

○明治八年十二月十五日開拓使函館支廳番外達 外國人遊歩期程内ニ係ル市在戸長宛

外國人遊歩期程内市街村落ニ於テ止宿ノ義ニ付第百八十九號御達之趣モ有之候ニ付テハ宿泊渡世ノ者へ兼テ諭達致シ置可申若右外國人止宿ヲ名トシ地所家屋ヲ賃借スルカ商賣取引スルカ又ハ其事ヲ企ル趣見聞候ハ、函館支廳民事課或ハ出張所へ早々申出可受指圖此旨相達候事

○明治二十四年十二月五日北海道廳令第五十一號

宿屋營業者ト否トニ拘ハラズ外國人ヲ宿泊セシメタルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ速ニ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ但遊歩規定外ノ地ニ於テハ旅行免狀ヲ携帯セサル者ヨリ宿泊ノ申込ヲ受ケタルトキハ即時警察官吏へ届出ヘシ

一 國籍住所氏名年齢職業

二 宿泊ヲ要スル事由



三 宿泊一週間以上ニ及フ者ニ付テハ一週間毎ニ其滞在ヲ要スル事由  
四 出發シタルトキハ其日時

本令ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

○明治十四年一月三十一日開拓使函館支廳第七號布達

明治十二年一月當廳第八號布達雇人請宿規則左之通改定候條從前營業ノ者モ該規則ニ據リ更ニ出願可致此旨布達候事

雇人請宿規則

第一條 雇人請宿營業セント欲スル者ハ組合取締及戶長ノ加印ヲ以テ

(結社營業ノモノハ社則等ヲ添ヘ戶長及ヒ郡區長ノ與印ヲ受ケ函館支

廳)郡區役所へ願出鑑札ヲ受ケ手数料トシテ金貳拾錢相納ムヘシ

但廢業ノ節ハ函館支廳又ハ郡區役所へ鑑札返納スヘシ

第二條 請宿營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

鑑札番號	豎三尺
雇人請宿	幅七寸
又ハ何ノ誰社	

第三條 請宿ハ被雇人一切ノ保證ヲナス者ナレハ結社請宿營業ノ者ハ株金ノ外ニ七百圓相當ノ不

動產(土地家屋等ノ運搬スヘカラサルモノヲ云)ヲ備置獨立營業者ハ現地在住ノ者ニシテ函館ハ金三百圓以上福山江差ハ

金貳百圓以上其他ハ金百圓以上ノ不動產ヲ有シタル者ニ限ルヘシ

但不動產ヲ所持セサル者ハ公債證書又ハ銀行等ノ株券ヲ以テ不動產ニ換フルヲ得ヘシ

第四條 鑑札ヲ受ケス又ハ獨立營業者ハ組合ニ入ラスシテ營業スルヲ許サス

第五條 結社營業ノ者ハ株主等ノ増減ヲ其時々届ケ出ヘシ

第六條 當管内各地へ分社ヲ設クルトキハ本社設立願濟ノ證ヲ添ヘ其地ノ郡區役所へ(他管下ニ於テ本業結社願濟

ノ者ハ本則第一條ノ手續ヲナスヘシ)願出許可ヲ受クヘシ

第七條 營業免許鑑札ヲ失却毀損スルカ又ハ代替改姓名轉居セシトキハ其旨申出再渡又ハ書換ヲ

請ヘシ

但手数料トシテ金貳拾錢相納ムヘシ

第八條 函館福山江差市街ハ獨立營業ヲナス者ノ爲ノ適宜組合ヲ設ケ各取締一名副取締二名乃至

四名(各村ハ此限ニアラス)ヲ置キ組合取締ヲ爲スヘシ

第九條 雇主被雇人ハ結約ノ際左ノ諸項ハ特ニ注意スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ請宿ノ者立會約條證書ニ記名調印シテ其確實ヲ表スヘシ

一 雇期限及給金高

一 被雇人疾病死亡或ハ逃亡セシトキノ始末

一 其他緊要ト認ル條項

第十條 被雇人タラント欲スル者若犯罪其他不審ノ所業アルヲ認ルトキハ警察官吏へ密告スヘシ

第十一條 雇主被雇人ノ本籍姓名年齢ヲ帳簿ニ記載シ置キ警察上取調ノ用ニ供スヘシ  
 第十二條 請宿世話料ハ最初被雇人一期給金高ノ一割ヨリ多カラサル金額ヲ雇主被雇人双方ヨリ全額ノ半數宛申受クヘシ

第十三條 定メタル世話料ノ外種々ノ名儀ヲ以テ雇主被雇人ヨリ金錢ヲ貪リ又ハ被雇人ノ腹胎ヲ押隠シテ口入シ或ハ雇人口入等ニ事寄せ止宿セシムル等ノ所業ヲ爲スヘカラス

第十四條 被雇人給料ノ幾分ヲ前借ノ上逃亡シ雇主ヘ損失ヲ負ハシムルトキハ其前借金ハ請宿ノ者其報知ヲ得タルヨリ十五日以内ニ必ラス辨償スヘシ

但遠隔ノ地ニシテ期日内ニ辨償ノ途ナキトキハ何時ニテモ辨償方差支ナキ様金員備ヘ置クヘシ將タ廢業シタル後ト雖トモ豫メ口入シタル約條期限内ハ本條ノ通りタルヘシ

第十五條 請宿ハ雇主被雇人受取ル所ノ前金ヲ(逃亡スルトキ)償ハシムル爲メ他ノ被雇人ヲシテ共受ヲ爲サシムヘカラス

第十六條 組合規則ヲ私ニ取設ケ又ハ無謂出錢ヲ爲サシムヘカラス若已ムヲ得サル事故アリ出錢ヲ爲サシムルトキハ其事由ヲ郡區役所ヘ申出差圖ヲ受クヘシ郡區役所ヨリハ警察署又ハ警察分署ヘ報告スヘシ

此規則ニ違背スルモノハ違警罪ニ照ラシ處分セラル、ノ外行政上ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ(十六年函館縣甲第十號布達ヲ以テ本條ノ通改正)

○明治十四年三月十五日開拓使函館支廳第十六號布達

本年一常應第七號布達雇人請宿規則第一條并第七條但書鑑札手数料ノ儀ハ本年七月以降新規及書替共納ムルニ不及候條此旨布達候事

○明治十四年四月十六日開拓使根室支廳甲第二十三號布達

雇人受宿規則別紙之通相定候條此旨布達候事

(別紙)

雇人受宿規則

第一條 雇人受宿營業セント欲スル者ハ戶長(戶長アラサル地ハ郡長)ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ願出

鑑札ヲ受ケ鑑札料トシテ金拾錢相納ヘシ(十七年六月根室縣甲第三十九號布達ヲ以テ本條ノ通改正)

但廢業ノ節ハ鑑札返納スヘシ

第二條 受宿營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

鑑札番號	豎三尺
雇人受宿	幅七寸
何ノ誰	

第三條 受宿ハ被雇人一切ノ保證ヲナスモノナレハ金貳百圓以上ノ不動産ヲ有シタル者ニ限ルヘシ

但不動産ヲ所持セサル者ハ公債證書又ハ銀行等ノ株券ヲ以テ不動産ニ換フルヲ得ヘシ

第四條 營業免許鑑札ヲ失却毀損スルカ又ハ代替改姓名轉居セシトキハ其旨申出再渡又ハ書換ヲ請ヘシ

但鑑札料トシテ金拾錢相納ムヘシ

第五條 雇主被雇人ハ結約ノ際左ノ諸項特ニ注意スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ受宿ノ者立會約條證書ニ記名調印シテ其確實ヲ表スヘシ

- 一 雇期限及ヒ給金高
- 一 給金授受ノ期日
- 一 被雇人疾病死亡或ハ逃亡セシトキノ始末
- 一 臨時解雇ノ節處置
- 一 其他緊要ト認ル條項

第六條 被雇人タラント欲スル者若犯罪其他不審ノ所業アルヲ認ルトキハ警察官吏ヘ密告スヘシ

第七條 雇主被雇人ノ本籍姓名年齢ヲ帳簿ニ記載シ置キ警察上取調ノ用ニ供スヘシ

第八條 受宿世話料ハ最初被雇人一期給金高一割ヨリ多カラサル金額ヲ雇主被雇人雙方ヨリ全額ノ半數宛申受クヘシ

第九條 定メタル世話料ノ外種々ノ名義ヲ以テ雇主被雇人ヨリ金錢ヲ貪リ又ハ被雇人ノ腹胎ヲ押隠シテ口入或ハ雇人口入ニ事寄セ止宿セシムル等ノ所業ヲ爲スヘカラス

第十條 被雇人給料ノ幾分ヲ前借ノ上逃亡シ雇主ヘ損失ヲ負ハシムルトキハ其前借金ハ受宿ノ者

其報知ヲ得タル日ヨリ十五日以内ニ必ス辨償スヘシ

但遠隔ノ地ニシテ期日内ニ辨償ノ途ナキトキハ何時ニテモ辨償方差支ナキ様金員備ヘ置クヘシ將タ廢業シタル後ト雖トモ豫メ口入シタル約條期限内ハ本條ノ通りタルヘシ

第十一條 受宿ハ被雇人受取ル所ノ前金ヲ<sup>逃亡スルトキ</sup>償ハシムル爲メ他ノ被雇人ヲシテ共受ヲナサシム可カラス

第十二條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○明治十八年二月二十六日函館縣甲第十二號布達

外國船乘組稼人口入營業者取締概則左ノ通相定候條此旨布達候事

外國船乘組稼人口入營業者取締概則

第一條 外國船乘組稼人ノ口入營業ヲ爲サント欲スル者ハ二名以上ノ保證人ヲ以テ區長ノ與書ヲ受ケ當廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 營業者及保證人ハ函館區内ニ住居ヲ定メ五百圓以上ノ不動産若クハ之ニ該當スル公債證書或ハ銀行等ノ株券ヲ有スル者ニアラサレハ許可セス

但該營業者ノ人員ハ適宜制限スルコトアルヘシ

第三條 第一第二條ノ手續ヲ經テ許可ヲ得タル者ハ左ノ雛形ニ依リ招牌<sup>英和</sup>對照ヲ製シ當廳ノ檢印ヲ受ケ其店頭ニ掲出スヘシ

英 字 免 照 對 許

何國何區何町何番地  
外國船乗組稼人口入營業

氏 名

長凡ノ三尺

幅凡ノ一尺

第四條 該營業者轉居若クハ廢業シタルトキハ區長ノ與書ヲ受ケ其旨當廳ヘ届出ヘシ

但シ營業興廢ノ都度所轄警察署ニ届出ヘシ

第五條 該營業者ニ於テ水火夫雇入ノ紹介ヲ爲ストキハ當廳ヨリ示シ置ク所ノ約定書様式ニ倣ヒ  
訂約セシムヘシ

但シ約定書式ノ營業ノ許可ヲ與フル際之ヲ付與スヘシ

第六條 該營業者ハ豫テ簿冊ヲ製シ置キ被雇者ノ族籍氏名年齢住所及ヒ雇主ノ國籍氏名船號又ハ  
航行ノ地方其他双方間ニ成立タル約定ノ要旨ヲ登記シ每半年分ヲ取纏メ當廳ヘ申報スヘシ

但シ取締上ニ付時々巡查ヲシテ帳簿ノ點檢ヲナサシムルコトアルヘシ

第七條 該營業者ハ雇主及被雇者ノ双方ヨリ相當ノ手料數ヲ受取ルコトヲ得ルト雖モ其額ハ豫メ  
當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 第一第三第四第五第六第七條ノ規則ニ背クモノハ違警罪ヲ以テ罰セラル、ノ外尙ホ其情  
狀ニ依リ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

○明治二十二年一月二十六日北海道廳令第七號

湯屋取締規則左ノ通定ム

但明治五年<sup>五</sup>月開拓使函館支廳第十七號達明治十六年<sup>十</sup>月札幌縣甲第五十七號布達明治十八年<sup>九</sup>月根  
室縣甲第五十二號布達ハ廢止ス

湯屋取締規則

第一條 湯屋營業ヲ爲サントスル者ハ營業ニ供スル建物ノ構造圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ  
願出許可ヲ受クヘシ

第二條 烟筒其他ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 烟筒ハ屋上ヘ三尺以上突出セシメ其周圍一間四方ハ不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ

二 焚物置場ハ火焚場ヨリ二間以上離隔スヘシ

三 火消場並灰置場ハ坑穴ヲ作り隔日ノ使用ニ供スル爲メ中仕切ヲ設ケ其蓋ハ不燃質物ヲ用フ  
ヘシ

第三條 前條ノ構造ハ新築改造ヲ問ハス落成ノ上警察署又ハ分署ノ檢査ヲ受クヘシ

第四條 浴場ハ男女ノ區域ヲ設ケ混浴セシムヘカラス

第五條 火焚場及烟筒ハ毎月一回以上掃除スヘシ

第六條 浴場並浴客ニ供スル場所ハ外部ヨリ見ヘサル様見隠ヲ設クヘシ

第七條 營業時間ハ午後十二時限トス但烈風ノ時ハ時間ニ拘ハラヌ休業スヘシ

第八條 營業者ハ便宜組合ヲ設ケ規約ヲ定メ及取締人ヲ公撰シ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第九條 本則第一條第三條第四條ニ違背シタル者ハ違警罪ニ依リ罰セラルヘシ

附則

第十條 従前許可シタル湯屋ニシテ本則第二條ノ制限ニ牴觸スルモノハ向後改築若クハ修繕ノ時ヲ期シ其制限ニ從ハシム

○明治二十二年一月二十六日北海道廳令第八號

今般廳令第七號ヲ以テ湯屋取締規則相定候處同則第二條ハ當分ノ内札幌函館根室小樽福山江差市街ノ外之ヲ施行セス

○明治二十二年十一月二十日北海道廳令第六十五號

街路取締規則左ノ通相定メ明治二十三年一月一日ヨリ札幌函館根室福山江差小樽ノ六市街ニ之ヲ施行ス

但明治十二年二月開拓使函館支廳第二十二號布達明治十三年五月同廳第三十八號布達明治十五年五月札幌縣甲第二十五號布達明治十六年五月同縣甲第十八號布達明治十六年十月同縣第五十四號布達明治十八年九月同縣甲第六十三號布達及明治十六年十月根室縣甲第四十五號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

街路取締規則

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ市街ノ道敷及道敷ニ沿フタル下水並橋梁トス

第二條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲ス可キ義務ヲ怠ル時ハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徵收スヘシ

第二章 街路ノ安寧及保存

第三條 街路ニ建物軒檐等ヲ設ケ又ハ出スヘカラス但左ノ制限ニ從フモノハ此限ニアラス

- 一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内
  - 二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺以内六尺以上ハ一尺五寸以内
  - 三 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ四尺以内
  - 四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内
  - 五 煙筒ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ二尺五寸以内
  - 六 雪圍ハ道幅五間以上ハ六尺以内右以下ハ三尺以内
- 第四條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄郡區役所ヲ經由シテ本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 一 街路ヲ私費ニテ新設變更又ハ廢除スル事
- 第五條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄郡區役所又ハ戶長役場ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 一 街路ヲ私費ニテ修繕スル事
- 第六條 左ノ事項ハ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 一 街路ニ床店又ハ葭簀張ヲ設クル事
  - 二 街路ニ樹木ヲ植ヘ又ハ支柱街燈ヲ建ツル事

- 三 街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置ク事
- 四 街路ニ華表碑表指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事
- 五 街路ニ目塗土置場ヲ設クル事
- 六 工事又ハ商業ノ爲メ街路ニ一時竹木土石類ヲ置キ若クハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事
- 七 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事
- 八 神佛祭典又ハ歳市等ノ節街路ニ一時舞臺小屋掛店飾ヲ設クル事
- 九 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出ス事
- 十 工事ノ爲メ一時通行ヲ禁止スル事
- 十一 祭典興行等ノ節一時街路ニ旗ヲ建テ又ハ釣提灯ヲ設クル事
- 十二 街路ニ本則第三條六項制限外ノ雪圍ヲ設クル事
- 十三 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲ爲ス事
- 第七條 街路ヲ使用シテ之ヲ毀損シタルトハキ直ニ原形ニ復スヘシ
- 第八條 街路ニ出タル軒檐ニ雨樋ヲ設ケタル時ハ檐溜又ハ下水ノ外街路ノ地盤ニ流出スルヲ得ス
- 第九條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模様ニ依リ道敷ノ境界ニ墻塀ヲ設クヘシ
- 第十條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置ク時ハ鐵鎖又ハ強靱ナル繩索ヲ以テ纏束シ薪炭其他ノ

物件ヲ堆積スル時ハ顛仆セサル様堅牢ノ装置ヲ爲スヘシ

- 第十一條 街路ニ沿フル建設物及樹木等崩壞顛仆ノ虞アル時ハ速ニ修理撤去又ハ扶植伐採スヘシ
  - 第十二條 街路ニ竹木土石類其他運搬中ノ物件ヲ置ク時ハ路傍ニ片寄セ標識ヲ設クヘシ
  - 第十三條 街路及河川溝渠下水橋梁ヲ毀損壅塞シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス
  - 第十四條 榜示指道標便所及墻壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書貼紙ヲナスヘカラス
  - 第十五條 街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
  - 第十六條 制止ヲ肯セスシテ行路ニ商品薪炭其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス
  - 第十七條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲナスヘカラス
  - 第十八條 街路ニ於テ濫リニ放歌シ又ハ高吟喧噪シ若クハ偃臥スヘカラス
  - 第十九條 街路ニ於テ指定シタル場所外ニ露店屋臺店ヲ出スヘカラス
  - 第二十條 行商ニ用フル荷車ハ長サ八尺幅三尺屋臺店ハ長サ六尺幅四尺ヲ超過スヘカラス
- 第三章 街路ノ清潔
- 第二十一條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除シ塵芥雜草ヲ存スヘカラス
  - 第二十二條 街路ノ積雪ハ踏固メ又ハ取片付ヲ爲シ通行ヲ便ニスヘシ
  - 第二十三條 取片付タル雪ハ便宜妨害トナラサル場所ニ運ヒ置クヘシ
  - 第二十四條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ

第二十五條 街路ノ掃除並降雪取片付及洒水ハ兩側ニ居住人アルモノハ其居住人ニ於テ街路ノ中央各一半ヲ負擔シ片側居住人ナキトキハ其全部ヲ負擔スヘシ若シ兩側共ニ居住人ナキ時ハ地主又ハ借地人若クハ管理者ニテ負擔スヘシ

第二十六條 街路ニ汚水ヲ注クヘカラス

第二十七條 街路ニ塵芥其他汚穢物ヲ投棄スヘカラス

第二十八條 下水ハ毎年二回以上浚渫スヘシ其渫ヒ揚タル淤泥塵芥等ヲ街頭ニ置クヘカラス

第二十九條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十一條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ危險ナル物品若クハ見苦敷物品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

第三十二條 牛馬及諸車諸櫓ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十三條 馬車牛車及馬櫓ハ路幅三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス

但其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スルモノハ此限ニアラス

第三十四條 小兒車ノ外ハ跡押ノミニテ運轉スヘカラス但阪路ハ此限ニアラス

第三十五條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スル時ハ其末口ヲ纏束スヘシ

第三十六條 牛馬及諸車諸櫓ハ車馬道ノ設アル地ハ左側其他ハ街路ノ中央ヲ通行スヘシ但降雪中

ハ行人妨害トナラサル様避讓スヘシ

第三十七條 牛馬及諸車諸櫓ヲ並ヘ轆キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

第三十八條 荷馬車及荷馬櫓ヲ疾驅スヘカラス

但シ櫓ハ馬首ニ鈴ヲ結束ス可シ(二十四年十二月總令第五十四號ヲ以テ但書追加)

第三十九條 車及櫓ハ二臺以上ヲ連繫シテ轆クヘカラス但長大ノ物件ヲ運搬スルタメ數臺ヲ連結スルハ此限ニアラス

第四十條 牛馬ハ口取ナクシテ追立又ハ二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬及營業等ノタメ官許ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第四十一條 口取ナクシテ轡ナキ馬ニ乗ルヘカラス

第四十二條 車馬及歩行者行逢フ時ハ互ニ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

第四十三條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ阪路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第四十四條 前車徐行シ後車疾行セントスル時ハ後車ヨリ合圖ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ

通過スヘシ

第四十五條 郵便用消防用ニ供スル車馬又ハ葬送等ニ行逢フ時ハ避讓スヘシ

第四十六條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ

第四十七條 車馬街角ヲ通行スル時ハ右ハ大廻ヲナシ左ハ小廻ヲナスヘシ

第四十八條 牛馬諸車其他通行ニ妨害アル物件ヲ街路ニ置クヘカラス

第四十九條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス  
 第五十條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス  
 第五十一條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲナスヘカラス  
 第五十二條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ喉シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フヘカラス  
 第五十三條 制止ヲ肯セスシテ街路ニ於テ紙屑ヲ揚ケ又ハ獨樂手毬等ヲ弄シ若クハ雪投雪ニ等ヲ爲スヘカラス

第五十四條 街路ニ於テ坐席ヲ設ケ軍談輕業其他ノ人寄ヲ爲スヘカラス

第五十五條 人道車馬道ノ區別アル場所ニ在テハ牛馬諸車諸櫓ヲ人道ニ牽入ルヘカラス但人道ニ於テ小兒車ヲ押ス者及居住者ハ此限ニアラス

第五十六條 本則第二條第四條第五條第六條第十三條第十四條第十六條第十七條第十八條第二十六條第二十七條第二十九條第三十二條第三十三條第三十四條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十八條第四十九條第五十條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ但刑法ニ正條アルモノハ其本法ニ從フ

○明治二十二年十一月二十九日北海道廳訓令號外札幌函館根室福山江差小樽警察署長宛  
 街路取締規則施行ノ日ハ左ノ取扱心得ニ依リ取締向行屆候様致スヘシ  
 街路取締規則取扱心得

第一條 規則第二條ハ第七條第九條第二十五條ノ如キ場合ニ於テ再應督促ヲ爲シ尙肯セサル時ハ請負人ニ命シテ之ヲ爲サシメ其費用ヲ徵收シ領收證ヲ發スヘシ但請負人ノ金員請取證ハ保存シ置クヘシ

第二條 規則第三條第二十條ノ如キ從來ノ仕來ニテ制限ノ外ニ出ルモノハ告諭ヲ爲シ日ヲ刻シテ制限ニ從ハシムヘシ

第三條 規則第四條第五條ニ於テ許可ヲ與ヘタルモノハ其官衙ノ通牒又ハ當人ノ指令誓ニ依リ着手ヲ承認スヘシ

第四條 規則第六條ニ於テハ街路ノ整理上及往來交通ノ妨害トナラサル様注意シテ許可スヘシ尤モ第十二項ノ如キハ街路ノ廣狹ニ依リ其制限ヲナシ且見苦シカラサル様構造セシムヘシ

第五條 規則第九條ハ人家櫛比ノ場所ニシテ取締上不都合ト見認ル場所ニ限り執行セシムヘシ

第六條 規則第十九條第二十三條ノ場所及塵捨場等ハ郡區役所協議ノ上設定シ告示ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 規則第二十九條ノ便所ハ街路ニ面セス且漏脱滲透セサル様構造セシメ其掃除ハ時々之ヲ爲サシメ常ニ清潔ニ注意スヘシ但本條郡區役所關係ノ件ハ都テ協議ヲ遂クヘシ

第八條 規則第三十六條但書及第三十八條ハ本道廳管内其弊害極メテ多キモノナルヲ以テ豫カシメ營業人ニ告諭シ嚴重之カ取締ヲ爲スヘシ

第九條 規則第四十條ハ其業体(農産物又ハ薪炭等ヲ市上ニ輸送スル者ノ類)ニ依リ出願ノ者ハ特



ニ數頭ヲ牽連スルコトヲ許可スヘシ

第十條 規則第四十一條ハ荷馬ノ類ト雖モ完全ナル轡アリ危險ナキモノハ口取ヲ附スルニ及ハサルモノトス

○明治十八年七月二十七日根室縣丁第五十二號達警察本署宛

道路橋梁修繕等ニ際シ往來(馬車)止メノケ所ニシテ一時通行シ得ラルヘキモノハ郵便物遞送車馬及脚夫ニ限リ通行差許候様可致此旨相達候事

○明治二十二年十一月二十七日北海道廳令第七十一號

乗合馬車取締規則左ノ通相定メ明治二十三年一月一日ヨリ左ノ地ニ施行ス

但明治十五年九月函館縣甲第三十一號布達及明治十六年一月同縣甲第二號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

札幌區内

札幌ヨリ室蘭ニ至ル

札幌ヨリ石狩ニ至ル

函館區内

函館ヨリ森ニ至ル

函館ヨリ江差ニ至ル

函館ヨリ下湯川ニ至ル

小樽市街

壽都 潮路 森間(二十四年八月廳令第二十八號ヲ以テ本項追加)

乗合馬車取締規則

第一章 通則

第一條 乗合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第二條 營業人ニ關スル願届ハ總テ取締ノ加印ヲ要ス

第三條 營業人ハ取者馬丁ノ住所氏名年齢ヲ所轄警察署又ハ分署届出一人ニ付鑑札一個ヲ受クヘシ

第四條 營業人自ラ取者馬丁ノ業ヲ爲サントスル時ハ總テ取者馬丁ノ例ニ從フヘシ

第五條 取者馬丁ノ鑑札ハ毎年一回所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサル者ハ無効タルヘシ

第六條 車體及馬匹ハ營業出願ノ節及毎年四月所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其買受讓受ヲ爲シ又ハ車體ヲ新造改造シタル時ハ定期ニ拘ハラス同上ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

一 轉居改氏名其他免許證車馬検査鑑札面ニ異動ヲ生シタル時

二 免許證車馬検査證鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第八條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出免許證車馬検査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

- 一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタル時
- 二 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時
- 三 馭者馬丁ノ使用ヲ罷メタル時

第九條 免許證車體檢査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十條 乘客ノ員數ハ車體馬力ニ應シ之ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 車體檢査證ハ車體内部ノ見易キ所ニ釘付シ馬匹檢査證ハ馬首ニ結著スヘシ

第十二條 檢査證アル車馬ト雖トモ第十三條第十四條制限ニ適セス又ハ危險ノ虞アルモノ及不潔ニ至リタルモノハ其使用ヲ差止ルコトアルヘシ

第二章 車體馬匹及器具

第十三條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘキモノトス
- 二 車體ハ無地漆塗等ニシテ屋根ハ木製其他適當ノモノヲ以テ設クヘシ
- 三 客座ハ清潔ニ適當ノ裝置ヲ爲スヘキモノトス但一人ノ座席ハ幅一尺二寸ヲ下ルヘカラス
- 四 車體其他ノ附屬品トモ總テ堅牢強靱ノモノヲ用フヘシ

第十四條 馬匹ハ滿三歲以上強壯ニシテ惡癖ナキモノニ限ルヘシ

第三章 馭者馬丁ノ資格及服裝

第十五條 馭者ハ滿十八年以上馬丁ハ滿十七年以上ニシテ身體強壯ナル者且馭者ハ馭術ニ熟達ス

ル者ニ限ルヘシ

第十六條 前條ノ資格ニ適合スト雖トモ左ノ各項ニ觸ル、モノハ馭者馬丁タルヲ得ス

- 一 暴行醉狂ノ癖アル者
- 二 監視中ノ者
- 三 強窃盜強姦及過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者

第十七條 馭者馬丁ノ服裝ハ筒袖ニズボン股引ノ類ヲ用フヘシ

第四章 馭者馬丁就業制限

第十八條 馭者馬丁ハ鑑札ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見シコトヲ求メタル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十九條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス但止ムヲ得サル事故アル時ハ馬丁又ハ其他ノ者ヲシテ馬車ノ管守ヲ爲サシメ進行ヲ止ムヘシ

第二十條 往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ馬車ヲ置クヘカラス

第二十一條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲ爲スヘシ

第二十二條 乘客著席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ運轉スヘカラス

第二十三條 乘客中粗暴ノ所爲アル時ハ之ヲ制止シ若シ肯セサル時ハ降車セシムヘシ

第二十四條 馭者臺ニ客ヲ乘載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲ爲サスシテ物品ヲ載スヘカラ

第二十五條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他群衆ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス

第二十六條 他人ヲシテ馬ヲ馭セシムヘカラス

第二十七條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫ニ疾驅シ若シクハ競走スヘカラス

第二十八條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 馬車ハ道路ノ中央ヲ通行シ車馬及歩行者ニ行逢フ時ハ左ニ避ケ軍隊並砲車輻重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

二 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

三 前車徐行シ後車疾行セントスル時ハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ

四 郵便用消防用ニ供スル車馬又ハ葬送等ニ行逢フ時ハ避讓スヘシ

五 二車以上引續キ行進スル時ハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ

第二十九條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スル時ハ徐行シ相當ノ合圖ヲ爲シ且馬丁アルモノハ前行セシムヘシ街角ニ於テハ右ニ大廻ヲナシ左ハ小廻ヲ爲スヘシ

第三十條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十一條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第三十二條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第三十三條 定員三分ノ一以上ノ乗客アル時ハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第三十四條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アル時ハ直ニ返付スヘシ其主分明ナラサル時ハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查交番所ニ届出スヘシ

第五章 乗載制限

第三十五條 定員外ノ客ヲ乗載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第三十六條 左ニ記載シタルモノハ乗載スヘカラス

- 一 六種傳染病者及癩病者
- 二 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ憂アル物品

第六章 賃錢

第三十七條 賃錢ハ人馬車繼立營業規則ニ依リ認可ヲ受ケタル賃額ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届出且車内見易キ所ニ揭示スヘシ

第三十八條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第七章 營業組合

第三十九條 乗合馬車營業人ハ警察署又ハ分署部内ヲ以テ區域トシ組合ヲ設クヘシ但部内ノ狀況ニ依リ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ便宜之ヲ數組トスルヲ得

第四十條 組合ニ入ラスシテ營業ヲ爲スヘカラス

第四十一條 組合ニ於テハ規約ヲ設ケ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第四十二條 組合ニハ營業人中ヨリ取締一人ヲ公撰シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第四十三條 取締ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 乗合馬車營業ニ關スル規則命令ヲ營業人ニ通知スル事

二 組合營業人ノ願届ニ加印スル事

三 取締ノ選舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第四十四條 警察署又ハ分署ニ於テ取締ニ不都合アリト認ムル時ハ改撰セシムルコトアルヘシ

第四十五條 乗合馬櫓營業ヲ爲ス者ハ總テ本則ニ從フヘシ但客ヲ乘載スル函ノ構造制限及ヒ裝置等ハ車體ニ準シ且馬首ニハ鈴ヲ結著スヘシ

第四十六條 乗合馬車營業人ハ引續キ乗合馬櫓營業ヲ爲スヲ得

第八章 罰例

第四十七條 本則第一條第三條第四條第六條第七條第九條第十條第十一條第十八條第十九條第二  
十條第二十二條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第三十一條第三十二條第  
三十三條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第四十條第四十五條ニ違背シタル者ハ違  
警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○明治二十二年十二月九日北海道廳訓令號外札幌、室蘭、函館、七飯、小樽、江差、警察署宛  
乗合馬車取締規則施行ノ日ハ左ノ取扱心得ニ依リ十分取締向行届候様致ス可シ

乗合馬車取締規則取扱心得

第一條 乗合馬車營業ニ關スル者ハ其弊害頗ル多キモノナルヲ以テ該營業者ハ勿論馭者馬丁トモ  
規則各條ノ趣旨ヲ十分知悉セシメ犯則及不都合ノ所業ナキ様豫メ告諭ヲ爲スヘシ

第二條 規則第一條ノ營業願出許可シタルトキハ一號雛形ノ免許證ヲ下渡スヘシ但願書ニ對シ別  
段指令ニ及ハサルモノトス

第三條 規則第三條馭者馬丁ノ氏名等ヲ届出タル時ハ二號雛形ノ鑑札ヲ下渡スヘシ但馭者ハ本心  
得書第十條ノ手續ニ依ルヘシ

第四條 規則第五條ノ場合ニ於テハ三號式ノ如ク檢印ヲ爲スヘシ

第五條 規則第六條ノ場合ニ於テハ車體ハ規則第十三條馬匹ハ同則第十四條ニ照シ不都合ナキモ  
ノハ四號五號雛形ノ検査證ヲ下渡スヘシ但毎年検査ノ時ハ六號七號式ノ檢印ヲ爲スヘシ

第六條 規則第十條乘客ノ員數坐席ハ規則第十三條四項ニ依リ馬力ハ一頭曳五十貫目二頭曳八十  
貫目三頭曳百十貫目ノ割ヲ以テ乘客一人ヲ大凡拾六貫目トシ其員數ヲ定ムベシ但シ乘客十年未  
滿ハ二人ヲ以テ一人トシ三年未滿ハ定員外トスベシ其定員及馬力ハ四號雛形ノ検査證ニ明記ス  
ヘシ

第七條 規則第十二條ノ場合ニ於テ危險ノ虞アルモノ及甚シキ不潔ノモノハ一時之カ使用ヲ差留  
メ更ニ改造等ノ手續ヲナサシムヘシ

第八條 規則第十三條ノ車体ハ其構造制限等ノ検査ハ勿論漆ベンキ等十分乾燥シタルヤ又裝置ノ

物質中雨露ノ爲メ乗客ノ衣服ヲ汚染スヘキモノナキヤヲ検査スヘシ

第九條 規則第十四條ノ馬匹ハ籍面ニ相違ナキヤヲ調査シ疾病ノ有無等ハ時機ニ依リ獸醫ニ検査セシメ許否ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 規則第十五條ノ馭者馬丁ハ年齢及規則第十六條ニ抵觸セサルヤヲ調査スヘキハ勿論馭者ニハ尙八號ノ問題ニ科目以上ノ試問ヲ爲シ其答案ノ大意ニ通スル者ニ限り規則第三條ノ鑑札ヲ下渡スヘシ

第十一條 規則第十九條(其他ノ者)トアルハ馬丁相當ノモノヲ指スモノナレハ老幼又ハ虛弱ニシテ馬匹ヲ制馭スル能ハサル如キ者ニ爲サシメサル様豫テ申聞クヘシ

第十二條 規則第三十七條賃錢ノ外市街ノ分ハ別ニ組合ニ於テ規約セシメ認可ヲ與フヘシ

第十三條 規則第三十九條組合ハ從來已設ニシテ不都合ナキモノハ其儘トス新タニ之ヲ設クルモノハ専ラ營業者ノ便宜ヲ計ルコトニ注意スヘシ

第十四條 規則第四十二條ノ取締ハ男子ニシテ算筆ニ通シ且不正ノ所業等之ナキ者ナルヤヲ調査シテ認可スヘシ但シ認可後ト雖トモ弊害等アリ不都合ト認ムルトキハ規則第四十四條ニ依リ改撰セシムヘシ

第十五條 規則第四十五條ノ構造等ハ検査ヲ爲シ不都合ナキヲ認メタル上之ヲ爲サシムヘシ

第壹號雜形

紙 六寸

表面 第何號 北海道人區町村番地 何某

札 乘合馬車營業免許證 北海道人區町村番地 何某

裏面 北海道人廳 何警察署

年月日

第二號雜形

木 二寸五分

表面 第何號 北海道人區町村番地 何某

札 ○乘合馬車(馭者)鑑札 營業者何某

第四號雜形

木 六寸

第何號 車體検査證 北海道人區町村番地 乘合馬車營業 何頭車乘客定員何人 何某

六號式

明治何年四月 同 同

年月日 検査 同 同

北海道人廳 何警察署

第三號式

烙印

初年 二年 三年

検査 同 同

年月日 北海道人廳 何警察署

第五號雛形

二寸五分

表面	木
検査證	馬車用馬匹
札	馬車營業者何某所用 馬名稱毛色年齢

第七號式

烙印	明治何年四月何	同	同
裏面	検査	第何號	年月日
		北海道廳	何警察署

備考 分署ヨリ免許證鑑札ヲ下付スルモノハ定例ノ規式ニ從ヒ北海道廳何々警察署何分署トスヘシ

第八號

取者試問題

- 問 取者ノ就業中鑑札及乗合馬車取締規則ノ外如何ナルモノヲ携帶スヘキヤ
- 答 (ロップ) 麻繩(大ナイフ)(釘拔)(蹄鐵釘)(鐵鎚)等是ナリ
- 問 何等ノ用アリテ右ノ諸品ヲ携帶スルヤ
- 答 (ロップ)ハ諸器械ノ破損ヲ修繕スルニ欠クヘカラス(大ナイフ)ハ馬匹ノ顛倒シタル場合等ニ於テ器械ヲ切斷シテ一時ノ急ヲ救フニ欠クヘカラス
- (釘拔)ハ車體ノ破壞シタル時取放ツニ用ユ
- (蹄鐵釘)(鐵鎚)等ハ途中(蹄鐵釘)ノ抜ケタル場合ニ於テ要用ナリ
- 問 二頭曳ハ互ニ平均ノ力ヲ要スルカ如シ然ルニ一頭力強ク一頭力弱キトキハ如何シテ其釣合ヲ執ル可キヤ

執ル可キヤ

- 答 一頭ノ弱キ方ヲ進メ其強キ方ヲ毎ニ押ヘル心持ニテ執御スルナリ
- 問 三頭曳ノ場合ハ如何ナル用意ヲ要スル乎
- 答 先馬ニ十分曳馴レ力強キ者ヲ用ユルトキハ自然ニ平均シテ進行スルナリ
- 問 先馬ヲ自由ニ進行セシムルノ方法ハ如何
- 答 長キ策ヲ用キテ驅追シ進行上ニ注意ヲ爲スナリ
- 問 二頭曳ノ馬車一頭急病等ニテ斃レタルトキハ如何シテ一時ヲ辨スルヤ
- 答 一方ノ力革ヲ外シ呼出ヨリ(ロップ)ヲ以テ横楫ヘ引付ケ一方ノ馬匹ノミニテ運轉セシムルナリ
- 問 先ツ馬車ヲ引出サントスルニハ如何ナル注意ヲ用ユ可キヤ
- 答 手綱力革釜金其他總テノ器械ニ付破損ノ箇所アラサルヤヲ一々點檢スルコト肝要ナリ
- 問 途中ニテ楫棒ノ折レタルトキハ如何
- 答 青竹又ハ藤木ヲ割リ心棒ヨリ折曲ケテ楫棒ニ添エ(ロップ)ヲ卷キ付ルナリ
- 問 横楫(曳木トモ云フ)折レタルトキハ如何
- 答 矢張青竹又ハ藤木ニテ挾ミ(ロップ)ニテ卷キ付クルナリ
- 問 力革ノ切レタル時ハ如何
- 答 是レ亦タ(ロップ)ヲ代用スルヲ得ヘシ

問 呼出シ楯棒ツリノ切レタル時ハ如何

答 (ロツプ)ニテ繋キ得可シ

問 心棒ノ折レタル時ハ如何ナル方法ニヨリ運轉ス可キヤ

答 心棒ノ本ヨリ折レタルトキハ如何トモ爲シ難ケレトモ途中ヨリ折レタルトキハ楯ノ如キ牢質ノ木ヲ挾ミ(ロツプ)ヲ以テ緊シク卷キ付ケル時ハ一二里位ノ運轉ニハ差支ヘサルナリ

問 (アミダ)ノ折レタル時ハ如何

答 一時ニ多分折レタル場合ニ非サレハ差支ナキ者トス最モ其折レタル(アミダ)ヲ(ロツプ)ニテ卷付ケ其上猶前後ノ(アミダ)ヨリ(ロツプ)ヲ以テ編付ケ置クヘン

問 (バチ)ノ折レタル時若クハ離レタル場合ハ如何

答 (ロツプ)ヲ添ヘ亦其上ヲ(ロツプ)ニテ卷キ付ケ置ク可シ

問 道中二間半位ノ所ニテ他ノ馬車ヲ回避スヘキ場合ハ凡何間前ヨリ注意ス可キ乎

答 二間程前ヨリ注意シテ楯ヲ切ル可シ

○明治二十四年八月二十七日北海道廳訓第九十二號警部警署宛

乗合馬車取締規則施行ノ日ハ左ノ施行細則ニ依リ十分取締向行届候様致スヘシ(施行細則ハ前ニ掲ケル取扱心得ト大略相同シキヲ以テ略ス)

○明治二十二年十一月二十八日北海道廳令第七十二號

營業人力車取締規則左ノ通相定メ明治二十三年一月一日ヨリ左ノ地ニ施行ス

但明治十八年一函館縣甲第二號布達及同年二同縣第六號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

札幌區

札幌郡豊平村

函館區

龜田郡龜田村

龜田郡下湯川村

小樽市街

江差市街(二十三年四月廳令第一七七號ヲ以テ追加)

營業人力車取締規則

第一章 通則

第一條 人力車營業トハ轆子ヲシテ車ヲ轆カシメ又ハ自ラ轆子トナリ營業スルヲ云フ

第二條 人力車營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第三條 營業人ニ關スル願届ハ總テ取締ノ加印ヲ要ス

第四條 營業人ハ轆子ノ族籍住所氏名年齢ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届出一人ニ付鑑札一個ヲ受クヘシ

第五條 營業人自ラ車ヲ轆ク時ハ總テ轆子ノ例ニ從フヘシ

第六條 轆子ノ鑑札ハ毎年四月所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ク可シ其検査ヲ受ケサルモノハ無

効タルヘシ

第七條 車體ハ營業出願ノ節及毎年四月所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受ケヘシ其新造改造又ハ讓受ヲ爲シタル時ハ定期ニ拘ハラヌ届出検査ヲ受クヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出書替又ハ再渡ヲ請フヘシ

- 一 轉居改氏名其他免許證車體検査證鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
- 二 免許證車體検査證鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第九條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出免許證車體検査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

- 一 廢業又ハ廢車シタル時
- 二 人力車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時
- 三 輓子ノ使用ヲ罷メタル時

第十條 免許證車體検査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十一條 車體検査證ハ車ノ蹴込板正面ニ釘付スヘシ

第十二條 検査證アル車ト雖モ第十三條ノ制限ニ違ヒ又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルヲ認ムル時ハ其使用ヲ差止ムヘシ

第二章 車體ノ構造及輓子ノ資格

第十三條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 一人乗ハ横巾内法二尺未滿二人乗ハ同上二尺以上タルヘシ

二 車體ハ無地漆塗等ニシテ中張ハ革天蔴絨羅紗其他適當ノモノヲ用フヘシ

三 車體ニ同キ塗色ノ泥除ヲ備フヘシ

四 ゴム引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フヘシ

五 不潔ナラサル蒲團及膝掛ヲ備フヘシ

六 細長提灯ヲ備ヘ且蠟燭摺付木ヲ用意スヘシ

第十四條 輓子ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルヘシ

- 一 年齢滿十七年以上ニシテ身體強壯ナル者
- 二 其土地ノ路程ヲ畧知スル者

第十五條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ左ノ各項ニ觸ル、者ハ輓子タルヲ得ス

- 一 監視中ノ者
- 二 強窃盜強姦及幼者ヲ略取誘拐スル罪若クハ過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者

第十六條 輓子ノ服裝ハ法被股引ノ類ヲ用フヘシ

第三章 輓子就業制限

第十七條 輓子ハ鑑札及賃錢表ヲ所持シ警察官又ハ乗客ニ於テ見シコトヲ求メタル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十八條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス

第十九條 往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ人力車ヲ置ヘカラス



第二十條 乘客ノ指定セサル宿泊店飲食店及其他ノ場所ニ輓入ルヘカラス

第二十一條 制止ヲ肯ンセスシテ出火場其他群集ノ場所ニ輓入ルヘカラス

第二十二條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

- 一 人力車ハ道路ノ中央ヲ通行シ車馬及歩行者ニ行逢フ時ハ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ
- 二 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ阪路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
- 三 前車徐行シ後車疾行セントスル時ハ後車ヨリ合圖ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ
- 四 郵便用消防用ニ供スル車馬又ハ葬送等ニ行逢フ時ハ避讓スヘシ

第二十三條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スル時ハ徐行スヘシ且街角ヲ過クル時ハ右ハ大廻ヲ爲シ左ハ小廻ヲ爲スヘシ

第二十四條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ連繫シテ輓クヘカラス

第二十五條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第二十六條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第二十七條 乘客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アリタル時ハ直ニ還付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署又ハ巡查交番所ニ届出ヘシ

第四章 車賃

第二十八條 人力車ノ賃錢ハ人馬車繼立營業規則ニ依リ認可ヲ受ケタル賃額ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第二十九條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ定額外ノ賃錢ヲ請求スヘカラス

第三十條 汽車停車場其他群集ノ場所ニ至ラントスル時ハ到著前其賃錢ヲ請求スルヲ得

第五章 乗載制限

第三十一條 一人乘ニ二人二人乘ニ三人以上ヲ乗載スヘカラス

但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第三十二條 左ニ記載シタルモノハ人力車ニ乗載スヘカラス

- 一 六種傳染病者及癩病者
- 二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品

第六章 營業組合

第三十三條 人力車營業人ハ警察署又ハ分署部内ヲ以テ區域トシ組合ヲ設クヘシ

但部内ノ狀況ニ依リ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ便宜之ヲ數組トスルヲ得

第三十四條 組合ヲ設ケス又ハ組合ニ入ラスシテ營業ヲ爲スヘカラス

第三十五條 組合ニハ營業人中ヨリ取締一人ヲ公撰シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第三十六條 組合ニ於テハ規約ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第三十七條 取締ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 人力車營業ニ關スル規則命令ヲ營業人ニ通知スル事
  - 二 組合營業人ノ願届ニ加印スル事
  - 三 取締ノ撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フ事
- 右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第三十八條 警察署又ハ分署ニ於テ取締ニ不都合アリト認ムル時ハ改撰セシムルコトアルヘシ

第三十九條 雪中函櫃等ヲ以テ人力車ニ換フルモノハ總テ本則ニ從フヘシ

第七章 罰例

第四十條 本則第二條第四條第五條第七條第八條第十條第十一條第十七條第十九條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條ニ違背シタル者及第三十四條ニ違背シ組合ニ入ラスシテ營業ヲ爲シタルモノハ違背罪ヲ以テ罰セラルヘシ

但刑法ニ正條アルモノハ其本法ニ從フ

○明治二十二年十二月十一日北海道廳訓令號外札幌、函館七飯、小樽警察署宛

營業人力車取締規則施行ノ日ハ左ノ取扱心得ニ依リ取締行届候様致スヘシ

營業人力車取締規則取扱心得

第一條 人力車營業人及挽子ハ種々弊害アルモノナルヲ以テ規則各條ヲ豫テ知悉セシメ犯則其他

不都合ナキ様充分告諭ヲ爲スヘシ

第二條 規則第二條ノ營業願出ルトキハ第一號錐形ノ免許證ヲ下付スヘシ但願書ニハ別段指令ニ及ハサルモノトス

第三條 規則第四條ノ挽子人名等届出ル時ハ全則第十四條第十五條ニ抵觸セサルヤヲ調査シ二號錐形ノ鑑札ヲ下付スヘシ

第四條 規則第六條ニ於テハ三號式ノ檢印ヲ爲スヘシ

第五條 規則第七條ニ於テハ全則第十三條ニ抵觸セサルヤヲ調査シ四號錐形ノ檢査證下付又ハ五號式ノ檢印ヲ爲スヘシ

第六條 規則第十二條ニ於テハ危險ノ虞アルモノ及甚シキ不潔ノモノハ一時其使用ヲ差止メ更ニ改造ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第七條 規則第十三條ハ其構造制限等ノ檢査ハ勿論漆ベンキ等十分乾燥シタルヤ又裝置ノ物質中雨露ノ爲メ乗客ノ衣服ヲ汚染スヘキモノナキヤ等ヲ檢査スヘシ

第八條 規則第二十八條市街中ノ賃錢ハ組合ニ於テ規約セシメ認可ヲ與フヘシ

第九條 規則第三十二條ニ於テ傳染病患者等ノ乗載ヲ特許シタルトキハ例規ニ照ラシ消毒法ヲ施行シタル後ニアラサレハ使用セシムヘカラス

第十條 規則第三十三條ノ組合ハ從來已設ニシテ不都合ナキモノハ其儘トシ新ニ之ヲ設クルモノハ專ラ營業人ノ便宜ヲ計ルヘシ

第十一條 規則第三十五條ノ取締ハ男子ニシテ筆算ニ通シ且ツ不正ノ所業等ナキ者ヲ認可スヘシ

第一號雛形

紙	第何號
表	人力車營業免許證
裏	北海道郡區町村番地 何 某

寸法適宜

第二號雛形

木	第何號
表	北海道郡區町村番地 何 某
裏	人力車輓子鑑札 營業者 何 某

二寸五分

三號式

格印	明治何年	同	同
裏	檢印	同	同
年月日	北海道廳	何警察署	

第四號雛形

裏	年月日
表	北海道廳
裏	何警察署

木	第 車體検査證		
表	北海道郡區町村番地 人力車營業 何 某		
裏	第五號式		
格印	明治何年	同	同
札	檢印	同	同
年月日	北海道廳	何警察署	

三寸

備考

分署ニテ取計ヒタルモノハ定例ノ通北海道廳何警察署何分署ト記スヘシ

○明治二十六年十一月十五日北海道廳令第三十八號

通船營業取締規則左ノ通定ム

但明治十五年八月函館縣甲第二十五號布達同十八年六月根室縣甲第三十七號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

通船營業取締規則

第一章 通則

第一條 通船營業トハ通船ヲ使用シ船夫ヲシテ港灣内ニ於テ客ノ送迎又ハ手荷物ノ運漕ヲ爲サシムル營業者ヲ云フ

第二條 通船營業ヲ爲サントスルモノハ所轄警察官署ニ出願許可ヲ受クヘシ

第三條 營業者ハ船夫ノ族籍身分住所氏名年齢ヲ記シ所轄警察官署ヘ届出一人毎ニ鑑札ヲ受クヘシ

營業者自ラ船夫ノ業ヲ爲サントスルトキハ船夫ノ鑑札ヲ受クヘシ

第四條 營業ニ關スル願届ハ總テ取締ノ加印ヲ要ス但組合ヲ設ケサルトキハ此ノ限リニアラス

第五條 營業者ハ別記雛形ノ標旗標燈ヲ製シ標旗ハ所轄警察官署ヘ差出檢印ヲ受クヘシ

第六條 船體ハ營業出願ノ節及毎年四月所轄警察官署ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ

新造、改造、修繕又ハ讓受買受ヲ爲シタルトキハ定期ニ拘ハラス前項ノ例ニ從フヘシ

第七條 船夫鑑札及標旗ハ毎年四月所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ

第八條 第六條第七條ノ検査期日並ニ場所ハ所轄警察官署ノ定ムル所ニ從フヘシ

第九條 検査證、鑑札、標旗ヲ遺失毀損シ又ハ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ其再渡書換又ハ檢印ヲ受クヘシ

第十條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署へ届出検査證又ハ鑑札ハ之ヲ返納シ標記ハ消印ヲ受クヘシ

一 廢業又ハ廢船シタルトキ

二 通船ヲ賣渡又ハ讓渡タルトキ

三 船夫ヲ解罷シタルトキ

第十一條 検査證ハ船内艙部見易キ所ニ釘付スヘシ

第十二條 検査證、鑑札、標旗ハ賣渡讓渡又ハ貸與スヘカラス

第十三條 検査證アル通船ト雖モ破損若クハ腐朽ニ至リ危險ト認ムルトキハ警察官吏ニ於テ検査證ヲ引上ケ其使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第二章 船體ノ構造及船夫ノ資格

第十四條 船體ハ堅牢ニシテ其構造ハ重量吃水線ヲ劃スヘキモノトス

第十五條 船夫ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ル

一 年齢滿二十年以上ニシテ身體強壯ナルモノ

二 船夫ノ業ニ熟練シタルモノ

第三章 就業制限

第十六條 船夫ハ所轄警察官署ニテ定メタル場所ノ外船客ノ上陸乗船及ビ手荷物ノ揚ケ卸ヲナスヘカラス

第十七條 通船ニハ晝間標旗夜間ハ標燈ヲ船體ニ掲出スヘシ

第十八條 船夫ノ服裝ハ法被股引又ハ半股引ヲ用フヘシ

第十九條 船夫ハ鑑札ヲ携帶シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見ンコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十條 船夫ハ正當ノ事由ナクシテ出船ヲ拒ミ又ハ酩酊シテ其業ヲ執ルヘカラス

第二十一條 航路ノ妨害トナルヘキ場所ハ通船ヲ繋留スヘカラス

第二十二條 船舶ノ投錨後ニアラサレハ通船ヲ近付クヘカラス

第二十三條 通船ヲ併漕シ又ハ競漕スヘカラス

第四章 賃錢及乗載制限

第二十四條 乗客及手荷物賃錢額ハ組合(組合ヲ設ケサルトキハ營業者)ニ於テ之ヲ定メ所轄警察官署ニ届出ヘシ

賃錢額ハ警察官署指定ノ場所及ヒ船内艙部見易キ所ニ揭示スヘシ

前項ノ賃錢額ハ英文ヲ以テ併記セシムルコトアルヘシ

第二十五條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ定額外ノ賃錢ヲ請求スヘカラス

第二十六條 乗客及ヒ手荷物ノ乗載量ハ吃水線ヲ超ユヘカラス但風波ノ模様ニ依リ警察官吏ニ於テ臨時其乗載ヲ制限スルコトアルヘシ

第二十七條 危害品又ハ六種傳染病患者ハ警察官吏ノ指揮アルニアラサレハ乗載スヘカラス

第五章 營業組合

第二十八條 通船營業者ハ一港灣毎ニ組合ヲ設クヘシ但土地ノ狀況ニ依リ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ組合ヲ設ケス又ハ數組ニ分離スルコトヲ得

第二十九條 警察官署ノ認可ナクシテ組合ヲ設ケス又ハ組合ニ入ラスシテ營業ヲナスヘカラス

第三十條 組合ニハ取締人一名ヲ置クヘシ其取締ハ組合營業者中ヨリ撰擧シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 取締ハ營業上ニ類スル諸般ノ監督ヲ爲スヘキモノトス

第三十二條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 組合ヲ數個ニ分チタルトキハ連合規約ヲ定メ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 組合員ニ於テハ營業者ノ加入ヲ拒ムヘカラス

第三十五條 取締ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 營業ニ關スル規則命令ヲ營業人ニ通知スルコト

二 營業人ノ願届ニ加印スルコト

三 賃錢定額ヲ掲出スルコト

四 取締撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フコト

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第三十六條 警察官署ニ於テ取締ニ不都合アリト認ムルトキハ之レヲ改選セシムルコトアルヘシ

第六章 罰則

第三十七條 本則第二條第三條第五條第六條第七條第九條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條

第一項第二十七條第二十九條第三十四條ニ違背シ又ハ第二十四條第三項及第二十六條但書警察官ノ指揮ヲ受ケ其命ニ從ハサルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二

十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

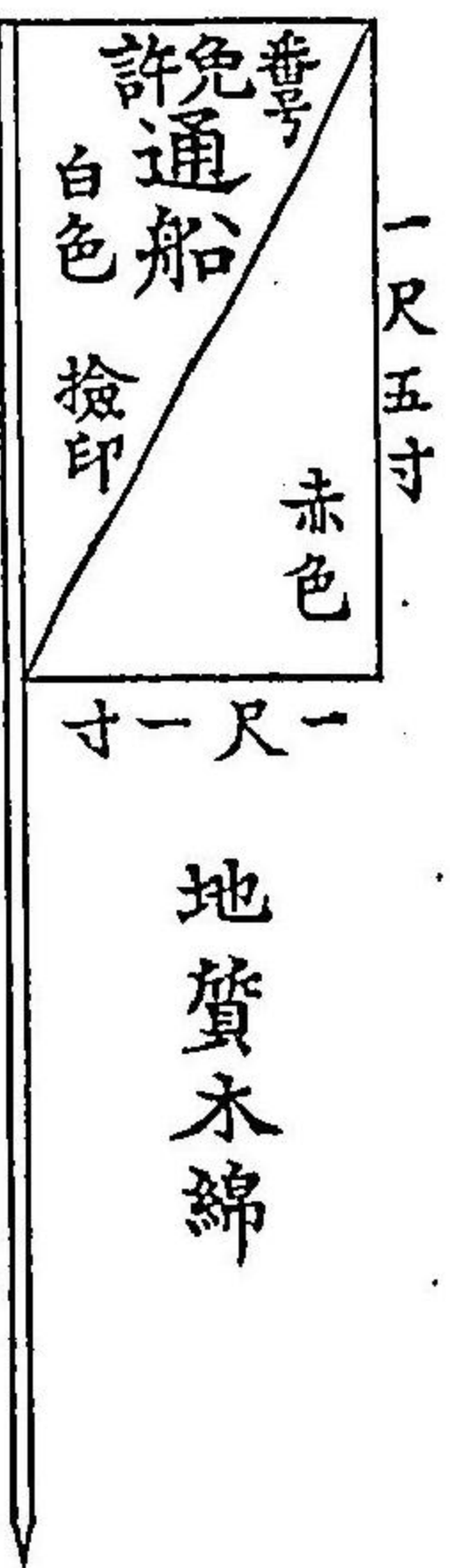
第三十八條 本則第三條第十四條第十五條第二十一條第二十二條第二十三條第二十六條第二十七條第三十七條ハ賃錢ヲ取ラサル附通船ニモ適用ス

第三十九條 従前許可ヲ受ケタル營業者船夫ハ本令施行ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ更ニ本則ニヨリ出願等ノ手續ヲ爲スヘシ

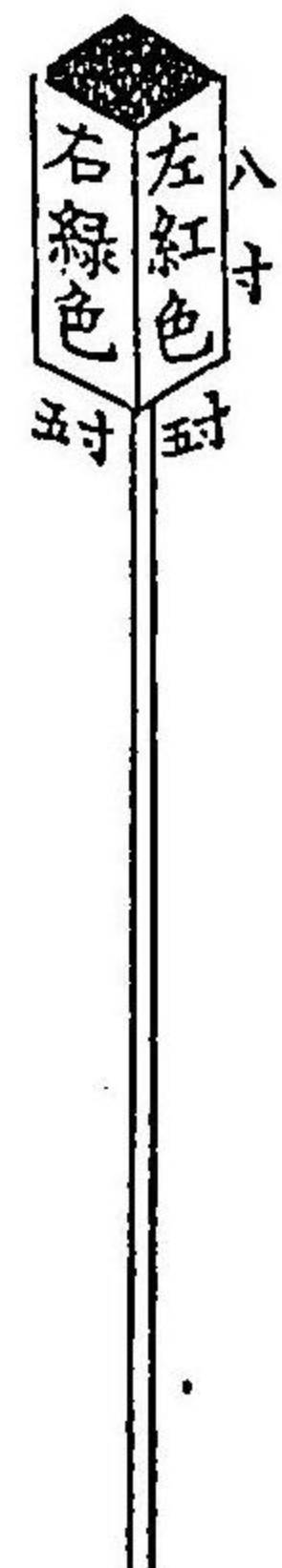
標 旗

第八類 諸取締

二六七



標 燈 裏面左右暗黒色



○明治二十六年十一月十四日北海道廳訓第三百十四號警察署警 察分署宛  
 通船營業取締規則取扱手續左ノ通り定ム

通船營業取締規則取扱手續

- 第一條 警察官署ニ於テハ第一號第二號ノ帳簿ヲ調製シ船体及標旗鑑札ノ検査事項等ヲ記載スヘシ
- 第二條 船体検査證ハ第三號錐形ニヨリ木札ヲ以テ調製スヘシ
- 第三條 船夫鑑札ヲ下付セントスルトキハ規則第十五條ニヨリ調査シ不都合ナシト認ムルモノニ限リ第四號錐形ノ鑑札ヲ下付スヘシ
- 第四條 検査證又ハ船夫鑑札ノ檢印ハ下ノ烙印ヲ用ユヘシ



- 第五條 検査證又ハ船夫鑑札ヘ捺スヘキ署印ハ烙印ヲ用ユルモノトス
- 第六條 検査證又ハ船夫鑑札ハ六ヶ年毎ニ更改スヘシ
- 第七條 船客上陸乗船荷物揚卸場ハ必要ニ應ジ之ヲ指定シ第五號錐形ノ標木ヲ樹ツヘシ  
 (第一號ヨリ第五號ニ至ル錐形略ス)

○明治二十三年四月二十四日北海道廳令第十八號  
 港内取締規則左ノ通相定ム

但明治十四年一月開拓使函館支廳第四號布達及同年二月同支廳第十一號布達ハ廢止ス

港内取締規則

第一章 通則

- 第一條 本則ハ第二章ニ記載スル各港内及其海岸地ニ適用ス
- 第二條 左ノ事項ハ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經由シ本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
  - 一 船舶定錨標ヲ設置及改造スル事
  - 二 棧橋架設又ハ標燈其他ノ目標ヲ建設及改造スル事
  - 三 條 左ノ事項ハ圖面ヲ添ヘ所轄郡區役所ヲ經由シ本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
    - 一 波止場揚場石垣板柵等ヲ築造建設及改造スル事
- 第四條 左ノ事項ハ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ  
 但函館港ニ於テハ第六項第七項ハ函館警察署水上警察所ニ本文ノ手續ヲ爲スヘシ(二十五年三月廳令第十四號ヲ以テ)

テ七項ハ  
ノ下改正

- 一 繫船杭又ハ筏等ノ繫留杭ヲ建設改造及修理スル事
  - 二 波除杭石垣根留等ヲ建設改造及修理スル事
  - 三 棧橋標燈其他ノ目標及波止場物揚場石垣板柵等ヲ修理スル事
  - 四 海中浚渫又ハ土砂ヲ採掘スル事
  - 五 游泳場ヲ設クル事
  - 六 波止場物揚場及海岸地ニ一夜以上諸車其他ノ物品ヲ置ク事
  - 七 足代ヲ設クル事
  - 八 花火其他火技ヲ弄スル事
- 第五條 左ノ事項ハ二日以前所轄警察署ニ届出ヘシ
- 一 船舶ノ進水式ヲ執行スル事
  - 二 端艇ノ競漕ヲ執行スル事
  - 三 施餓鬼ヲ執行スル事
- 第六條 第二條第三條第四條ノ各項ニシテ一旦許可シタルモノト雖トモ不都合ノ廉アリト認ムル時ハ之ヲ差止め又ハ改造ヲ命スルコトアルヘシ
- 第七條 前條ニ記載シタル各條ノ各項ニシテ撤去又ハ讓受等ヲナシタル時ハ速ニ許可ヲ受ケタル官署ニ届出ヘシ

第八條 船舶及筏等ハ他ノ船舶出入ノ航路ニ障碍ナキ場所ヲ撰ミ碇泊スヘシ

但シ障碍ノ場所ト認ムル時ハ他ニ碇泊ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 船舶ノ燈火及航法ハ明治十三年第三十五號公布海上衝突豫防規則ニ遵フヘシ

第十條 軍艦ヲ除クノ外火藥其他破裂質ヲ含有スル物品ヲ搭載シタル船舶又ハ傳染病者ヲ搭載シタル船舶ハ速ニ所轄警察署(函館港ハ函館警察署水上警署)ニ届出其指示スル場所ニ碇泊スヘシ其火藥及破裂質ヲ含有スル物品ヲ搭載セントスル時モ亦同シ(二十五年三月總令第十號ヲ以テ割註更正)

第十一條 港内ニ建物ヲ設ケ又ハ波止場物揚場棧橋海岸地等ニ車馬竹木其他ノ品物ヲ放置スヘカラス

第十二條 棧橋又ハ堤防ノ害トナルヘキ場所若クハ護岸ノ建設物並浮標礁標其他標木等ニ船舶及筏等ヲ繫留スヘカラス

第十三條 波止場物揚場ノ沿岸ニ濫ニ船舶及筏等ヲ繫留スヘカラス

第十四條 他人ノ繫キタル船舶及筏等ヲ解放スヘカラス

第十五條 水路ニ船舶其他ノ物件ヲ横ヘ又ハ並列シテ通航ノ妨害ヲナスヘカラス

第十六條 港内及波止場物揚場其他沿岸堤防地等ニ塵芥瓦礫炭灰其他禽獸ノ死屍等渾テ障害物ヲ投棄スヘカラス

第十七條 棧橋又ハ波止場物揚場外ニ於テ濫ニ乗客及荷物ノ揚卸ヲナスヘカラス  
但棧橋ハ手荷物外ノ荷物ヲ積ミ卸シスルヲ得ス

第十八條 夜間燈火ナクシテ乘客及荷物ノ揚卸シヲナスヘカラス  
第十九條 港内ニ於テ濫ニ發砲スヘカラス

第二章 各港

第二十條 函館港ハ山脊泊町南端ヨリ上磯郡上磯村有川末流ニ至ル直線ヲ以テ其經界トス  
第二十一條 根室港ハ辨天嶋西端ヨリ陸地マテ及同嶋東端ヨリ根室村字ベンケモイ岬ニ至ル直線ヲ以テ經界トス

第二十二條 根室港ハ汽船ハ港内ノ中央ニ碇泊シ西洋形帆走船及日本形船ハ辨天嶋ニ沿フテ碇泊スヘシ

第二十三條 小樽港ハ小樽郡熊碓村字平磯岬ヨリ高嶋郡高嶋村字鹿岬ニ至ル直線ヲ以テ其經界トス

第二十四條 室蘭港ハ繪鞆村字シクツシ岬ヨリ輪西村字ホロモイ岬ニ至ル直線ヲ以テ其經界トス  
第二十五條 江差港ハ鷗島ヲ以テ起點ト爲シ南ハ寺小屋町字武士川北ハ片原町字輪島澤ニ至ル直線ヲ以テ其經界トス(二十六年十一月總令第三十九號ヲ以テ第二十四條第二十五條追加)

第三章 罰例

第二十六條 本則第二條第三條第四條第五條第七條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ  
但本則ニ明文アルモノニシテ刑法及他ノ規則ニ正條アルモノハ各其法律規則ニ從フ(二十六年十月總令)

第三十九號ヲ以テ第二十  
四條ヲ第二十六條ト改ム

○明治九年五月二十日開拓使函館支廳第六十一號布達

函館稅關東脇ニアル波止場ヲ以テ外國船乗込ノ内國人乗船上陸場ト相定候條爲心得此旨布達候事

○明治二十三年五月二日北海道廳令第二十四號

河川航通船規則左ノ通相定メ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

河川航通船規則

第一條 航通船トハ汽船西洋形帆走船日本形船及筏ヲ總稱ス

第二條 河川ヲ航通スル船舶ハ上航下航共各其右方ヲ航行スヘシ

駢航橫航若クハ斜航シ他船ノ航路ヲ妨害スヘカラス

第三條 上航ノモノ下航ノモノニ遭遇スルトキハ上航ノモノ右方ニ避クヘシ

第四條 屈曲セル場所若クハ霧中ニ於テハ汽笛號鐘號角其他ヲ以テ信號ヲナシ且ツ一時間六海里

以上ノ速力ヲ以テ進航スヘカラス

第五條 同一ノ航路ニ進航スルトキハ直流ノ場所又ハ他船ヲ超過セントスル場合ヲ除クノ外必ス

相當ノ距離ヲ保ツヘシ

第六條 夜中航行スルトキハ西洋形船日本形回漕船ハ海上衝突豫防規則第三條ノ燈火ヲ掲ケ其他

ノ船舶ハ左ノ區別ニ從ヒ燈火ヲ船首ニ掲クヘシ

但燈火ノ位置ハ水面上四尺以上ニ掲クヘシ



上航船 白燈貳個(縦ニ連掲ス)

下航船 白燈壹個

第七條 航行中ハ競走ヲ爲スヘカラス

第八條 船舶ヲ繫留セントスルトキハ勉メテ偏隅ニ繫キ他船ノ航路ヲ梗塞スヘカラス

第九條 堤防若クハ河底其他ノ築造物ヲ損害スヘカラス

第十條 途中ニ於テ故障ヲ生シ航行シ能ハサル場合ニ於テハ他船ノ航通ヲ妨ケサル様其手配ヲナスヘシ

第十一條 本則第二條第二項第三條第四條第六條第七條第八條第九條第十條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

附則

本則ハ當分ノ内石狩川釧路川ノ外之レヲ施行セス

○明治二十五年三月二日北海道廳令第八號

電氣營業取締規則別紙ノ通定ム

但明治二十四年<sup>十二</sup>北海道廳令第五十九號北海道電燈會社命令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止

(別紙)

電氣營業取締規則

第一章 通則

第一條 電氣營業トハ電燈線又ハ電力線ヲ施設シ他人ノ需メニ應シ電氣ヲ供給スルモノヲ云フ

第二條 電氣營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ空架線又ハ埋線施設工事ノ落成期日ヲ記シ且左ノ書類ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經テ當廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其改造變更若クハ延長セントスルトキ亦同シ

一 電柱及埋線ノ敷地使用ニ係ル免許證寫

但私有地ニ係ルモノハ其地主ノ承諾書

二 圖面 (圖面ニハ線路並ニ其近傍ノ町名、電柱最近地ノ番地、電柱ノ番號、電柱ノ位置、街路ヘノ出幅、埋線試験口ノ位置、ヘシ又電流式ノ區別及電壓ノ変其他参照トナルヘキ件ハ圖中適宜ノ所ニ簡明ニ記載スヘシ) 變換器者クハ開閉器等ヲ取付ル電柱等ノ凡例ヲ舉ケ記入ス

三 會社ニ係ルハ其社則

但最初出願ノ時ニ限ル

第三條 既設ノ線柱ニ添架セントスルトキ及需用家引込線ニシテ其需用家ノ構外ニ電柱ヲ建設セサル場合ハ免許ヲ受ケスシテ架設スルヲ得ヘシ

第四條 電燈線又ハ電力線ハ狹隘又ハ他ニ支障アル場所ニ在テハ其施設ヲ許サ、ルコトアルヘシ

第五條 第二條ノ工事及第三條ノ添架落成シタルトキハ所轄警察署ヲ經テ當廳ニ届出検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ使用ヲ許サス

第六條 營業者ハ事業上相當ノ學識經驗アル技術長ヲ置キ開業前其履歷書ヲ添所轄警察署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ

第七條 需用家ニ電燈又ハ電力線ヲ新設若クハ増設シ送電スルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ月曜日毎ニ取纏メ所轄警察署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ

但其營業者ニ於テ工事ヲ擔當セサル電燈線又ハ電力線ニ電氣ヲ供給セントスル場合ニ於テハ技術長ノ證明書ヲ添ヘ届出ヘシ

- 一 電燈種類(白熱燈、弧、狀燈ノ別)及電燈個數
- 二 電動機ノ種類(並列同線若クハ直列同線ニ接続スル區別)其箇數及各個ノ馬力
- 三 需用者ノ住所氏名及工事擔當技術者ノ氏名

第八條 公衆通信ノ用ニ供スル電信線ヲ横切若クハ之ニ並行シテ電燈線又ハ電力線ヲ架設セントスルトキハ札幌電信建築署ニ届出立會ヲ請フヘシ

但電話線ニ係ルトキハ所管ノ官署又ハ所有主ノ立合ヲ求ムヘシ

第九條 當廳ハ臨時掛官吏ヲシテ既成工事ノ有様ヲ實査セシメ安全ナラサル虞アリト認ムルトキハ線路ノ一部若クハ其全部ノ使用ヲ停止セシメ或ハ營業者ノ自費ヲ以テ其改設又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 既設ノ電燈線又ハ電力線ト雖モ公益ノ爲メ施行スル工事又ハ通行上支障アル場合ニ於テハ營業者ノ自費ヲ以テ第十六條及第十八條ニ定ムル所ノ距離ヲ伸長シ又ハ適當ノ豫防ヲ施サシメ或ハ其位置又ハ構造ヲ變更セシメ又ハ線柱ヲ撤去セシムルコトアルヘシ

第十一條 當廳ハ必用ト認ムル場合ニハ營業者ヲシテ電氣ノ供給ニ使用スル器具及物品ノ見本ヲ

差出サシメ又ハ當廳掛官吏立會ノ上其試験ヲ執行セシムルコトアルヘシ若シ其試験ヲ拒ムトキハ之ヲ執行スル迄使用ヲ停止ス

但見本ノ器具物品ノ代價及試験ニ要スル費用ハ營業者ノ自辨タルヘシ

第十二條 天災其他避クヘカラサル事故アルニアラスシテ落成期日ノ翌日ヨリ三個月間内ニ施設ヲ竣ハラサルトキ若クハ工事落成後一ケ年間其線路使用セサルトキハ其免許ノ効ヲ失フモノトス

第十三條 天災其他避クヘカラサル事故アルニアラスシテ休業三十日ニ涉ルトキハ其營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第十四條 第十二條第十三條ノ場合ニ於テ街路ニ係ル線柱ハ失効ノ翌日ヨリ六十日間内ニ營業者自費ヲ以テ之ヲ撤去スヘシ

但廢業ノトキモ本條ノ例ニ依ル尤モ撤去期限ハ廢業届出ノ翌日ヨリ六十日間内トス

第十五條 左ノ各項ニ係ルモノハ三日以内ニ所轄警察署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ

- 一 電燈線又ハ電力線ヲ撤去シ若クハ之ヲ現在ノ儘使用ノ目的ヲ以テ賣渡讓渡シタル時
- 二 轉居改氏名又ハ廢業シタル時
- 三 會社ノ社則社長ノ變更及第六條ノ技術者ヲ變換シタル時

第二章 電線施設制限

第十六條 空架ノ電燈線又ハ電力線ノ最下線ハ地表ヲ距ル十六尺以上タルヘク又家屋ノ側面ニ沿

ヒ架設スルモノハ四尺以上屋上ヲ架渉スルモノハ六尺以上各其家屋ヨリ離隔セシムヘシ  
但需用家ヘノ引込線ニシテ當應ノ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス(二十五年度令第十七號ヲ以テ但書中ニシテ以下二十一號ヲ以テ改)

第十七條 堤塘敷又ハ田野等ニシテ危險ノ虞ナシト認ル場所ニ係ル空架ノ電燈線又ハ電力線ハ地表上ノ距離ニ限リ前條指定外ニ低下スルヲ許可スルコトアルヘシ  
但道路ニ係ル空架ノ電燈線電力線ト雖モ工地上止ムヲ得サル場合ニ限リテハ特ニ本條ノ例ニ據ル

第十八條 電燈線又ハ電力線ハ電信電話線ト並行シテ架設スルトキハ五尺以上隔離セシメ交番電流式ニ係ル線又ハ弧狀燈線又ハ直列ニ結ヘル電動線ト電話線ト並行架設スルトキハ十二尺以上隔離セシムヘシ  
但工地上止ムヲ得サル場合ニ於テ電信電話線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ及需用家ヘノ引込線ニシテ工地上止ムヲ得サル場合ニ限リ本條指定ノ距離ニ依ラス架線スルヲ得ヘシト雖モ三尺以内ニ接近セシムルコトヲ許サズ

第十九條 電燈線又ハ電力線ハ電信線電話線ト交叉架設スルトキハ直角形(需用家ヘノ引込線ハ直角ニシテ架セサルモ妨ケナシ)ニシテ三尺以上隔離セシメ交叉ノ部分ハ其線質及建設ニ注意シ其線ト電信線電話線ト混觸ヲ惹起サハル様豫防ヲ爲スヘシ

第二十條 總テ高壓式(直通電流ニアリテハ三百ワット以上交番電流ニアリ)ノ電燈線又ハ電力線ハ特ニ善良ナル様豫防ヲ爲スヘシ

ナル絶縁物ヲ以テ被覆シ人ノ容易ニ觸レサル様施設シ且其要所ニ開閉器ヲ設置スヘシ

第二十一條 電燈線又ハ電力線ノ電路ニハ全部線條ヲ用ヒ決シテ地盤或ハ瓦斯管等其他ノ物件ヲ使用スヘカラス

第二十二條 高壓交番電流線ヲ支持スル腕木ハ全部赤色ニ之ヲ塗り高壓直通電流線ヲ支持スル腕木ハ其碼子ノ下凡ソ三寸ヲ赤色ニ塗ルヘシ

第二十三條 變換器及其附屬品ハ地上十六尺以上ノ所ニ於テ電柱ニ取付ヘシ  
但電柱ヲ建設スル能ハサル場合ニハ成ルヘク屋外ニ於テ水火ニ侵サレサル所ヲ擇ヒ且本業ニ従事スルモノ、外容易ニ人ノ之ニ觸ル、能ハサル様裝置スヘシ

第二十四條 電燈線又ハ電力線ニハ適當ノ箇所ニ保安器ヲ裝置シ不測ノ災害ヲ豫防スヘシ

第三章 就業制限

第二十五條 線路ハ毎日試験ヲ爲シ完全ト認ムルニアラサレハ送電スヘカラス

第二十六條 營業者ハ其送電スル電燈線又ハ電力線架設線路ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派出シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其旨現場出張ノ警察官ニ届出ヘシ  
但該官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ退場スルヲ得ス

第二十七條 出火場ニ出張ノ技術者又ハ工夫ハ第一號ノ章旗ヲ携帯スヘシ

第二十八條 高壓式空架ノ電燈線又ハ電力線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ流電ヲ止メ又ハ開閉器ヲ開キ流電ヲ遮斷シ其遮斷區域内電線ノ各要所ニ第二號圖ノ章旗ヲ掲クヘシ

第四章 罰則

第二十九條 第二條第五條第九條第十條第十一條第十四條第十八條但書第二十一條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條及第二十八條ヲ犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

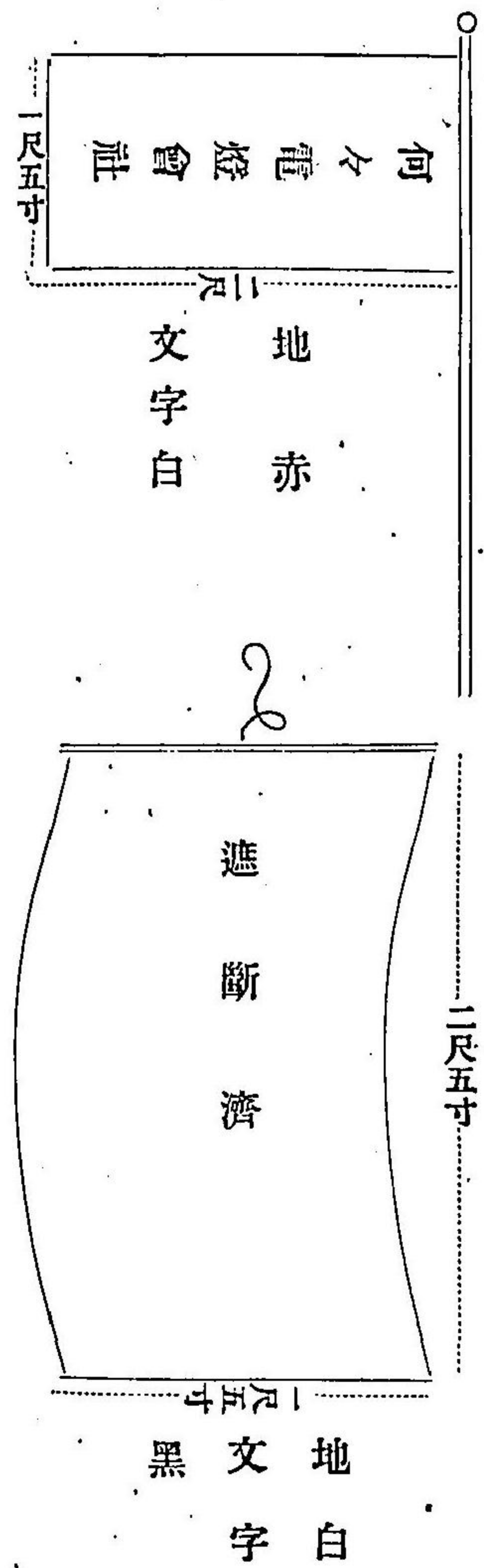
第三十條 第六條第七條第八條第十五條及第二十七條ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附則

一 自家用ノ爲メ發電器械ヲ据付公道又ハ他人ノ所有地ヲ經テ電燈線又ハ電力線ヲ施設セントスル者ハ本則第一條第六條第七條及第十三條ヲ除クノ外都テ各條ヲ適用ス

一號圖

二號圖



○明治二十五年十一月十一日北海道廳令第三十二號

陸上用蒸汽機關檢査規則左ノ通定ム

但在來使用セル蒸汽機關ニ係ルモノハ本則第一條四隣ノ承諾書ヲ要セス其第二條以下ニ牴觸スル廉ハ來ル明治二十六年十月申中ヲ限リ整頓スヘシ初回定期檢査ハ全年四月三十日迄ニ願出ツヘシ

明治二十二年六月北海道廳令第四十四號ハ廢止ス(第四十四號ハ蒸汽機檢場取締規則ナリ)

陸上用蒸汽機關檢査規則

第一條 諸工場其他ニ於テ蒸汽機關ヲ設置使用セントスル者ハ第一號書式ニ據リタル願書ニ四隣接續(橋外四方トモ六十間以内)地主及家主現住者ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ本廳ヘ出願檢査ヲ受クヘシ

第二條 蒸汽機關檢査ハ都テ檢査官吏ヲ派遣シ檢査セシムルモノトス檢査官吏ニ於テ檢査ノ上危險ト認ムルトキハ修繕若クハ改造ヲ命スヘシ(二十六年五月廳令第一十二號ヲ以テ改正)

第三條 每汽鐘ニハ火床面積壹平方呎ニ付壹吋二分ノ一平方吋ノ割合ヲ以テ二個ノ安全瓣ヲ備ヘ内一個ハ鎖鑰ヲ設クヘシ

第四條 安全瓣ノ鎖鑰ニハ檢査済ノ上檢査官ニ於テ封鎖シ私ニ開閉スルヲ禁ス

第五條 汽鐘ハ檢査ノ上制限シタル最大汽力ヲ超過セシムルコトヲ禁ス

第六條 每廢汽管ハ煙筒若クハ屋上五尺以上ニ於テ散汽セシメ屋外等ヘ散汽セシムルコトヲ

禁ス

第七條 汽機汽罐ヲ増設セントスルトキハ第一條ニ據リ汽機汽罐ノ要部ヲ修繕若クハ改造セントスルトキハ直チニ届出検査ヲ請クヘシ

第八條 汽機汽罐ノ景狀ニヨリ十二月又ハ六月ヲ限リ定期検査ヲ施行ス其検査済ノモノハ検査官ニ於テ第二號雛形ノ假検査證書ヲ下附シ第三號雛形ノ本検査證書ト引換交付スヘシ定期検査ハ證書有効期限前遅クモ十日以内ニ検査日限ヲ豫定シ願出ツヘシ

第九條 臨時検査ノ爲メ検査官ヲ巡視セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テ汽機汽罐ニ危険ノ恐れアリト認ルトキハ其使用ヲ中止シ修理ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 汽機汽罐ノ修繕又ハ改造ノ場合ニ於テ検査済ノ後下付シタル検査證書ニ異動ヲ生シタルトキハ更ニ引換交付スヘシ

但異動ナキモノハ證書ノ裏面ヘ検査官其事由ヲ記載認印ヲ押捺シ交付スヘシ

第十一條 検査證書ハ諸人ノ見易キ場所ニ掲示スヘシ

第十二條 汽機汽罐取扱主任者ハ其族籍氏名及履歴ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ雇主連署ヲ以テ本廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第十三條 廢業代替轉居改氏名等ノトキハ五日以内ニ汽機汽罐ニ異狀アルトキハ直チニ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ本廳ヘ届出ツヘシ

第十四條 許可ヲ經スシテ蒸汽機關ヲ使用シ及既ニ許可シタルモノト雖トモ公害アリト認めタル

トキハ營業ヲ中止シ又ハ差止ムルコトアルヘシ

第十五條 本則第一條第五條第六條第七條第八條第十一條第十二條第十三條ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以上壹圓九拾錢以下ノ科料ニ處ス

(第一號書式)

蒸汽機關検査願

- 一 工場 (所在)
- 一 工場 (名稱及種類)
- 一 所有主
- 一 汽罐 (種類及員數)
- 一 最大機力
- 一 汽機 (種類及員數)
- 一 公稱馬力
- 一 一時間消費石炭斤數
- 一 汽機汽關製造年月
- 一 汽機汽關製造地名
- 一 汽機汽關製造人名

右ハ今般新設營業致度候間何月何日御検査被成下度願上候也

年月日

北海道廳長官何某殿

所有主 何 某

(第二號雛形)

尺		機		關		檢		查		假		證		書	
番	號	有	効	證	書	汽	機	汽	種	類	類	類	類	類	類
正	場	地	所	地	所	馬	公	地	所	有	主	名	名	名	名
在	在	名	名	名	名	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力
八	寸														
右検査之上此假證ヲ附與スル者也 年月日 北海道廳 官氏名印															

(第三號雛形)

尺		機		關		檢		查		假		證		書	
番	號	有	効	證	書	汽	機	汽	種	類	類	類	類	類	類
正	場	地	所	地	所	馬	公	地	所	有	主	名	名	名	名
在	在	名	名	名	名	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力
八	寸														
右検査ノ上本書期限中使 用此證ナルノ報告ヲ得ルニ 仍此證書ヲ附與スル者也 年月日 北海道廳 印															

○明治二十一年十二月二十一日北海道廳令第七十五號  
畜犬取締規則左ノ通定ム

但明治十一年四月開拓使函館支廳第三十八號布達明治十七年二月札幌縣甲第九號布達明治十六年七月  
根室縣甲第四十號布達ハ廢止

畜犬取締規則

第一條 畜犬ニハ其畜主ノ住所氏名ヲ記シタル頸環又ハ牌子ヲ附ケ置クヘシ

第二條 畜犬狂猛ニシテ人畜ヲ害スルノ虞アルトキハ嚴ニ之ヲ繫留スヘシ

第三條 畜犬傳染病ニ罹リタルトキハ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

但此場合ニ於テハ時宜ニ依リ撲殺スルコトアルヘシ

第四條 頸環又ハ牌子ナキ犬ハ無主ノモノトシ處分スヘシ

第五條 第二條ノ繫鎖ヲ怠ルニ因リ違警罪ニ處セラレタル時ハ其畜犬ヲ警察署又ハ分署ニ於テ撲殺スルコトアルヘシ

○明治二十四年十二月一日北海道廳訓第百八十號 警察部内 一般宛

警察ノ取締ニ屬スル諸營業臺帳別紙様式ノ通定ム (別紙様式) (ハ略ス)

○明治二十五年十一月十五日北海道廳令第三十五號

狩獵規則ニ關スル出願手續左ノ通相定ム

但明治二十四年十二月二十一日北海道廳令第五十七號有害鳥獸驅除規則ハ廢止ス

狩獵規則ニ關スル出願手續

第一條 狩獵ヲ爲サントスル者ハ狩獵規則施行細則第三條ニ依ルノ外願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免狀ヲ受クヘシ

但職獵免狀ニ係ル願書ニハ狩獵規則第八條各項ニ觸レサルコトヲ證スル爲メ現住地ノ戶長

(郡區役所直轄ノ町村ニ在テハ其郡區長)ノ證明ヲ受ケ差出スヘシ

一 家族ナレハ戶主ノ住所族籍職業氏名及其所得稅ノ納額

二 所用ノ銃名又ハ獵具ノ種類

第二條 獵區設定ノ免許ヲ受ントスル者ハ狩獵規則施行細則第五條ニ依ルノ外願書ニ左ノ書類ヲ副ヘ所轄警察署又ハ分署ニ差出スヘシ

一 獵區設定ノ場所官有ニ係ルトキハ其管轄官廳ヨリ借用シタル許可證寫

二 他人ノ所有地ニ係ルトキハ其所有者又ハ管理人ノ承諾證寫

第三條 禁獵制札ノ建設ヲ要スル者ハ願書ニ其理由ヲ記載スルノ外左ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出ツヘシ

一 禁獵ヲ要スル場所ノ面積方位及所有地借地ノ別並ニ建札ノ位置及各制札位置ノ距離方位等ヲ詳記シタル圖面

第四條 前條ノ許可ヲ得タル者ハ狩獵規則施行細則第八條雜形ニ依リ制札ヲ調製シ所轄警察署又ハ分署ニ差出シ禁制文ノ記載ヲ請フヘシ

但腐朽等ニ係リ再設ヲ要スルトキ亦同シ

第五條 狩獵規則第二十四條第二十五條ノ鳥獸ニシテ野蠻飼養ノ保護學術研究其他特別ノ理由ニ

因リ驅除又ハ捕獲ヲ要スルトキハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ當廳ヘ願出免許ヲ受クヘシ

有害鳥獸ノ驅除又ハ捕獲ノ必要アルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受クヘシ

前二項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

一 住所族籍職業氏名年齢

二 捕獲又ハ驅除ヲ要スル理由及捕獲又ハ驅除ノ方法

三 捕獲又ハ驅除ヲ要スル鳥獸ノ種類(捕獲ニ付テハ員數トモ)及ヒ捕獲ヲ要スル期限

四 有害鳥獸ノ驅除又ハ捕獲ニ就テハ前各項ノ外被害ノ狀況及區域ノ圖面

第六條 前條ノ免狀ハ其効力ヲ失ヒタル日ヨリ十日以内ニ返納スヘシ

○明治二十五年十一月十六日北海道廳訓第二百六十九號警察本分署宛

狩獵取扱心得左ノ通相定ム

狩獵規則取扱心得

第一條 狩獵規則ニ關スル出願手續第五條二項ニヨリ有害鳥獸ノ驅除又ハ捕獲免狀ヲ下付シタルトキハ一週日毎ニ其住所氏名職業年齢及ヒ事實ヲ具シ報告スヘシ

第二條 有害鳥獸ノ驅除又ハ捕獲ヲ許可シタル時ハ一週日毎ニ其鳥獸ノ名稱及員數ヲ報告セシムヘシ警察署ニ於テハ所轄分署ヲ合シ一ヶ月毎ニ狩獵規則取扱手續第一號表式ニ準據シ翌月七日限リ其地ヲ差出スヘシ

第三條 免狀ヲ亡失シタルモノアルトキハ其種類番號及亡失者ノ住所族籍職業氏名年齢ヲ詳記シ其時々報告スヘシ

第四條 有害鳥獸ノ驅除又ハ捕獲免狀ハ警察部ヘ請求スヘシ

第五條 前條免狀ニハ各項目ニヨリ記入シ署印押捺ノ上之ヲ下付スヘシ

第六條 獵者ヨリ免狀ヲ返納シタルトキ及ヒ概算ヲ以テ領收シタル免狀ニ剩餘ヲ生シタルトキハ

之ヲ斷截スヘシ

第七條 狩獵總計表ハ狩獵規則取扱手續第三號表ハ式ニ準據シ毎年六月二十日限り報告スヘシ  
第八條 免狀原簿ハ別紙様式ニヨリ調製シ免狀下付ノ際之レニ其番號獵者ノ住所族籍職業氏名年  
齡等ヲ登記スヘシ

(様式ハ略ス)

○明治二十六年十月二十四日北海道廳訓第二百九十六號浦河警署署宛  
其署所轄新冠御料牧場内有害鳥獸驅除捕獲ノ儀ハ自今左ノ事項ニ限り承認候條右心得ヘシ  
但出獵ノ際ハ別紙雜形ノ鑑札ヲ携帯ス

- 一 驅除捕獲當該者 同牧場掛官吏
- 二 保護目的 動物、耕作物、山林
- 三 驅除捕獲鳥獸種類 鳥、鳩、雀、兔、熊、狐、狸、貉、狼等
- 四 場所 但驅除捕獲鳥獸ノ名稱員數ハ翌月十日迄ニ其署へ通報スルモノトス  
同牧場内圍場及放牧場等
- 五 期限 年中

(雜形)

證標雜形

貳寸五分

第何號	裏
除害銃之證	新冠御料牧場章
官、姓名	

○明治二十三年一月二十三日北海道廳訓令號外札幌外四郡長札 幌警察署長宛  
千歲郡馬追山麓ヨリ千歲川ニ到ル各沼池ヲ以テ鶴蕃殖地ト相定候ニ付テハ發砲其他如何ナル手段  
ヲ以テスルモ該鳥ハ勿論其他諸鳥ヲモ獲殺相禁シ候條嚴重取締ヲナスヘシ(二十三年十二月訓令號外  
ヲ以テオサツ沼ヲ除ク)  
但別紙圖面朱線内各沼池ノ周圍百間以内ノ地所ハ貸下拂下ヲ許サス

(圖面略ス)

○明治二十三年一月二十三日北海道廳訓令號外空知外一郡長空知警察署長宛  
夕張郡馬追山麓ヨリ夕張川畔ニ到ル各沼池(以下前全文)  
○明治二十二年七月十七日北海道廳令第四十五號  
人家連續ノ地又ハ耕地近傍ニ於テ垣柵土壘等ノ設ケナクシテ牛馬ヲ放牧スルコトヲ禁ス違フモノ  
ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

放牧禁止ノ個所ハ郡區長之ヲ告示ス  
但明治十三年四舊開拓使札幌本廳甲第三十二號及同十六年八舊函館縣甲第三十八號布達ハ廢止  
ス



○明治二十年六月十四日北海道廳告示第九十四號  
 警察署又ハ分署へ差出ス諸願屆書ハ自今戸長ノ與書ヲ要スルニ及ハス  
 ○明治二十年六月十四日北海道廳訓令第七十一號郡區役所 警察署宛  
 従前人民諸願屆ノ内戸長ノ與書ヲ受ケ警察署又ハ分署へ差出來ルモノハ自今其與書ヲ要セス直ニ  
 受理スヘシ

○消防

○明治二十一年三月二十七日北海道廳訓令第三十二號警察署宛  
 消防組設置準則左ノ通定ム

消防組設置準則

- 第一條 消防組ハ區町村ノ部落ニ從ヒ其必要ニ應シ之ヲ設置ス可シ
- 第二條 消防組ハ警察署ノ管理トス
- 第三條 消防組ハ區町村部落ノ大小如何ニ從ヒ一個又ハ數個ノ組合ニ編制ス可シ
- 第四條 消防組ハ左ノ資格ヲ有スル男子ヲ以テ編制ス可シ
  - 一 區町村ノ現住者
  - 二 滿十七歲以上滿五十歲以下ノ者
  - 三 公權ヲ有スル者
- 第五條 前條ノ資格ヲ有スル者ハ志願又ハ命令ニ依リ之ヲ編入ス可シ

第六條 消防組ハ左ノ三役トス

- 一 組頭
- 二 小頭
- 三 消防手

但組合ノ狀況ニヨリ特ニ頭取、副頭取、各一名〔副頭取ハ設ケサ  
ルモ妨ケナシ〕ヲ設クルコトヲ得其撰舉手續ハ  
 第七條ニ依ル〔二十六年三月訓令第十  
一號ヲ以テ但書追加〕

第七條 組頭小頭ハ消防組合ノ公撰ヲ以テ之ヲ定ム可シ但時宜ニ依リ警察署ニ於テ直ニ之ヲ命ス  
 ルコトヲ得

第八條 消防組ニ司令長及ヒ司令副司令ヲ付ス可シ

第九條 司令長ハ上席警部又ハ警部補司令副司令ハ警部警部補又ハ巡查ヲ以テ便宜之ニ充ツ可シ

第十條 警察署長ハ其管内各消防組ノ總指揮官タル可シ

第十一條 司令長以下出火場ニ出ル時ハ晝夜ノ區別ニ依リ見易キ徽章ヲ携帯ス可シ

第十二條 消防組ノ徽章ハ警察署ニ於テ適宜之ヲ定ム可シ但組頭小頭消防手ノ區別ヲ分明ナラシ  
 ムルヲ要ス

第十三條 出火ノ信號ハ半鐘トシ其打方ハ左ノ例ニ依ル可シ

一 官衙若クハ其近傍



亂點

二 一區又一町村内

三點 〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—

三 一區又一町村外

二點 〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—〇—

四 鎮火

一點 〇、〇、〇

第十四條 消防組ノ演習ハ一年二回以上トシ尙ホ時々召集點檢ス可シ

第十五條 消防組ニハ一定ノ足留金ヲ給與スルコトヲ得

第十六條 消防上特ニ功勞アル者及負傷シタル者ノ賞金又ハ手當金ノ給與ハ豫メ規約ヲ定メ之ヲ

支給スルコトヲ得

第十七條 消防組ノ怠慢失誤其他不行跡アル者ハ豫メ規約ヲ定メ除名又ハ停勤ノ處分ヲ爲スコト

ヲ得

第十八條 私設消防組ヲ願出ルモノアル時ハ區町村ノ折合ヲ慮リ之ヲ認可スルコトヲ得

私設ノ消防組モ亦本則ニ準據セシムルコトヲ得可シ

第十九條 消防組ニ關スル經費ハ毎年度其豫算ヲ郡區役所ニ報告ス可シ

第二十條 出水等ノ防禦方モ亦消防組ヲ以テ之ニ充ツルヲ得

第二十一條 消防組編制及ヒ給與細則又ハ實地消防順序方法其他諸規約ノ類ハ警察署長ニ於テ便

宜之ヲ定メ施行ス可シ

本則ニ依リ消防組ヲ設置シタル時ハ速ニ之ヲ届出可シ

○難破船及漂流物

○明治七年十二月二十四日開拓使札幌本廳第九號達出張

難破船届方ノ義本年第四百十號ノ通御達有之候ニ付自今右難形ニ照準其時々届出候義ト相心得本年一月ヨリ漸次届出有之分モ更ニ右難形ニ準シ當一ケ年分取纏メ來ル八年一月十五日限り可差出尤現地ニ於テ難破ノ次第取糺シ口書取之等ノ義モ總テ是迄ノ通ト可相心得此旨相達候事

○明治二十年六月十一日北海道廳訓令第六十三號郡區役所宛

難破船及漂流物ニ關スル事務ハ郡區役所ニ於テ取扱フヘシ但シ警部警部補ニシテ郡區書記兼任ノ者ハ便宜浦役人ヲモ兼勤セシムヘシ

○明治二十一年二月十日北海道廳訓令第十三號警察署宛

西洋形船ノ難破アルトキハ警察報告例ニ依リ其概況ヲ即報スルノ外左ノ標準ニ據リ尙詳細ノ報告ヲ爲スヘシ

西洋形船舶難破取調事項標準

汽船或ハ風帆船	噸數
船名	何丸
定 繫 場 所	何港

船主	族籍住所氏名
船主	族籍住所氏名年齢
技術免狀寫	第何號技術免狀何種何等運轉手
遭難ノ時	何年何月何日午前(後)何時何十分
遭難ノ場所	何港(灣)又ハ何國郡村地先或ハ字何々
難破ノ因由	風浪ノ爲メ或ハ暗礁ニ乗揚ケ
難破ノ景狀	大破シテ再用ナラス或ハ小破ニ付修繕
海員及ヒ乘客	海員何名乘客何名
海員及乘客死傷ノ有無	<small>海員族籍住所氏名年齢 乘客族籍住所氏名年齢</small>
積荷	何々數量原價概算
流失品	何々
難船明細書	船長ノ差出スベキモノ

○明治二十三年七月十七日北海道廳訓令第五十二號郡區役所警察署宛

明治二十一年二月北海道廳訓令第十三號西洋形船難破調ノ報告ハ自今郡區役所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

○明治二十六年三月二十九日北海道廳訓令第九十號警察署、警察分署宛

登簿船免狀ヲ受有スル船舶衝突難破等アル時逕信省管船局ヘ電報スヘキ旨本年一月十八日訓令第十號ヲ以テ相達候處逕信省令第五號海難取調手續發布ニ付右達ハ廢止ス

○明治二十四年一月十五日北海道廳訓令第六號警察署宛

内外國艦船危難ニ罹リタルトキ救護ヲ要スルモノ報告方別紙ノ通り郡區役所戶長役場ヘ訓令候條此旨心得ヘシ

(別紙ハ下ニ掲クル二十六年二月訓令第四十二號ト同シキヲ以テ略ス)

○明治二十六年二月二十四日北海道廳訓令第四十二號郡區役所、警察署、警察分署、戶長役場宛

明治二十四年一月十五日訓令第五號郡區役所戶長役場ニ對シ内外國艦船ノ危難ニ罹リタルモノアルトキ報告方訓示致置候處今般又海軍大臣訓令ノ次第モ有之候ニ付更ニ左ノ通り心得ヘシ、内外國艦船ニシテ本道沿岸ニ於テ危難ニ罹リタルモノアルトキハ郡區役所警察分署戶長役場等ヨリ電報ヲ以テ海軍省及横須賀鎮守府ニ報告スヘシ又軍艦其附近ニ在ルトキハ直チニ軍艦ニ報告スヘシ

船舶會社若クハ船主其所有ノ船舶危難ニ罹リタルトキハ該會社若クハ船主ヨリ電報ヲ以テ海軍省及横須賀鎮守府ニ報告シ又軍艦其附近ニアルトキハ直チニ軍艦ニ報告候様豫メ郡區役所ヨリ各船舶會社及船主ヘ通達シ置クヘシ  
前兩項トモ海軍艦船ノ救護ヲ要スルニ及ハスト思考スルトキハ報告セサルモ妨ナキコト心得ヘシ

○犯罪

○明治二十四年五月二十三日北海道廳訓令第四十四號警察署宛

本道内囚人護送ノ際汽車汽船ノ便アル地ヲ經過スルトキハ便宜ノ警察署又ハ警察分署ヘ直チニ護送スルコトヲ得

○明治二十四年三月五日北海道廳訓第十七號各警察署長宛  
檢事現行犯ノ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時以内ニ尋問シタル後ニアラサレハ拘留狀ヲ發ルコトヲ得ス然ルニ檢事已ヲ得サル事故アリテ即時尋問スルコト能ハス一時其儘留置セサルヘカラサル場合ニ於テハ警察署内ノ留置場ニ留置セシメ度旨檢事ヨリ協議有之候節ハ熟議ヲ遂ケ實際不便無之様取計フヘシ

○明治二十二年一月三十一日北海道廳訓令號外警察署宛

清國人帝國內ニ於テノ犯罪處分方ニ付別紙ノ通司法大臣ヨリ訓令有之候條右ニ依リ取扱フヘシ

(別紙)

司法省刑甲第四號

警 視 廳  
北 海 道 廳  
府 縣 (東京府 除ク)

清國人帝國內ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シ治罪法第百條第百一條ニ相當シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ逮捕其他警察上ノ處分ヲ爲スヘシ  
但本文ノ場合ニ於テ其處分方ハ司法警察訓則第四百七條ノ區分ニ從フヘシ

右訓令ス

明治二十二年一月十七日

司法大臣伯爵 山田 顯 義

○明治二十一年十月十日北海道廳訓令號外釧路根室厚岸網走紋別警察署宛

罰金ヲ輕禁錮ニ換ヘタル場合ニ於テ其日數十日以下ナルトキハ拘留ノ例ニ依リ警察署附屬ノ留置場ニ於テ執行スルコトヲ得ル旨明治十七年七月内務省乙第三十四號ヲ以テ達有之候處自今根室輕罪裁判所管内ノ分ニ限リ其日數十日以上ニ涉ルモノト雖モ都テ前段同様執行スルコトヲ得ル旨内務司法兩大臣ヨリ訓令有之候條右ニ依リ取扱フヘシ

○明治二十四年一月十五日北海道廳訓第六號小樽警察署岩内警察署宛

札幌監獄署小樽岩内監獄分署相廢候條刑事被告人換刑輕禁錮十日以下及ヒ拘留囚ハ其署留置場ニ拘禁スヘシ

○明治二十四年一月十五日北海道廳訓第七號札幌監獄署宛

其署小樽岩内ノ兩監獄分署ヲ廢シ刑事被告人換刑輕禁錮十日以下及ヒ拘留囚ハ該地警察署留置場ニ拘禁セシメ候條此旨心得ヘシ

○明治二十二年十一月二十一日北海道廳訓令號外警察署宛

海軍軍人軍屬ノ犯罪者ヲ逮捕シタル時及海軍諸官ノ囑託ニヨリ逮捕シタル犯罪者送致方之義ニ關シ別紙ノ通司法大臣ヨリ訓令有之候條此旨心得ヘシ  
右訓令ス

(別紙)

司法省刑甲第四三二號

裁判所  
警視廳  
北海道廳  
府縣(東京府)  
憲兵司令部

海軍軍人軍屬ノ犯罪者ヲ逮捕シタル時ハ從來横須賀鎮守府軍法會議ヘ送致シ來リタル處明治二十二年七月東京、吳、佐世保ノ各地ニ軍法會議開設後モ仍ホ横須賀ヘ向送致シ來リ候モノ有之趣自今海軍軍法會議ノ管轄ニ屬スル犯罪者ヲ逮捕シ或ハ其自首ヲ受ケタル時ハ其最近ノ軍法會議若クハ被告人ノ所屬長ニ送致スル儀ト心得ヘシ

但シ海軍諸官ヨリ逮捕ヲ囑託シタル者ハ其囑託シタル諸官ニ送致スル儀ト心得ヘシ  
右訓令ス

明治二十二年十一月七日

司法大臣伯爵 山田顯義

○明治十六年六月十九日札幌縣丙第三十五號達警察署警察分署宛

監視規則之義ニ付別紙天第二十一號伺ヘ朱書之通指令有之候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

天第二十一號

監視規則之義ニ付伺

一 監視者旅行又ハ住所ヲ轉スルモノ甲地ヨリ乙地ニ至ル日數ヲ限定シ證票ヲ付與シタリ然ルニ其日數經過スルモ乙地警察署ヘ届出サルヲ以テ刑法第五百五條ニ該ルモノ再ヒ監視ニ付セラレ候場合監視期限計算方ハ右限定セシ日數ヲ限内ニ通算スル義ト心得可然哉

一 刑法附則第二章第二十七條第一項ニ毎月二度所轄警察署ニ至リ云々トアリ右ハ昨年御省乙第十九號御達該難形ニ違ヒ十五日後二度出頭スルカ如キ不勤慎ナルモノハ規則ヲ違背セシモノト認メ處分致可然哉又ハ一月内一日二日或ハ二十九日三十日ノ二度出頭スルモ附則中明文ナキヲ以テ犯則ノ限ニ無之哉

右兩條何分ノ御指揮有之度此段相伺候也

札幌縣令調所廣丈代理

明治十六年三月十二日

札幌縣大書記官 佐藤秀顯

内卿山田顯義殿

(書面伺之趣左之通心得ヘシ)

(第一項) (伺之通)

(第二項) (前段伺之通)

明治十六年五月二十二日

内務卿 山田顯義

司法卿 大木喬任

○明治二十五年十月十八日北海道廳訓第二百四十五號監獄署、集治監、警察署宛

刑事被告人ヨリ上訴ノ取下ヲ爲シタルトキハ上訴ノ管轄裁判所ニ於テ其取下ヲ受理シタル日ヨリ刑期ヲ起算ス可シ但右ニ牴觸スル從前ノ訓令ハ之ヲ取消ス旨司法大臣訓令アリ

○明治二十二年三月十九日北海道廳訓令號外警察署宛

警察署ニ於テ國事犯等ノ犯罪ヲ發見シタル時所轄始審裁判所上席檢事ニ密報之儀ニ付左ノ通り司法大臣ヨリ訓令有之候條自今右ニ依リ取扱フヘシ

(別紙)

總府縣(東京府ヲ除ク)憲兵本部

警察官ニ於テ左ニ記載シタル事件ヲ發見シタル時ハ直ニ其所轄始審裁判所ノ上席檢事ニ其旨ヲ密報セシムヘシ

- 一 國事犯ニ關スル陰謀若クハ其模様アルトキ
- 二 兇徒聚衆若クハ其模様アルトキ
- 三 議員其他ノ撰舉ニ關シ不穩ノ模様アルトキ
- 四 政黨政社ヲ創立シ又ハ陰然結盟シ或ハ解散シタルトキ
- 五 懇親又ハ請願等ニ託シ異常ノ結合ヲ爲シ若シクハ其模様アルトキ
- 六 政黨集會演舌ニ關スル景況

七 政黨政社等ニ異狀アルトキ

八 演說集會場ニ於テ監臨官ニ抗抵暴行シタルトキ

九 國事ニ關スル事件ニシテ秘密ニ文書ヲ出版又ハ頒布セシ者アルトキ

十 外國人ノ内國人ニ對シ又ハ内國人ノ外國人ニ對シ暴行シタルトキ

以上各項ノ外國事又ハ治安上ニ關シ緊要ト認ムヘキ事アルトキ

右訓令ス

明治二十二年三月七日

司法大臣伯爵 山田顯義

○明治二十六年六月二十二日北海道訓第百八十四號警察署宛

明治二十四年六訓第四十六號廢止ス

(囚人護送ニ係ル旅費日常等報告ノ件ナリ)

○明治二十六年十月十日北海道廳訓第二百八十三號警察部、集治監、郡區役所、警察署、警察分署、戶長役場宛

司法警察官執務心得別紙之通訓令有之候條此旨心得ヘシ

(別紙)

司法省民刑甲第一七四號

裁 判 所  
檢 事 局  
警 視 廳

北海道廳  
府 縣  
憲兵司令部

司法警察官執務心得別冊ノ通相定ム  
右訓令ス

明治二十六年九月二十六日

司法大臣 芳川 顯正

(別冊)

司法警察官執務心得目録

第一編 總則	自第二十五條
第二編 搜查	第二十六條
第一章 搜查着手	自第二十七條
第二章 搜查處分	至第四十二條
第一節 證憑及犯人ノ搜查	第四十三條
第二節 被告事件送致	自第四十四條
第三編 假豫審	自第五十一條
第一章 檢證、搜索及物件差押	自第五十二條
第二章 證人訊問	自第五十四條
	至第六十五條
	自第六十四條
	至第八十五條
	自第八十四條
	至第九十五條
	自第九十四條
	至第九十九條
	自第九十八條
	至第一百八條
	自第一百九條
	至第一百二十一條

第二章 鑑定

第四章 被告人逮捕

第五章 被告人訊問

司法警察官執務心得

第一編 總則

第一條 司法警察官ハ犯罪ノ搜查ヲ爲シ現行犯罪ノ假豫審ヲ行フヲ以テ其職務トス

第二條 左ニ記載シタル官吏、公吏等ハ司法警察ノ職務ヲ行フニ付キ檢事ノ指揮ヲ受ク可キモノ

トス

一 警視、警部長、警部

二 憲兵將校、下士

三 島司

四 郡長

五 市町村長及ヒ之ヲ置カサル地ニ於テ其職務ヲ行フ吏員

六 林務官

七 北海道集治監ノ典獄

八 海船ノ船長

第六以下ニ記載シタル者ハ各其主管ニ關スル犯罪ニ付キ司法警察ノ職務ヲ行フ

自第九十四條  
至第九十八條  
自第九十九條  
至第一百八條  
自第一百九條  
至第一百二十一條

第三乃至第五ニ記載シタル者ハ急速ヲ要スル場合ヲ除ク外成ル可ク其處分ヲ第一第二ニ記載シタル者又ハ主管ノ者ニ讓ル可シ

第三條 警視總監、府縣知事東京府知事ヲ除クハ各其管轄地内ニ於テ犯罪捜査ノ權ヲ有スト雖モ異常ノ場合ニ於テ之ヲ行フヲ例トス此場合ニ於テモ成ル可ク其處分ヲ檢事ニ讓ル可シ

第四條 司法警察官ノ職務ハ晝夜ノ別ナク休暇ト雖モ之ヲ行フ可キモノトス

第五條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ迅速ニシテ事機ヲ失ハサルコトヲ要ス

第六條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ緞密ニシテ細大ノ事物ニ注目スルコトヲ要ス

第七條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ能ク秘密ヲ守リ犯人逃走、罪證湮滅、人心動搖ノ弊ナカラシメ且被告人其他ノ者ノ名譽ヲ毀損スルコトナキヲ要ス

第八條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ大事ニ嚴ニシテ小事ニ寛ナラサル可カラス又濫ニ人ノ隱微ヲ訶クコトナキヲ要ス

第九條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ノ外強制ヲ用フルコトヲ得ス

第十條 司法警察官ハ服務時間外ト雖モ急速ヲ要スル事件アルトキハ成ル可ク其處分ヲ爲サ、ル可カラス

第十一條 司法警察官ハ専ラ奸惡ヲ摘發シ公害ヲ除クコトニ着眼ス可シ一概ニ犯罪ヲ檢舉スルコトノ多數ナルノミヲ以テ其職務ヲ盡スモノト爲ス可カラス

第十二條 奸惡ノ徒ハ巧ミニ法網ヲ脱スルコトヲ圖ルモノナレハ司法警察官タル者宜シク其犯情ヲ看破スルコトニ注意ス可シ

第十三條 司法警察官ハ捜査ヲ爲スニ付キ檢事ノ指揮ニ從フ可キハ勿論ナリト雖モ事毎ニ其指揮ヲ待ツ可キモノニ非ス故ニ犯罪アルニ當テハ直チニ捜査ニ着手セサル可カラス

第十四條 司法警察官、被告人又ハ被害者ト親屬若クハ故舊ナルトキハ嫌疑ヲ避クル爲メ成ル可ク其處分ヲ他ノ司法警察官ニ讓ル可シ

第十五條 司法警察官職務ヲ行フ場合ニ於テ其制服ヲ着用セサルトキハ司法警察官タルノ證票ヲ携帯ス可シ若シ請求スル者アルトキハ之ヲ示ス可シ

第十六條 司法警察官職務ヲ行フニ際シ必要トスルトキハ警察署、憲兵屯營ニ照會シテ巡查、憲兵上等兵ヲ使用スルコトヲ得但事機緊急ナルトキハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十七條 司法警察官ハ各其行政上ノ管轄區域内ニ於テ職務ヲ行フヲ例トス但假豫審處分ヲ除ク外時宜ニ依リ他ノ管轄區域内ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十八條 司法警察官捜査ヲ爲スニ付テハ犯罪ノ性質、場所及ヒ被告人ノ身分ニ付キ制限アルコトナシ

第十九條 司法警察官他ノ司法警察官ヨリ其管轄區域内ニ於テ取扱フ可キ事件ニ付キ補助ノ求メアルトキハ之ニ應ス可シ豫審判事ノ求メニ付テモ亦同シ

第二十條 司法警察官左ニ記載シタル犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ之ヲ檢事局ニ報告ス可シ



- 一 刑法第二編第一章第二章及第三章第一節ノ犯罪
  - 二 高等官、華族、有位、帶勳者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ犯罪
  - 三 外國人ノ犯罪及ヒ外國人ニ對シタル犯罪
  - 四 重要ノ犯罪又ハ公衆ノ耳目ヲ惹ク可キ犯罪
- 第二十一條 陸海軍軍人、軍屬ノ犯罪ニ付テハ陸海軍治罪法及其違警罪處分例ニ從ヒ處分ス可シ但歸休兵及豫備、後備ノ軍籍ニ在リテ召集中ニ在ラサル者并ニ在官、現役又ハ召集中罪ヲ犯シ免官、免役若クハ解散ノ後發覺シタル者ハ常人ノ例ニ依ル

(參照)

陸軍治罪法

第四十二條 司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調査ヲ作リ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條 豫審判事檢察司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴發覺ヲ受ケタルトキハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付ス可シ

海軍治罪法

第四十二條 憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢察司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴發覺ヲ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第四十九條 憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調査ヲ造リ海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署

ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

海軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二十二條 外國公使館ニ關スル事件ニ付テハ明治七年太政官第百二十八號達ニ從ヒ處分ス可シ

(參照)

明治七年太政官第百二十八號達

司法警察規則附錄

外國公使及公使館屬員ノ事

第一條 外國公使ハ我國憲法以テ保護スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴張スル時ハ其家族並ニ公使館屬員(書記官、翻譯官、書記官、譯員、及ヒ其家屋車馬迄モ同様ナリト)思料スヘシ

第二條 內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬隸ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糾問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ經テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ待チテ後引出スヘシ尤モ其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルコトニアラス

第三條 內國人各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ届出外務省ハ其屬書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置ヘシ若シ途中ニテ或ル人ヲ引留其名籍ノ在ル所ヲ聞糺ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル時其簿記ト校照シ尙相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會ヲ送ケタル後其處分ヲ施スヘシ若シ姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述フル時ハ公使館ヘ同道シ右ノ如ク處置ス可シ但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條 外國公使館内ヘハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内ヘ匿入セシ等強姦ノ間モ猶豫スヘカラサル時ハ其把門者ニ告ク其館主ノ許可ヲ受テ後館内又ハ邸内ヲ探索スヘシ

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外職員ハ勿論馬車家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得  
ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シテ其處分ヲ爲ス可シ

外國公使館員罪ヲ犯シ并犯罪ノ内國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ職員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行フヲ見及フカ或  
ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシカダキ時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館  
ヘ引渡シ又外務省ヘ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申ヘシ決シテ手續捕縛等ノ事アル可カラス或ハ職員ノ内國人引  
留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼ヨリ引渡ヲ受クルノ手續ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明ラニ其罪科ノ知レタル内國人現ニ公使館内ニ備ハレテ公使館ニ住居スル  
トキハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同館ヘ照會ヲ乞フ館主ニ引渡ヲ要求シ其人ヲ受取リテ後チ之レヲ捕  
縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムトキハ其旨ヲ猶外務省ヘ報知シテ其處分ヲ定ムヘシ

第二十三條 本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ身體、家宅、物件ニ關スル處分ニ付テハ本則ヲ適用  
ス可カス

第二十四條 司法警察官ノ作ル可キ書類ニハ所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日、場所ヲ記載シテ署名捺  
印シ毎葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス  
可シ

又書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入、削除及ヒ欄外ノ記入ヲ爲ストキハ之ヲ認印  
シ其字數ヲ記載ス可シ但削除ノ部分ハ讀ミ得キ爲メ其字体ヲ存ス可シ

凡テ書類ハ文飾ヲ用ヒス簡明平易ニシテ事實ヲ失ハサルコトヲ要ス

第二十五條 被告人、證人其他ノ者ノ署名捺印ヲ要スル書類ハ之ヲ本人ニ讀聞カセ署名捺印セシ  
ム可シ若シ本人署名捺印スルコト能ハサルトキ又ハ氏名ヲ代書シ本人ヲシテ捺印若クハ捺印セ

シメタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第二編 捜査

第二十六條 捜査ハ犯罪ノ證據及ヒ犯人ヲ檢舉シ公訴ノ提起及ヒ實行ノ資料ヲ得ルヲ以テ目的ト  
ス

第一章 捜査着手

第二十七條 捜査ハ現行犯、告訴、告發、自首、新聞、風説其他見聞シタル事物ニ因リ犯罪アルコト  
ヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル場合ニ於テ着手ス可キモノトス

第二十八條 告訴、告發ノアリタル場合ニ於テ告訴ヲ告發ト稱シ告發ヲ告訴ト稱シ其他何等ノ名  
稱ヲ以テスルモ之ヲ受ケ宜シク實ニ從テ處分ス可シ

第二十九條 告訴、告發ハ却下ス可キモノニ非ス其捜査ニ着手ス可キ事件ナルト否トニ拘ハラ  
ス之ヲ受ケ相當ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十條 書面ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨趣不明瞭ナルカ又ハ本人ノ意思ニ適  
合セサル可シト思料スルトキハ其取調ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ

第三十一條 口述ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタルトキハ隨意ニ其事件ヲ陳述セシメ調書ヲ作ル可シ

第三十二條 告訴、告發ニ付キ増減變更ノ申立アリタルトキハ本人ヲシテ書面ヲ差出サシメ又ハ  
其調書ヲ作ル可シ

第三十三條 告訴、告發ヲ受クルトキハ成ル可ク犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被告人、證人ノ住

所、氏名其他證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立テシメ調書ヲ作ル可シ

第三十四條 被告人ヲ指名シテ告訴、告發ヲ爲シタルトキハ本人ト被告人トノ關係如何ヲ察シ其誣罔ニ出ツルナキヤ否ニ注意ス可シ又告訴人ノ如キハ一時ノ忿怒ニ因リ過實ノ申立ヲ爲スコトナキヲ保シ難キヲ以テ成ル可ク失誤ナキコトニ注意セシム可シ

第三十五條 告訴人、告發人ニ於テ犯罪ヲ申告シタルカ爲メ後難ヲ畏ル、模様アルトキハ其氏名ヲ顯サ、ルコトニ注意ス可シ

第三十六條 代人ノ告訴、告發ニ係ルトキハ委任狀ヲ差出サシム可シ但法律上代理人告訴ヲ爲ストキハ此限ニアラス

第三十七條 告訴、告發ノ取下アルモ其書面ハ返附スルモノニ非ス更ニ本人又ハ代人ノ署名捺印シタル取下申立書ヲ差出サシム可シ

第三十八條 官吏、公吏職務上ノ告發ハ檢事ニ爲ス可キモノナリト雖モ急速ヲ要スル事件ニ付キ一面司法警察官ニ報告アリタル場合ニ於テハ司法警察官ハ通常ノ手續ニ從ヒ調査ニ着手ス可シ

第三十九條 犯罪ヲ自首スル者アリタルトキハ其陳述ヲ錄取ス可シ

第四十條 自首ハ悔悟又ハ減刑ノ企望ニ出ツルモノ多シト雖モ或ハ他人ノ罪ヲ免レシムル爲メ自ラ誣ヒ或ハ重キ罪ヲ避クルノ意ヲ以テ輕キ罪ヲ首出スル等ノ事ナシトセス宜シク其虛實及ヒ盡不盡ニ注意ス可シ

第四十一條 新聞紙上犯罪事件ヲ記載シ又ハ犯罪アリタルノ風説アルトキハ其出所、原因等ヲ取調ヘ其虛實ニ注意ス可シ

第四十二條 變死、創傷者アリタルトキ又ハ隠匿、埋藏物等ヲ發見シタルトキハ犯罪ニ原因シタルヤ否ニ注意ス可シ

第二章 捜査處分

第四十三條 捜査處分ハ犯罪ノ原由、性質、方法、情狀、日時、場所、被害ノ形狀、多寡、被告人ノ氏名、年齢、職業、出生ノ地、住所、本籍、身分、品行、前科ノ有無及ヒ證人ノ誰タルコト其他證憑ト爲ル可キ一切ノ事物ヲ取調フルニ在リ

又被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ニ注意ス可シ

第一節 證憑及ヒ犯人ノ捜査

第四十四條 犯罪ノ場所又ハ證憑物件所在ノ場所ニ就キ捜査ヲ必要トスル場合ニ於テハ其處分ヲ爲スコトヲ得但家屋、建造物又ハ船舶ニ係ルトキハ其戸主又ハ管守者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ其實況ヲ錄取ス可シ

第四十五條 犯罪ノ事項ヲ證明ス可キ物件ハ所有者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置シ又ハ保全セシムルコトヲ得

領置シタル物件ハ其品目ヲ記載シ且目錄ヲ作り所有者又ハ保管者ニ渡ス可シ

第四十六條 前二條ノ處分官署公署ニ係ルトキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハル可キ者ノ許諾ヲ得ルヲ

要ス

第四十七條 捜査上必要トスルトキハ犯罪ノ事實ヲ知ル可シト思料スル者又ハ被告人ヲ呼出シ若クハ其所在ニ就キ陳述ヲ聽クコトヲ得但呼出ヲ爲スニ書面又ハ口頭ヲ以テ報知ス可シ又其承諾ヲ得テ犯所其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

第四十八條 前條ノ場合ニ於テ被告人其他ノ者ノ陳述ハ之ヲ錄取ス可シ

事實單簡ナルカ又ハ本人ノ希望アルトキハ書面ヲ差出サシムルモ妨ケナシ

第四十九條 捜査上鑑定ヲ必要トスルトキハ之ヲ爲サシムルコトヲ得其結果ハ鑑定書ニ記載シ之ヲ差出サシム可シ

第九十六條ノ手續ハ本條ニモ亦之ヲ準用ス可シ

第五十條 物件ノ原形ヲ變スルニ非サレハ鑑定ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ鑑定ヲ爲サシム可カラス但腐敗其他ノ原因ニ因リ其物件ヲ保存ス可カラサルトキハ此限ニ在ラス

第五十一條 鑑定ノ爲メ死屍ノ解剖ヲ必要トスルトキハ檢事ノ許可ヲ受ク可シ其解剖ハ必要ナル部分ノ外之ヲ爲サシム可カラス

(參照)

明治十年第二十二號布告變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原因ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事<sup>檢事官ハ地方官ニシテ</sup>ノ許可ヲ受ク其部分ヲ解剖検査セシムルコトヲ得

第二節 被告事件送致

第五十二條 被告事件ノ要領ヲ得タルトキハ送致ノ手續ヲ爲ス可シ但送致後ト雖モ必要ナルトキ

ハ仍ホ捜査ヲ爲ス可シ

被告事件ヲ送致スルトキハ證據物件及ヒ意見書ヲ添ヘ且參考ト爲ル可キ事項ヲ報告ス可シ

第五十三條 重罪、輕罪ノ捜査ヲ爲シタルトキハ速ニ其事件ヲ管轄裁判所檢事局ニ送致シ違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ送致ス可シ

第五十四條 本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ犯罪ニ付テハ捜査ヲ爲シタル者ヨリ其事件ヲ其地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ送致ス可シ但急速ヲ要スルトキハ直チニ管轄領事廳所在地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ送致スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ其旨ヲ報告ス可シ

第三編 假豫審

第五十五條 司法警察官重罪、輕罪ノ現行犯、准現行犯ニ付キ刑事訴訟法第四百十七條ノ處分ヲ爲スヲ假豫審トス

第五十六條 現行犯ニ付テハ被告人ヲ逮捕シタルト否トヲ問ハス假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 准現行犯ニ付テハ成ル可ク被告人ヲ逮捕シタル後假豫審處分ヲ爲ス可シ但數人共犯ノ場合ニ於テハ他ノ正犯、從犯未タ捕ニ就カスト雖モ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

家宅内ノ犯罪ニ付キ戸主又ハ戸主ニ代ハル可キ者ノ請求ニ因リ檢證處分ヲ爲シタルトキハ被告人ヲ逮捕セスト雖モ其他ノ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 假豫審ニ著シタル事件ト雖モ一タヒ其手續ヲ止メタルトキハ復タ假豫審處分ヲ爲

スコトヲ得ス

第五十九條 假豫審ニ著手シタル場合ニ於テ豫審判事又ハ檢事其處分ヲ爲サントスルトキハ速ニ之ヲ讓ル可シ

第六十條 假豫審ニ於テハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所其他犯罪ニ關スル證憑ニ付キ取調ヲ爲スノミナラス被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ニ付テモ亦其取調ヲ爲スコシ

第六十一條 假豫審ニ關スル書類ハ司法警察官自ラ之ヲ作ル可シ但時宜ニ因リ巡査、憲兵上等兵等ヲシテ筆記セシムルハ妨ケナシ

第六十二條 假豫審處分ヲ了シタルトキハ第五十二條以下ニ從ヒ被告事件送致ノ手續ヲ爲スコシ

第六十三條 假豫審ニ著手シタル後其取調ヲ繼續ス可キモノニ非スト思料スルトキハ速ニ其手續ヲ止メ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テハ直チニ之ヲ放免シ其旨ヲ檢事局ニ通知スコシ

第六十四條 罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ニ付テハ刑事訴訟法第五十八條ノ處分ヲ除ク外現行犯ノ場合ト雖モ搜查處分ニ止ム可シ

第一章 檢證、搜索及物件差押  
第六十五條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ犯所若クハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲スコシ

第六十六條 假豫審ニ付テハ被告人又ハ其他ノ者ノ住居ニ臨檢シ搜索及ヒ物件差押ヲ爲スコトヲ得

被告人又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ所持スルノ疑アル者ノ身體及ヒ之ニ屬スル物件ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 前條ノ處分ヲ爲スニハ戶主又ハ本人ノ承諾ヲ待ツニ及ハスト雖モ成ル可ク處分前其旨ヲ告知シ且公力ヲ用フルコトナキヲ要ス

第六十八條 事實ヲ證明ス可キ物件ヲ所持スト雖モ藏匿ノ情ナキ者ハ成ル可ク住居、身體又ハ物件ニ就キ搜索ヲ爲サズ本人ニ通知シテ其物件ヲ差出サシム可シ

第六十九條 被告人ニ非サル者ノ住居、身體又ハ物件ヲ搜索スルハ物件藏匿ノ疑アル場合ニ限ル可シ

第七十條 住居内ノ檢證、搜索、物件差押ニ付テハ戶主又ハ同居ノ親屬ノ立會アルヲ要ス若シ其在ラサルカ又ハ白痴、瘋癲、幼年者ナルトキハ市町村長又ハ其在ラサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲシテ立會ハシム可シ

第七十一條 官署、公署ニ於テ檢證、搜索、物件差押ヲ爲ストキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハル可キ者ノ立會アルコトヲ要ス

七十二條 檢證、搜索ノ場所ニ於テ發見シタル物件ニシテ其出所、性質、形狀、用方等ニ因リ被告人ノ人違ナキコト又ハ犯罪ノ模様ヲ知ルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押フ可シ

官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者ノ所持スル物件ニシテ其職務上默祕ス可キ義務アル事情ニ關スルモノハ其承諾アルニ非サレハ差押ヲ爲スコトヲ得ス

醫師、藥商、穩婆、辯護士、辯護人、公證人、神職、僧侶其身分、職業ノ爲メ委託ヲ受ケタル物件ニシテ默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルモノニ付テモ亦同シ

第七十三條 檢證、搜索、物件差押ヲ爲ス場合ニ於テ必要トスルトキハ其場所ニ於テ證人ノ陳述ヲ聽キ又ハ鑑定人ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十四條 住居内ノ檢證、搜索、物件差押ハ日出前、日没後之ヲ爲スコトヲ得ス但急速ヲ要スル場合ニ於テ戶主ノ承諾アリタルトキハ何時ニテモ檢證、搜索ヲ爲スコトヲ得

第七十五條 旅店、割烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ於テハ其公開時間内ニ限り何時ニテモ檢證、搜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第七十六條 住居内ニ於テ現ニ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯ス者アリテ急速ノ處分ヲ要スルトキハ何時ニテモ其現場ニ限り檢證、搜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 住居内ノ檢證、搜索、物件差押ヲ爲スニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用ヒ濫ニ門戶、牆壁、器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス

又其處分ヲ終リタルトキハ書類、物件ノ紛失、毀損ヲ防ク爲メ相當ノ處置ヲ爲スコシ

第七十八條 檢證、搜索、物件差押中雜沓、喧嘩其他妨害ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ制止ス可シ又何人ニ限ラス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ留置スルコトヲ得

第七十九條 檢證、搜索、物件差押ハ其處分ヲ終ルマテ停止セサルヲ要ス若シ已ムコトヲ得サル事

故アリテ之ヲ停止スルトキハ證憑湮滅ヲ豫防スル爲メ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

第八十條 住居搜索ヲ爲スニハ其目的トスル所ノ書類、物件ヲ藏匿スルコトヲ得ヘシト思料スル場所ニ限ル可シ

第八十一條 檢證、搜索、物件差押ヲ爲シタルトキハ其調書ヲ作ル可シ  
差押ヘタル物件ハ其品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り立會人又ハ所有者ニ其拔書又ハ曆本ヲ渡ス可シ

第八十二條 差押ヘタル物件ハ散佚、毀損ヲ防ク爲メ認印若クハ封印ヲ爲シ且其差押ヘテ爲シタル年月日及ヒ件名ヲ記シ其物件ニ添付スヘシ

又運搬シ難キ物件ニ係ルトキハ看守者ヲ附スル等便宜ノ處置ヲ爲スコシ

第八十三條 事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ郵便、電信、鐵道ノ官署、諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告又ハ關係人ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報其他ノ物件ヲ受取ルコト

ヲ得但書類、電報ハ檢事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ開披ス可カラズ  
書類、電報、物件ヲ受取タルトキハ其證書ヲ渡スコシ

第八十四條 差押ヘタル物件ト雖モ檢事局ニ送致スルニ及ハサルモノト認ムルトキハ所有者又ハ保管者ニ保全ヲ命シ其受書ヲ差出サシム可シ

第二章 證人訊問

第八十五條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ證人ヲ呼出シ又ハ其所在ニ就キ訊問ヲ爲スコトヲ得

證人檢證、搜索ノ場所ニ在ルトキハ直チニ訊問ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 證人ニハ先ツ其氏名、年齢、身分、職業、住所及ヒ被告人又ハ被害者トノ關係如何ヲ訊問ス可シ但宣誓ヲ爲サシム可カラス

第八十七條 證人ヲ訊問スルニハ成ル可ク解シ易キ言語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラス

第八十八條 證人ニハ自由ニ陳述セシム可シ其陳述ニ對シ辯駁、討論ヲ爲スコカラス若シ其陳述他岐ニ涉ルトキハ之ヲ止メ齟齬アルトキハ之ヲ質ス可シ

第八十九條 證人ハ愛憎、畏懼ノ心ヲ生シ或ハ他ノ陳述ニ雷同スルノ恐アルヲ以テ成ル可ク被告人又ハ他ノ證人ト各別ニ訊問ス可シ但對質ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第九十條 證人ヲシテ證據物件ニ付キ證明セシムルヲ要スルトキハ成ル可ク其物件ヲ示ス可シ

第九十一條 證人ヲシテ犯所若クハ其他ノ場所ニ就キ證明セシムルコトヲ要スルトキハ其場所ニ同行スルコトヲ得

第九十二條 證人數ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ咄ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム可シ  
豐者、啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命ス可シ國語ニ通セサル者ニ付テモ亦同シ

第九十三條 證人ノ陳述ニ付テハ訊問ノ順序ヲ逐ヒ即時ニ其調書ヲ作ル可シ

證人其陳述ヲ變更、増減センコトヲ申立タルトキハ更ニ其陳述ヲ聞キ調書ヲ作ル可シ

第三章 鑑定

第九十四條 假豫審ニ付キ犯罪ノ性質、方法等ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定書必要トスルトキハ醫師、穩婆、化學者其他學術、職業ニ因リ適當ノ識能ヲ有スル者ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十五條 第五十條第五十一條ノ規定ハ本章ニモ亦之ヲ適用ス

第九十六條 鑑定ハ鑑定人ノ自由ニ任セ其方法ニ付テハ干涉ス可カラスト雖モ成ル可ク現場ニ立會ヒ其結果ヲ得ルコトニ注意ス可シ

第九十七條 鑑定ノ手續、時間及ヒ其結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ記載セシメ其結果分明ナラサルトキハ其推測スル所ヲ記載セシム可シ

數名ノ鑑定人ヲ命シタル場合ニ於テ各意見ヲ異ニスルトキハ各自ニ鑑定書ヲ作ラシメ又ハ一個ノ鑑定書ニ其意見ヲ記載セシム可シ

鑑定書ニハ鑑定セシ年月日ヲ記載シ署名捺印シ每葉ニ契印セシム可シ

第九十八條 鑑定書ニ不明、不備ノ點アルトキハ更ニ其説明書ヲ作ラシメ鑑定書ニ添置ク可シ

第四章 被告人逮捕

第九十九條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ現行犯、准現行犯ニシテ被告人現場ニ在ルトキハ直チニ之ヲ逮捕ス可シ但被告人ノ身分又ハ事件ノ模様ニ因リ其逮捕ヲ必要トセサルトキハ此限ニアラス

第一百條 現行犯、准現行犯ニ付キ被告人ヲ追跡スル場合ニ於テハ其追及シタル場所ノ如何ニ拘ハラス直チニ之ヲ逮捕スルコトヲ得但日出前、日没後ハ戸主又ハ之ニ代ハル可キ者ノ承諾アルニ

非サレハ他人ノ家宅内ニ進入ス可カラス

第一百一條 被告人ヲ逮捕スルニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用フ可シ

被告人兇器ヲ持シ抗拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ス劍銃等ヲ用フルモ決シテ自衛ノ區域ヲ踰ユ可カラス

第一百二條 假豫審ノ場合ニ於テハ現場ニ在ラサル被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

被告人他ノ管轄地内ニ在ルトキハ其地ノ司法警察官ニ勾引狀ヲ送致シ其執行ヲ囑託ス可シ若シ其事件急速ヲ要スルトキハ巡查、憲兵上等兵ヲシテ勾引狀ヲ帶行セシメ又ハ電報ヲ以テ逮捕ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得其囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ其名ヲ以テ勾引狀ヲ發ス可シ

第一百三條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ護送途中及ヒ引致シタル時ヨリ四十八時間内ハ留置場ニ入レ置クコトヲ得

第一百四條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ釋放ノ場合ヲ除ク外前條ノ期限内ニ檢事局ニ送致スルノ手續ヲ爲ス可シ

勾引狀ナクシテ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テモ亦同シ

第一百五條 常人ニ於テ現行犯、准現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サントスルトキハ成ル可ク其便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ル可シ

第一百六條 現行犯、准現行犯ニ付キ巡查、憲兵上等兵又ハ常人ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ逮捕ノ事由及ヒ申告ノ趣旨ニ付キ調書ヲ作ル可シ

逮捕ヲ爲シタル者ヨリ手續書ヲ差出シタルトキハ其相違ナキヤ否ヤヲ取調ヘ之ヲ調書ニ添置ク可シ

第一百七條 勾引狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名、職業、住所及ヒ年月日時ヲ記載ス可シ其氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格等ヲ明示ス可シ

第一百八條 勾引狀ハ巡查、憲兵、上等兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

第五章 被告人訊問

第一百九條 假豫審ニ於テハ取證ノ機ヲ失セス且被告人ノ利益ヲ損セサル爲メ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢證、搜索、物件差押及ヒ證人訊問ニ付キ急速ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第一百十條 被告人ニハ先ツ左ノ事項ヲ訊問ス可シ

- 一 氏名、年齢、身分、職業、住所、出生ノ地
  - 二 有位又ハ帶勳者ナルヤ否
  - 三 前科ノ有無若シ前科アルトキハ其罪名、刑名、裁判言渡ヲ爲シタル廳名及ヒ其年月日
- 第一百十一條 被告人ヲ訊問スルニハ穩和ヲ旨トシ且其年齢、身分、性質等ヲ斟酌シ一樣ノ訊問ヲ爲ス可カラス
- 第一百十二條 訊問ヲ爲スニハ平易ノ語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラス又簡明ヲ旨トシ勉メテ疑似ニ涉ルコトヲ避ケ可シ

第一百十三條 被告人ニハ自由ニ發言セシム可シト雖モ餘事ニ涉ラシメサルコトニ注意ス可シ



第百十四條 訊問ハ一事項毎ニ其端ヲ更メ成ル可ク同時ニ數事項ヲ訊問ス可カラス

數罪俱發ノ場合ニ於テハ成ル可ク一罪ノ訊問ヲ終リタル後他罪ニ及フ可シ

第百十五條 數人共犯ノ場合ニ於テハ成ル可ク各別ニ訊問シ其通謀ヲ防ク可シ且輒ク事實ヲ得可シト思料スル者ヨリ訊問ヲ爲ス可シ

第百十六條 證憑物件ハ時機ヲ計リ之ヲ被告人ニ示シ其辯解ヲ爲サシム可シ

第百十七條 事實發見ノ爲メ必要ナル場合ニアラサレハ被告人ヲシテ他ノ被告人又ハ證人ト對質セシム可ラス

第百十八條 第九十二條ハ被告人訊問ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

第百十九條 被告人ノ舉動ハ事實發見ノ端緒トナルコトアルニ因リ其言語、氣色等ニ注意ス可シ

第百二十條 被告人ノ白狀アリト雖モ一概ニ眞實ト做ス可カラス其白狀ニ適應スル證據ノ有無ヲ取調フルコトヲ注意ス可シ

第百二十一條 訊問ニ付テハ即時ニ其調書ヲ作り其問答ノ始末及ヒ被告人ノ舉動等遺漏ナク記載ス可シ

第九十三條ノ手續ハ被告人訊問調書ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

○明治十八年八月十一日根室縣丁第六十二號達警察本署宛

郵便遞送人並集配人郵便物遞送集配ノ途中罪ヲ犯シ又ハ嘗テ犯罪ノ廉アリ司法警察官又ハ巡查ニ於テ直ニ之ヲ逮捕若クハ引致スル場合ニ於テハ同官又ハ巡查ニ於テ代人ヲ使用シ其遞送人ノ携帶

セル郵便物ハ最寄郵便局へ其集配人ノ携帶セル郵便物ハ所轄郵便局へ遞送セシメ其費用ハ渾テ驛遞局へ請求スヘシ

右相達候事

○明治十八年十二月五日札幌縣丙第五十三號達警察署警察分署郡區長アラサル地ノ局長宛

郵便遞送人並集配人郵便物遞送集配ノ途中罪ヲ犯シ又ハ嘗テ犯罪ノ廉アリ直ニ之ヲ逮捕シ若シクハ引致候場合アルトキハ代夫ヲ以テ其遞送人ノ携帶セル郵便物ハ最寄郵便局へ集配人ノ携帶セル郵便物ハ所轄郵便局へ送達スヘシ尤モ代夫使用ニ係ル費用ハ驛遞局ヨリ戻入ノ筈ニ付其都度關係書類相添へ申出ヘシ右相達候事

○違警罪

○明治二十年十月四日北海道廳令第九十號

北海道違警罪目左ノ通相定メ明治二十年十一月一日ヨリ施行ス

但元函館札幌根室縣ニ於テ定メタル違警罪目ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

北海道違警罪目

第一條 左ノ諸件ヲ犯シタルモノハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

一 (二十四年十二月廳令第五十號ヲ以テ本項刪除)

二 規則ニ依リ族籍氏名年齢身分職業ヲ稱スヘキ場所ニ於テ之ヲ詐稱シタル者

- 三 病死又ハ病毒アル鳥獸ノ肉ヲ販賣シタル者
- 四 毒藥劇藥又ハ氣發物ヲ用ヒ禽獸魚介ヲ獲捕スル者
- 五 飲用水ヲ汚濁シ又ハ水路ニ妨害ヲ爲シタル者
- 六 延燒ノ豫防ヲ爲サスシテ野火ヲ焚キタル者
- 七 制止ヲ肯セス喧噪若クハ爭論ヲ爲シタル者
- 八 人ニ瓦礫氷雪其他ノ物件ヲ投シタル者
- 九 牛馬ヲ街頭ニ放置シ又ハ之カ繫鎖ヲ怠リ範籬アル他人ノ邸宅田圃ニ入ラシメタル者
- 十 墓地及埋葬取締規則及細則ニ違背シタル者
- 十一 物産ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ收税ニ關スル取締規則ニ違背シタル者
- 十二 警察ノ規則ニ違背シテ工商以外ノ業ヲ爲シタル者
- 十三 人馬車繼立營業規則ニ違背シタル者(二十一年四月總令第  
二十七號ヲ以テ追加)
- 十四 街路取締規則ニ違背シタル者(二十二年十一月總令第  
六十六號ヲ以テ追加)
- 十五 函館新水道取締規則ニ違背シタル者(二十二年十一月總令  
第七十號ヲ以テ追加)
- 十六 港内取締規則ニ違背シタル者(二十三年五月總令第  
十九號ヲ以テ追加)
- 十七 河川航通船規則ニ違背シタル者(二十三年六月總令第  
三十三號ヲ以テ追加)
- 十八 蠶種製造販賣規則ニ違背シタル者(三十六號ヲ以テ追加)
- 十九 電話線電燈線ニ妨害ヲ爲シタル者(二十四年十一月總令第  
四十六號ヲ以テ追加)

二十 通用紙幣ニ模擬シタル印刷物ヲ製造販賣若クハ授受シタル者(二十五年九月總令第  
三十三號ヲ以テ追加)

第二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上七拾五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 神佛祭事等ニ託シ強テ出費ヲ促ス者
- 二 制止ヲ肯セス電信線路ニ於テ紙鴛ヲ弄フ者
- 三 制止ヲ肯セス裸體ニテ街頭ヲ徘徊スル者
- 四 便所ノ設ケアル市街ニテ便所外へ大小便ヲ爲シタル者
- 五 街頭ニ於テ蓋ナキ桶ヲ以テ汚穢物ヲ運搬スル者
- 六 人家連續ノ地又ハ耕地近傍ニ於テ垣土柵壘等ノ設ケナク牛馬ヲ放牧スル者(二十二年七月總令  
第四十六號ヲ以テ  
追加)

○明治二十年十月四日北海道廳令第九十一號  
今般廳令第九拾號ヲ以テ違警罪目相定候處同中街頭云々トアル第一條第九條第二條第三條第五  
條ノ罪目ハ當分ノ内札幌函館根室福山江差小樽市街ノ外之ヲ施行セス

○明治二十二年七月十二日北海道廳訓令第三十六號警察  
署宛  
刑法第四百二十七條第十及明治十九年内務省令第十九號第一條乃至第四條ノ違犯者ヲ明治十八年  
第三十一號布告違警罪即決例ニ據リ即決シ其裁判確定シタル時ハ憲兵隊分隊又ハ警察署分署ヨリ  
其都度犯人本籍地ノ市役所町村役場へ通知スヘキ旨内務大臣訓令有之候條右心得ヘシ

○明治二十五年四月十四日北海道廳訓令第二十五號警察  
署宛

諸税則違犯者<sup>違警罪ニ係ル者</sup>處分表左ノ書式ニ倣ヒ調製シ翌月十日限差出スヘシ  
但明治二十一年一月當廳訓令第十號ハ廢止ス<sup>(第十號ハ諸税則違犯者通報ノ件ニ付)</sup>

諸税則違犯者處分表

違事 犯ノ條	實 質	適 條	科 料	言 月	日 渡	被 告 人 住 所 身 名
何々證書(帳簿)ニ印紙貼 セシ證券印稅規則第二條		第十九條	〇、二〇〇	何月何日		何國何郡區何町村何番地士 族(平民)何業何ノ某
何々	件	無	罪			
右報告候也						
明治年月日						
北海道廳財務部宛						
何警察署(分署)印						

○明治二十四年十月八日北海道廳訓第三百三十號<sup>警察部内  
一般宛</sup>  
重輕罪及違警罪件名簿様式別紙ノ通り相定ム

(別紙畧ス但二十六年十二月三十三二十八號ヲ以テ重輕罪件名簿ヲ廢ス)

○第九類

○國稅

○稅則

○明治十年十二月十三日開拓使乙第二十五號布達

昨明治九年<sup>十二</sup>第百六十一號ヲ以テ北海道地租ノ儀御布告相成候ニ付テハ土地丈量地價査定ノ上  
一般地券ヲ發シ地所規則除租ノ年限ニ隨テ地租ヲ課シ從前發行セシ地券ハ之ヲ改メ且既ニ課シ來  
リシ地租モ自今總テ地價百分ノ一ヲ徵スヘキニ付地所ノ區分制限及ヒ地券申請證印稅收納等ノ儀  
左ノ條款ノ通相定候條此旨布達候事

第一條 地所ハ其種類ヲ分テ宅地耕地海產干場山林牧場トス

但北海道地所規則ニ掲載セル漁濱昆布場ヲ自今改テ海產干場ト稱スヘシ

第二條 耕地宅地ハ何人ニ拘ラス之ヲ所有セシムヘシ海產干場ハ何人ニ拘ハラス所有セシムヘシ  
ト雖モ海產採取ノ爲メニ設クルモノナレハ所有者自ラ營業セサルトキハ他人ニ貸渡シテ營業セ  
シムヘシ尤モ山林川澤原野河岸海岸等ハ總テ官有地トシ其差支ナキ場所ハ望ニ因リ貸渡シ或ハ  
賣渡スコトアルヘシ尤官有地ヲ貸渡ストキハ貸地證書ヲ附與シ貸地料トシテ地價百分ノ一ヲ取  
立ヘシ<sup>(十四年二月乙第二一  
號布達ヲ以テ改正)</sup>

但海產干場ヲ他人へ貸渡ストキハ必其事由ヲ具シテ願出ヘシ又本條河岸海岸等自費埋立或ハ

既ニ民有ニ屬セシモノ、類ハ之ヲ私有セシムルコトアルヘシ

第三條 牧場ハ各郡村ニ於テ其經界步數ヲ定メ官有地第三種ニ編入シ官民共同ノ用ニ充ツヘシ尤人民牧畜營業ノ爲メニ要求スル地所ハ右ノ外ニ其經界步數ヲ定メ貸渡シ或ハ賣渡スコトアルヘシ

第四條 道路狹隘ニシテ往來運輸ノ障礙ヲ爲スモノハ家屋倉庫等ヲ營構セル地面ト雖モ必ス貸地ト爲スヘシ尤土地ノ形勢ニ因リ道路敷地ノ内ヲ貸渡置クコトアルヘシ

第五條 租額ハ歲ノ豐歉等ニ因テ之ヲ變更スルコトナシト雖モ天災地變ニ因テ地形變換スルトキハ實地ヲ點檢シ減租或ハ除租等ノ處分ヲ爲スヘシ

第六條 各種ノ地所除租收租ノ別ナク地券附與ノ後ハ該地ノ全部或ハ其幾分ヲ裂キ賣買讓渡書入質入等總テ其規則ニ照シ所有者ノ自由タルヘシ

但地券發行ノ後收租地賣買ノ際地價増減ヲ生スルモノハ明治七年五月第五十三號御布告ニ照準スルモノトス尤海産干場ハ一券面ノ地所ヲ裂キ賣買讓渡スヘカラスト雖モ實際不得已事故アルトキハ事實審査ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ(十六年十一月札幌縣甲第六十九號布達同年同月函館縣甲第五十三號布達ヲ以テ尤以下改正)

第七條 明治九年十月漁場更正ノ際一旦地上地申付更ニ割渡シタル海産干場並除租年限中賣買讓渡セル各種地所ノ除租年限ハ最初定メタル年ヨリ通算(假令ハ除租七年ノ地ヲ五年目ニ賣買スルトキハ買受タル年ヨリ其買得タル年ヨリ三年間除租四年目ヨリ收租ノ類スヘシ)

第八條 地券ハ地所々有主タル確證ニ付大切ニ保存シ代替並賣買讓渡及ヒ水火盜難等ニテ亡失セ

シトキハ速ニ其事由ヲ具シ書替ヲ願出ヘシ

第九條 除租地所有ノ者ハ除租滿期ノ年六月三十日マテニ最前申請ケン券狀ヲ差出シ收租ノ券狀ト引換ヲ願出ヘシ

第十條 新規書替トモ地券及ヒ貸地證ヲ申請ケンシトキハ必ラス請取證書ヲ差出スヘシ

第十一條 收租地地券新ニ申請並賣買ニ付書替ノ節ハ券面ノ地價ニ隨ヒ每一枚證印稅トシテ左ノ通相納ムヘシ

地券ニ記セシ地價

貳圓迄	金八厘
百圓以上	金壹錢五厘
貳百圓以上	金拾五錢
五百圓以上	金三拾三錢
千圓以上	金四拾錢
貳千圓以上	金五拾錢
五千圓以上	金八拾三錢
一萬圓以上	金壹圓貳拾五錢

第十二條 除租地地券新規申請並賣買讓渡等ニ付書替及ヒ收租地代替授與水火盜難等ニテ書替ノ節ハ證印稅トシテ每一枚金八厘ヲ納メ貸地證書新規申請並ニ書替ノ節ハ手数料トシテ金八厘ヲ

納ムヘシ

第十三條 海産干場ハ海産採取ノ爲メニ所有セシムルモノナレハ營業ノ差等ニ隨ヒ地所坪數及ヒ間數ノ制限ヲ定ムル大畧左ノ如シ尤其制限ハ土地ノ形勢ニ因リ之ヲ増減スルコトアルヘシ又舊來戶口稠密ニシテ此制限ニ從ヒ難キ場所ハ從前ノ慣習ニ依リ之ヲ所有セシムルコトアルヘシ且該地ノ形ヲ變セス鮮場ニ於テ鮮場ニ於テ鮮其他ノ海産各種ノ乾製ヲ營ム等ハ總テ營業者ノ自由タルヘシ(十二年十月乙第五號布達ヲ以テ其他ノ下ノ「漁業ヲ營ム等」ノ類ノ九字ヲ削リ「海産各種ノ乾製ヲ營ム等」ノ十一字ヲ加フ)

鮮鱒建網	一統ニ付	千坪	海面表口行	五拾間
鮮鱒引網	一統ニ付	千五百坪	海面表口行	六拾間
鮮差網	十放ニ付	貳百坪	海面表口行	貳拾間
鮮建網	一統ニ付	五百坪	海面表口行	貳拾五間
大房網	一統ニ付	同	同	同
昆布刈船	一隻ニ付	四百五十坪	海面表口行	貳拾五間

但一區ノ干場ニ於テ網數統船數ヲ用ヒテ營業スルモノハ一統或ハ一隻毎ニ制限坪數ノ半ヲ增加シ鮮差網ハ拾放毎ニ其四分ノ一ヲ增加スヘシ

第十四條 干場坪數ノ制限ハ前條ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムト雖モ與行淺クシテ其間數制限ニ滿テ難キ場所ハ適度ニ隨テ表口ノ間數ヲ増シ且與行ノ間數其制限ニ過クルモ土地ノ形勢ニ因リ他ノ障礙ヲ爲サルモノハ許スコトアルヘシ

第十五條 海産干場ノ海岸地浪打際滿潮ノトヨリ五間乃至十五間ハ之ヲ官有地トシテ干場所有ノ者ニ貸渡シ山岳等海濱へ突出シ土地狹隘ニシテ右間數ノ外私有セシムヘキ餘地無之場所ハ總テ官有地トシテ之ヲ貸渡スヘシ

但營業者ノ都合ニ因リ所有地ヲ貸渡ストキハ該地接續ノ官有地ハ必ス一時返納ノ上該地借用入ヨリ更ニ右官有地ノ借用ヲ願出ヘシ尤本條間數ノ内ヲ道路ノ敷地ニ充ツルコトアルヘシ

第十六條 從前該地主若ノ人民ニシテ舊來之ヲ所有シ干場内ニ住居ノモノニ限り其制限ニ過クル一割千坪ニ付百坪ノ割合以下ノ地ハ之ヲ所有スルヲ許スヘシ

第十七條 海産干場坪數ノ制限ハ居屋漁舍倉庫ノ敷地ヲ合セテ之ヲ算スヘシ

但本條居屋漁舍等ノ敷地除租年限ハ地所規則第一條ノ通タルヘシ

第十八條 海産干場所有ノモノ地所場割渡ノ儘營業ニ着手セスシテ賣買讓與スルヲ許サス割渡ノ後一周年間着手セサルモノ及ヒ着手後中止スルモノハ上地申付ヘシ尤甲ニ於テ既ニ着手セル場所ヲ乙へ賣渡シ乙ニ於テ相當ノ營業ヲ爲サルカ或ハ中止スルモノハ土地賣買規則第三條ニ掲載セル地價上等ノ割ヲ以テ之ヲ買上クヘシ

(備考)本令中十九年閣令第十六號(土地拂下規則)二十二年法律第十三號(地券廢止等)ニ依リ自然消滅スル條項多シト雖モ姑ク全文ヲ掲ケテ參照ニ便ニス下文第十五號達亦同シ

○明治十年十二月十五日閣拓使第十五號達本支應宛

昨明治九年十二月百六十一號ヲ以テ北海道地租ノ義御布告相成候ニ付土地丈量地所ノ制限區分ヲ

定メ地券ヲ附與シ地租課收可致候別冊地券發行條例ニ照準施行可致右ハ土地整理民産保護ノ要務ニ付取調向等精々注意可致此旨相達候事

(別冊)

北海道地券發行條例

第一章 總則

第一條 土地ノ種類ヲ分チ宅地耕地海産干場牧場山林トシ官有地ヲ除クノ外人民各自之ヲ所有セシメ其經界步數ヲ正シ地位等級ヲ定メ地券ヲ發シ地租ヲ課スヘシ

第二條 地租ハ北海道地所規則並土地賣貸規則ニ掲載セル除租滿期ノ翌年ヨリ課收スヘシ

第三條 河岸海岸等ハ總テ官有地トシ其差支ナキ場所ハ人民ノ望ミニ因テ之ヲ貸渡シ貸地ノ證ヲ

附與シ貸地料トシテ地價百分ノ一ヲ取立ヘシ

但既ニ私有ニ屬セル分並自費ヲ以テ水面ヲ埋立タル等ノ類ハ本條ノ地所ト雖モ之ヲ私有セシ

ムルコトアルヘシ

第四條 土地査定地券發行ノ後ハ其地價ニ從テ年々一定ノ租額ヲ課收シ年ノ豐歉等ニ因テ之ヲ變

更スルコトナシ

第五條 天災地變ニ因テ地形變換スルトキハ實地ヲ點檢シ損害ノ厚薄多少ニ隨ヒ該地ノ全部或ハ

其幾分ヲ別チ年限ヲ定メ減租或ハ除租等ノ處分ヲナスヘシ

第六條 各地ノ地所除租收租ノ別ナク地券附與ノ後ハ賣買讓渡書入質入等總テ其規則ニ照シ所有

者ノ自由ニ任スヘシ

但地券發行ノ後地價ノ増減ヲ生スルモノ明治七年<sup>五</sup>第五十三號御布告ニ照準スヘシ

第七條 地券附與ノ後ハ耕地宅地共一券面ノ地所ヲ裂キ賣買讓渡等其他規則ニ照シ所有者ノ自由

ニ任スヘシ

第八條 明治九年十月漁場更正ノ際一旦上地申付更ニ割渡シタル海産干場並除租年限中賣買讓渡

セル各種地所ノ除租年限ハ最初定メタル年ヨリ通算<sup>假令ハ除租七年ノ地ナ五年自ニ賣買スルトキハ買受ル者其買得タル年ヨリ三年間除租四年自ヨリ收租ノ類</sup>スヘシ

第二章 土地檢査ノ手續

第九條 土地丈量ハ各地ノ除租年限ニ隨テ順次整理スヘシ

第十條 土地ヲ丈量スルトキハ各廳長官ノ名ヲ以テ豫メ其施行スヘキ郡村ノ人民ヘ着手ノ期程ヲ

布達シ期日ヲ定メ各自所有ノ地名坪數ヲ記シ圖面ヲ副ヘ之ヲ差出サシム

第十一條 地所各種ノ區分ハ土地ノ形勢ニ因リ自然區域ヲ爲スモノニ就テ之ヲ別ツ宅地區域中ニ

籠ル田畑ハ宅地トシ耕地並海産干場區域中ニ在ル居屋ハ耕地並ニ海産干場トスヘシ

尤該區域中ト雖モ其區畫判然タル別種ノ地所及右ニ接續シテ一區域ヲナス別種ノ地所ハ其種類

ヲ區分スヘシ

但從來海産干場中ニアル居家漁舍倉庫ノ敷地等除租ノ年限ハ地所規則第一條ノ通タルヘシ

第十二條 土地ヲ丈量スルトキハ每村町各地ノ經界ヲ區分シ其步數等ヲ詳記シタル地圖ヲ製スヘ

第十三條 各種ノ地所官有民有ノ區別及其名稱ハ總テ明治七年<sup>十一月</sup>第百貳拾號公布ニ據テ處分スヘシ

第十四條 新ニ道路ヲ開設スヘキ場所ハ丈量施行ノ際明治九年第六十號御達書ニ據テ其間數ヲ定メ從前開設セル道路ノ左右既ニ民有地ニ係リ間數制限ニ適シ難キ分ハ往來運輸ノ障礙有無ヲ計カリ成ルヘク舊慣ニ依ルヘシ新設ノ道路ト雖モ地形ニ依リ其ノ間數制限ヘ循ヒ難キモノハ便宜査定スヘシ

但舊來ノ道路ト雖モ敷地狹隘ニシテ往來運輸ノ障礙ヲ爲スモノハ家屋倉庫等ヲ營構セル地面ト雖モ必ス貸地ト爲スヘシ又土地ノ形況ニ依リ道路敷地ノ内ヲ貸渡シ置クコトアルヘシ

第十五條 山林川澤原野等ハ當分總テ官有地トシ其差支ナキ場所ハ人民ノ望ニ因リ貸渡シ或ハ賣渡スコトアルヘシ

第十六條 舊蝦夷人居住ノ地所ハ其種類ヲ問ハス當分總テ官有地第三種ニ編入スヘシ但地方ノ景況ト舊蝦夷人ノ情態ニ因リ成規ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第三章 地價査定ノ方法

第十七條 地價査定ノ方法ハ丈量終テ各地ノ等級ヲ分チ土地ノ景況ニ依リ收獲賣買入札ノ三法ヲ用ヒテ之ヲ概定シ然ル後全道一般ノ地位ヲ比較シテ之ヲ査定スヘシ

第十八條 各地ノ等級ハ僅少ノ差ヲ以テ瑣細ニ之ヲ區分セス一村ヲ通觀シ其地位概畧相同キモノ

ヲ類聚シテ之ヲ區別シ又一郡ヲ通觀シテ各村ノ等級ヲ定ムヘシ

第十九條 各村ノ等級ヲ定ムルニハ甲乙二村各種ノ一等地ヲ取テ之ヲ比較シ其差等<sup>乙村ノ一等地ハ甲村ノ二等地或ハ三等<sub>地ニ當</sub>ルノ類</sup>ニ因リ之ヲ分ツ丙村ノ乙村ニ於ル丁村ノ丙村ニ於ルモ總テ右ニ準スヘシ

第二十條 市街ハ一券面ノ地所其表裏等地位ノ差等アルモノハ之ヲ區分セス折衷斟酌シテ一ノ等級ヲ定メ一町内ヲ通觀シテ之ヲ類別シ然ル後一市街ヲ通觀シテ各町ノ等級ヲ分ツ其比較査定ノ方法ハ各村ノ例ニ倣フヘシ

第二十一條 耕地ノ等級ヲ定ムルニハ地質ノ厚薄水旱害ノ多少等ヲ參酌シ宅地ハ土地ノ景況戶口ノ粗密及運輸ノ便否等ヲ參酌スヘシ

第二十二條 海產干場ハ漁業ノ便否或ハ地質ノ適否及漁獲ノ多寡運輸ノ便否等ヲ斟酌シテ其等級ヲ分ツヘシ

第二十三條 收獲法ヲ用ヒテ地價ヲ定ムルハ明治六年大藏省達地方官心得書第十二章檢査例第一則ニ法リ其收獲<sup>數多</sup>ノ類<sup>ノ類</sup>ノ多寡ニ因テ地價ノ差等ヲ調査シ入札法ハ同上舊規ヲ斟酌シテ之ヲ施行スヘシ

第二十四條 賣買代價ヲ用フルトキハ明治九年地租改正事務局別報第十四號市街地租調查法細目第三條ニ法リ之ヲ調査スヘシ

第二十五條 地價ハ各地悉ク調査スルヲ要セス土地ノ景況ニ從ヒ一町村或ハ數町村六七ヶ所許ノ地所ニ就テ之ヲ調査シ適實至當ノ價位ヲ得テ然ル後各地ノ等級ニ隨ヒ類推假定シ又一郡内各地

ノ等級及價位ヲ通觀シテ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 郡村宅地ハ耕地ニ比較シ海産干場ハ其接近セル宅地耕地ニ比準シテ之ヲ斟酌シ其平準ヲ失ハサルヲ要スヘシ

第二十七條 市街宅地並海産干場ノ地價ハ平坪若干耕地等ハ壹段若干ト定ムヘシ

第二十八條 地價調査ノ方法ハ前各條ニ據ルヘシト雖モ全道地價概定ノ後之ヲ査定スルハ札幌廳下各種ノ地所ハ函館廳下ノ地所ヲ標準札幌ノ一等地ハ函館ノ二等トシ根室廳下ハ札幌廳下ヲ標準トス或ハ三等地ニ準スルノ類ル等各其類ヲ推シ比擬斟酌シテ全道各地ノ平準ヲ失ハサルヲ要スヘシ

第四章 地券調製ノ手續

第二十九條 地券ハ全道一般地價査定ノ後之ヲ發行スヘシ

第三十條 第二章第十二條ニ掲載セル地圖ニ付キ一村一町毎ニ各地順次ニ番號ヲ附シ其步數ヲ記シ所有者ノ姓名ヲ署シ除租地收租地貸地ノ別ナク一村一町限リ逐號類聚シテ地券調査録ヲ編成スヘシ

第三十一條 地券調査録編成ノ後ハ各地番號ノ順次ニ隨ヒ地券ヲ製シテ所有者ニ附與スヘシ

第三十二條 地券録甲乙二部ヲ製シ地券附與ノ際收租地官有地ハ甲除租地ハ乙ノ地券録ニ券面ノ番號坪數所有者ノ姓名附與ノ年月日ヲ記シ券狀ト割印スヘシ

第三十三條 地券ノ法式收租地ハ第一號官用地ハ第二號除租地ハ第三號雜形ニ照準シテ之ヲ製スヘシ

第二十四條 貸地ハ第四號雜形ニ照準シタル貸地ノ證ヲ作り其番號坪數借用者ノ姓名附與ノ年月日ヲ貸地録ヘ記シ割印スヘシ

第二十五條 除租地ハ除租ノ滿期ニ從ヒ該年六月三十日マテニ最前附與セシ券狀ヲ差出サシメ收租ノ券狀ト交換附與シ地券録甲部ヨリ乙部ニ移載シ第四章第三十二條ノ手續ヲナスヘシ

第二十六條 地券所有ノ者代替並賣買讓渡ノ節ハ速ニ其事由ヲ具狀シ地券書換ヲ願出シメ地券録ヲ更正シ第三十二條ノ手續ヲナスヘシ

第二十七條 水火盜難等ニテ地券ヲ亡失セシトキハ速ニ書換ヲ願出シメ之ヲ推究シテ其事由判然タルハ新ニ地券ヲ製シ第三十二條ノ手續ニ從テ之ヲ附與スヘシ

第二十八條 地券所有ノ者一券面ノ地所ヲ裂キ之ヲ賣買讓渡セント欲スルトキハ其坪數及ヒ代價等ヲ詳記シ其事由ヲ具シテ地券書替ヲ願出シムヘシ

第二十九條 前條出願其事由判然タルトキハ本地分地各別ニ地券ヲ製シ第三十二條ノ手續ニ從テ之ヲ附與スヘシ尤各券面ニ記スル地所ノ番號ハ之ヲ改メス券面番地ノ下ニ甲乙等ノ符字ヲ記シテ之ヲ別ツヘシ

第四十條 前各條地券附與ノ節ハ必ラス請取證書ヲ差出サシメ分類編輯シテ地券録各部ノ附録トナスヘシ

第四十一條 貸地證所持ノ者代替並水火盜難等ニテ證書ヲ亡失セシトキハ地券全一ノ手續ニ從テ書替ヲ願出シメ貸地録ヲ更正シ第三十四條ノ式ニ據テ之ヲ附與スヘシ尤新規書替トモ證書附



與ノ節ハ必ラス受取證書ヲ差出サシメ貸地録ノ附録トナスヘシ

第四十二條 收租地地券新規附與並賣買書替ノ節ハ券面ノ地價ニ從ヒ每一枚證印稅トシテ左ノ通取立ヘシ

地券ニ記セシ地價

貳圓	マテ	金八厘
百圓	マテ	金壹錢五厘
百圓	マテ	金拾五錢
貳百圓	マテ	金二拾三錢
貳百圓	マテ	金四拾錢
五百圓	マテ	金五拾錢
千圓	マテ	金八拾三錢
貳千圓	マテ	金壹圓貳拾五錢
五千圓	マテ	
五千圓	以上	

第四十三條 除租地地券新規附與並賣買讓渡等ニ付書替及ヒ收租地代替授與水火盜難等ニシテ書換ノ節ハ證印稅トシテ每一枚金八厘ヲ取立貸地證書新規附與並書替ノ節ハ手数料トシテ金八厘ヲ取立ヘシ

第五章 地所種類ノ區分及其制限

第四十四條 家屋ヲ建設セル壹區ノ地ヲ宅地トシ壹區域ヲ爲セル田畑ヲ耕地トシ海產製煉貯藏等

ノ爲ニ用フル一區ノ地ヲ海產干場トシ其他山林牧場各壹區域ヲ爲セルモノニ就テ其稱呼ヲ定ムヘシ

第四十五條 耕地宅地ハ何人ニ拘ハラズ人民各自之ヲ所有セシムヘシ

第四十六條 牧場ハ各郡村人口ノ多寡ト土地ノ廣狹トニ因リ牧畜ニ適スヘキ原野ヲ擇ンテ其經界步數ヲ定メ官有地第三種ニ編入スヘシ

第四十七條 官ニ於テ試驗ノ牧場ヲ要スルトキハ前條ノ外ニ適宜ノ地ヲ撰ミ其經界步數ヲ定メテ官有地第二種ニ編入シ人民營業ノ爲メニ要求スル地所ハ其經界步數ヲ定メテ之ヲ貸渡シ或ハ私有セシムヘシ

第四十八條 海產干場ハ何人ニ拘ハラズ之ヲ所有セシムヘシト雖モ海產採取ノ爲ニ設クルモノナレハ所有者自ラ營業セサルトキハ必ス他人ニ貸渡シテ營業セシムヘシ(十四年二月第四號達ヲ以テ改正)

但本條ノ地所ヲ他人ニ貸渡ストキハ其事由ヲ具狀セシメ審査ノ上之ヲ許可スヘシ

第四十九條 北海道地所規則ニ掲載セル漁濱昆布場ヲ自今改テ海產干場ト稱スヘシ

第五十條 海產干場ハ海產營業ノ爲ニ所有セシムルモノナレハ營業ノ差等ニ從テ地所坪數ノ制限ヲ定ムヘシ

第五十一條 海產干場ハ一券面ノ地所ヲ分裂シテ之ヲ賣買讓渡スヘカラス(十六年十一月札幌縣乙第二號達ヲ以テ但書追加)

ニ貸渡シテ之ヲ所有セシムヘシ

但海産營業者ノ都合ニ因リ所有地ヲ他人ヘ貸渡ストキハ該地接續ノ官有地モ改メテ該地借用  
人ヘ貸渡スヘシ尤本條間數ノ内ヲ道路ノ敷地ニ充ツルコトアルヘシ

第五十三條 山岳等海濱ヘ突出シ土地狹隘ニシテ前條ニ掲載スル間數ノ外私有セシムヘキ餘地無  
之場所ハ總テ官有地トシテ之ヲ貸渡スヘシ

第五十四條 從前該地主著ノ人民ニシテ舊來之ヲ所有シ干場内ニ居住ノ者ニ限リ其制限ニ過クル  
壹割千坪ニ付百以下ノ地所ハ之ヲ所有セシムヘシ

第五十五條 海産干場坪數ノ制限ハ居屋漁舍倉庫等ノ敷地ヲ合セテ之ヲ算スヘシ

第五十六條 海産干場所有ノ者地所割渡シノ儘營業ニ着手セシテ賣買讓渡スルヲ許サス割渡ノ  
後一週年間着手セサル者及着手後中止スルモノハ上地申付ヘシ尤モ甲ニ於テ既ニ着手セル場所  
ヲ乙ヘ賣渡シ乙ニ於テ相當ノ營業ヲ爲サ、ルカ或ハ中止スルモノハ土地賣買規則第三條ニ掲載  
セル上等地價ノ割ヲ以テ之ヲ買上クヘシ

第五十七條 海産干場坪數ノ制限ハ土地ノ形勢ニ因リ之ヲ増減スルコトアルヘシト雖モ其坪數及  
ヒ間數大畧左ノ如シ尤モ舊來戸口稠密ニシテ此制限ニ從ヒ難キ場所ハ從前ノ慣習ニ依リ之ヲ所  
有セシムルコトアルヘシ且該地ノ形ヲ變セス鮮場ニテ鮭鮭場ニテ鮮其他海産各種ノ乾製ヲ營ム  
等ハ總テ營業者ノ自由ニ任スヘシ(十二年十月第十九號達ヲ以テ「鮮其他」ノ下ノ「漁業ヲ營ム等」  
類ノ九字ヲ削リ「海産各種ノ乾製ヲ營ム等」ノ十一字ヲ加フ)

鮮鮭鮭引網

壹統ニ付

千

坪

與海面表行

貳拾間

鮮鮭鮭引網

壹統ニ付

千五百坪

與海面表行

六拾五間

鮮差網

拾放ニ付

貳百坪

與海面表行

貳拾間

鮭建網

壹統ニ付

五百坪

與海面表行

貳拾五間

大房網

壹統ニ付

五百坪

與海面表行

貳拾五間

昆布刈場

壹雙ニ付

四百五十坪

與海面表行

拾八間

但壹區ノ干場ニ於テ網數統船數隻ヲ用ヒテ營業スルモノハ壹統或ハ壹隻毎ニ制限坪數ノ  
半ヲ増加シ鮮差網ハ拾放毎ニ其四分ノ一ヲ増加スヘシ

第五十八條 干場坪數ノ制限ハ前條ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムト雖モ與行淺クシテ其間數制限ニ滿チ  
難キ場所ハ適度ニ隨テ表口ノ間數ヲ増シ且與行ノ間數其制限ニ過クルモ土地ノ形勢ニ依リ他ノ  
障碍ヲ爲サ、ルモノハ之ヲ許スコトアルヘシ

○明治二十年九月六日北海道廳令第八十六號

明治十九年八月甲第八號布達第十二條ニヨリ成功方法書ニ認可ヲ與ヘタル地所ニシテ其成功年期ノ  
除租年季後ニ亘ルモノハ成功年期ノ盡タル翌年ヨリ收租ス(第十二條ハ十九年開令第十九號附則第十二條ノ  
三年十二月開令第八號ヲ以テ廢セラル)

○明治二十一年一月十四日北海道廳訓令號外郡區  
長宛

明治七年開拓使第二號布達第四條ニ該當スル地所ニシテ未タ地券ヲ下付セサルモノハ明治十九年  
開令第十六號第十條但書ニ准シ取扱フヘシ

○明治十四年四月四日開拓使札帳本廳甲第五十一號布達  
明治十三年九月第四十一號ヲ以テ替麴營業稅則布告相成候處常應管内ノ義ハ當分ノ内別冊ノ通相定  
候同年十月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

(別紙)

替麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ替麴(醸造酒類)ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨當應ニ願出製造場一箇所毎ニ免許  
鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

替麴營業稅 金拾貳圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ當應ニ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中當應ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月  
中當應ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ當應ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ當應ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ替麴賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出ス

ヘシ

第二章 禁令 罰則

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス替麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徴スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違反スル  
者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徴スヘシ

○明治十四年六月二十九日開拓使根室支廳甲第三十七號布達

明治十三年九月第四十一號替麴營業稅則布告相成候處常應管内ノ義當分別冊ノ通相定メ全年十月一  
日以後營業ノ者ハ右ニ據リ處分候條此旨布達候事

(別冊)

替麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ替麴(醸造酒類)ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨當應ニ願出製造場一ヶ所毎ニ免  
許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

替麴營業稅 金拾貳圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ當應ヘ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中當廳へ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中當廳へ差出シ検査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スルトキハ雙方連印ノ願書ヲ當廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代換改名轉居セシトキハ當廳へ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ密廻賣捌所ト書シタル標札へ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰則

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス密廻ヲ營業スル者ハ科料トシテ金百圓ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違反スルモノハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

○明治九年七月十四日開拓使乙第六號布達

明治七年第貳拾壹號公布解漁船並海川小廻船等船稅規則一般ノ通施行候條管下人民現今所有ノ船ハ十月中マテニ其最寄船改所或ハ地方役所寄留或ハ出店等ニテ使用ノ船ハ渾テ其定額ノ地ニ申立檢印相受ケ本年ハ十一月來

十七年四月函  
館札帳根室三  
縣達乙第九十九  
號甲第九十六  
號令達ノ參照

明治十年ヨリ年々四月中税金相納ムヘク此旨布達候事(十六年四月太政官第十三號布達ヲ以テ七年第二十一號公布ヲ廢ス)

但漁船ノ内筒船ホツチ船三半船圖合船丸木船磯船ナト、唱候類ニテ漁業一途ニ相用ヒ全ク他ノ稼方ニ不充船ニ限リ除稅候條船稅規則第三則ニ準シ願書差出シ免除ノ檢印相受可申候事

○明治十七年四月八日函館縣乙第十九號達郡區役所戶長役場宛

明治十六年四月第十三號ヲ以船稅規則布告相成候處明治九年七月舊開拓使乙第六號布達但書捕魚採藻一途ニ相用ヒ全ク他ノ稼方ニ不充船ハ從前ノ通免稅相成候義ニ候條爲心得此旨相達候事

○明治十七年四月十日札幌縣乙第九十六號達郡區役所宛

從前免稅ニ屬スル漁業一途ニ用フル船取扱方ノ義ニ付昨年十二乙第二百五十三號ヲ以テ相達候次第モ有之候處明治九年七月舊開拓使乙第六號布達但書ノ通尙免稅ノ義ト心得ヘシ

右相達候事

○明治十七年四月十五日根室縣甲第二十五號布達

客歲四月第十三號布告ヲ以テ船稅規則制定相成候所管下漁業採藻一途ニ用ユル船舶ハ明治九年七月舊開拓使第六號布達ニ據リ從前ノ通免稅シ其他ハ總テ改定規則ニ據リ施行ス

但本年二月本縣甲第十九號布達ハ消滅ノ儀ト心得ヘシ

右布達候事

○明治二十一年七月十九日北海道廳訓令第五十六號郡區役所宛

水車ヲ浮フルタメ河川ノ一所ニ繫留シ物貨ノ運搬ニ供用セサル船ハ自今課稅ノ範圍外ト心得ヘシ

人力車稅則ノ義本年第二十七號御布告ノ通改正候條從前ノ規則昨七年十二月三十一日限り相廢シ全號規則ノ通本年一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

○明治十三年七月八日開拓使札幌本廳達甲第五十三號布達

明治八年<sup>月</sup>太政官第貳拾七號布告車稅規則本年七月一日ヨリ履行候條此旨布達候事

○明治十一年十二月十七日開拓使乙第二十九號布達

牛馬賣買規則別紙ノ通相定メ明治十二年一月ヨリ施行候條此旨布達候事

(別紙)

牛馬賣買規則

第一條 牛馬賣買營業ノ者牛馬一鼻綱ニ付免許鑑札壹枚宛申受ヘシ

但壹鼻綱ハ牛馬共七匹ニ限り鑑札壹枚所持ノ者旅行ノ時ハ七匹以內貳枚所持ノ者ハ拾四匹以內トス其餘之ニ準スヘシ

第二條 免許鑑札ヲ新ニ申受ル者六月以前ハ全年分七月以降ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以降ハ全年分六月以前ハ半年分納稅スヘシ

第三條 免許鑑札壹枚ニ付一ヶ年稅金壹圓宛上納スヘシ

但稅金ハ每年兩度ニ半額宛前半年分ハ一月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り納付シ新ニ申受クル者ハ其都度半額即納スヘシ

第四條 免許鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其旨管廳ヘ届出新規鑑札申受ヘシ

但鑑札壹枚ニ付手數料金貳拾錢上納スヘシ

第五條 免許鑑札ヲ所持セスシテ密ニ賣買スル者ハ其牛馬ヲ官沒シ及ヒ鑑札稅拾倍ノ科料ヲ徵收スヘシ

第六條 免許鑑札ヲ借受ケ賣買スル者ハ第五條ニ同シ其貸渡ス者ハ鑑札稅五倍ノ科料ヲ徵收スヘシ

第七條 第五條第六條ノ犯者ヲ見認メ訴出ル者ハ本犯科料ノ半額ヲ與フヘシ

○明治二十五年一月十六日北海道廳告示第五號

明治二十四年<sup>月</sup>三大藏省令第四條ニ依リ算出シタル水產物營業人各組合一箇年ノ稅額別冊ノ通但別冊ハ那區役所戶長役場並ニ水產物營業人組合納稅事務所ニ配付ス

(別冊)

北海道水產稅額表

函館水產物營業人組合		品名		稅額	價格	同	上	價格
生	品名	稅額	價格	同	上	價格	同	價格
生	鮭	一二九〇二六	五、二二六三三	同	上	二、五八〇五一	同	一、六八〇〇〇
生	鮭	八四〇〇	一四〇〇〇	同	上	一六八〇〇〇	同	一六八〇〇〇
生	鱒	一六六四	五八六四	同	上	三三二八五	同	三三二八五
生	鱒	一六八八一	一六七四二九	同	上	三三七六一五	同	三三七六一五
生	鮭	七三四九	一四〇〇	同	上	一四六九七二	同	一四六九七二

品名	稅額	價格		同上	價格
		分	百		
鮫 乾		四九六七五	一〇三一〇〇	同	九九三五〇〇
鱈 乾		一、八一五八四八	六、二七八二〇〇	同	三六、三一六九五九
鱈 絞		一〇三三五三	四一〇〇〇	同	二〇七〇五七
生 鱈		四〇〇四	六五一九二	同	八〇〇八八
生 鱈		四八六九一	四〇〇九六三	同	九七三八二二
生 鱈		二六九四三	一八二五三三	同	五三八八六七
生 鱈		二六九九〇〇	一、三四一七四一	同	五、三九七九九二
生 鱈		一九五七	一〇三二九	同	三九一三六
生 鱈		二二二六六	六八二九三	同	四六五三一三
生 鱈		一四四六	三四六三三	同	二八九一三
計		三、五一八八四七	七、七四〇九二七	同	七〇、三七六九〇一
若 布		〇四二	五二三	同	八三七
昆 布		五〇六〇〇	二八〇〇六七	同	一、〇一八九九〇
鱈 布		三、〇三五六七	一、一二三六八八	同	六〇、七〇七三四九
鮫 絞		二二三八〇七	七六三〇一五	同	四、四七六一三二
鮫 乾		四五七一一	一六三八六〇	同	九四二一〇

龜田水產物營業人組合

品名	稅額	價格		同上	價格
		分	百		
鮫 乾		三九一六	一五五八二	同	七八三三二
鮫 絞		一、六八七五七四	五、一九七四九七	同	三三、七五一四八七
生 鱈		六四〇六二	二四三二一七	同	一、二八二二三一
生 鱈		五八七六	六一七八七	同	一一七五二二
生 鱈		七三九五二	一九八八六二	同	一、四七九〇四一
生 鱈		六七九六	三三四一九	同	一三五九二二
生 鱈		二三七〇〇八	五一九三〇〇	同	四、七四〇一六六
生 鱈		二二一五六	五〇四二八五	同	四二三一一六
計		三、一四四八一四	一四、四四五二五五	同	六二、八九六二六七
若 布		二一七八	三八四七五	同	四三五五四
昆 布		八一五七九二	五、四二二九八二	同	一六、三一五八四九
鱈 布		三三三一八	二八七七八九	同	六四六三五九
鱈 鮪		三二〇〇〇	一六〇〇〇〇	同	六四〇〇〇〇
鱈 鮪		六五〇六	七一八四	同	一三〇一二五
鮫 乾		二七八	八三三	同	五五五七
鮫 乾		三六五九	一八〇八	同	七三一七五

上磯水產物營業人組合

茅部水産物營業人組合			
品名	稅額	分價格	同 上 價 格
乾 鮑	二三四二七	七九四二	四六八五三五
煎 海 鼠	四三三九七	八九八一	八六七九三六
鰻 鮪	一六二九一六	三七〇六六	三、二五八三二七
鹽 鮪	七三一一三	三四〇六七	一、四六二六三三
昆 布	三八七〇八七	三、〇八八九八	七、七四二七三二
細 布	一六九四	二八三〇三	三三八七二
若 布	一〇〇五一	一五九二〇三	二〇一〇二八
布 海 苔	七五七	二二四三	一五一四〇
海 馬	一六六七	三三三	三三三三三
計	二、八〇四四六八	一〇、四四七三	五六、〇八九三三三
生 鮪	六七五一九	八八六六三九	一、三五〇三七五
生 鮪	一三八六五七	九三二六六八	二、七七三一三六
生 鮪	四二三五	三九六四三	八四七〇〇
生 鮪	九一〇一	四二四六一	一八二〇二〇
生 鮪	三三九三九〇	七五九一六六	六、七八七七九三
生 鮪	七五〇	一六六六七	一五〇〇〇
生 鮪	九〇六六一	三、二二五八二七	一八、一三二四二二
生 鮪	五三三五一四	一、八九八一五五	一〇、六七〇二七五
乾 鮪	八五二四八	三六四三九七	一、七〇四九五七
乾 鮪	三六一六五	一三五九〇七	七二三二九四
煎 海 鼠	二二三六一	六一八七	四四七二二二
鹽 鮪	三九九三三八	九三七八三一	七、九八六七五八
鹽 鮪	五四三五	三〇二五三	一〇八七〇〇
鹽 鮪	三三八七五六	一、八一三一三三	六、七七五一一六
鹽 鮪	一一六三〇七	一、二二〇八六	二、三二六一四一
昆 布	五八八七三四	三、五四三三七四	一、七七四六七五
海 馬	二〇六	〇七〇	四一六七
布 海 苔	七六〇三	二六四八二	一五二〇五九
鰻 鮪	一〇八〇七	四四八三	二一六一三三
計	三、六二五三八二	一六〇三三九	七二、五〇七六三三

松前水産物營業人組合			
品名	稅額	分價格	同 上 價 格
生 鮪	一四六三五	二二九九二〇	二九二七〇〇
練 絞 粕	九〇六六一	三、二二五八二七	一八、一三二四二二
練 絞 粕	五三三五一四	一、八九八一五五	一〇、六七〇二七五
乾 鮪	八五二四八	三六四三九七	一、七〇四九五七
乾 鮪	三六一六五	一三五九〇七	七二三二九四
煎 海 鼠	二二三六一	六一八七	四四七二二二
鹽 鮪	三九九三三八	九三七八三一	七、九八六七五八
鹽 鮪	五四三五	三〇二五三	一〇八七〇〇
鹽 鮪	三三八七五六	一、八一三一三三	六、七七五一一六
鹽 鮪	一一六三〇七	一、二二〇八六	二、三二六一四一
昆 布	五八八七三四	三、五四三三七四	一、七七四六七五
海 馬	二〇六	〇七〇	四一六七
布 海 苔	七六〇三	二六四八二	一五二〇五九
鰻 鮪	一〇八〇七	四四八三	二一六一三三
計	三、六二五三八二	一六〇三三九	七二、五〇七六三三





爾志水產物營業人組合			
品名	稅額	價分ノ格百	自二十一年一月至二十三年十二月平均產出枚數
胴 鯨	二、七七四四一九		一、二、二一六〇九二
脊 割 鯨	〇〇八一		〇三七三
二ツ割 鯨	八二九三		五四五六〇
乾 鮑	四六三八四		一四六三九
煎 息	五三四二五		一一〇九九
錫	四九六九九		三九六〇五
鹽 鮭	一二七三六		三二九一六
昆 布	八三九一九		一、〇三〇一四三
細 布	一六六九一		三四七三一八
計	五、九六五五七〇		二二、九四二二七五
生 鮭	〇三三三		二〇〇〇
生 鱈	五三五九		四九八〇六
生 鱈	〇三二七		一三八九
生 鮭	三三三二四		一〇四四六五
生 鮭	〇六一八		九五〇〇
品 名	稅 額	價 分	格 百
生 鮭	二、四八五二一六		八、五七二三一〇
生 鮭	二、七三三〇二四		八、八一六九五九
二ツ割 鯨	四、三一六六七一		一九、四九五二二五
乾 鮑	一〇九九六三		六〇八一七三
乾 鮑	九四〇一八		一四、八一六六九三
乾 鮑	五一八二		一、四〇〇二三九
煎 海 鼠	四四五六五		一一一四三四
錫	六六八二五		二〇三二二
錫	一八一七一		一九八〇四
鹽 鮭	一三〇四七		四三八八四
昆 布	七六三〇三		二、五八六五五〇
計	一〇、〇四四八八八		五六、六八二四一〇
雜魚絞粕	二〇四二		一一六六七
身欠 鯨	二、七七三〇二四		八、八一六九五九
胴 鯨	四、三一六六七一		一九、四九五二二五
二ツ割 鯨	一〇九九六三		六〇八一七三
乾 鮑	九四〇一八		一四、八一六六九三
乾 鮑	五一八二		一、四〇〇二三九
乾 鮑	四四五六五		一一一四三四
煎 海 鼠	六六八二五		二〇三二二
錫	一八一七一		一九八〇四
錫	一三〇四七		四三八八四
鹽 鮭	七六三〇三		二、五八六五五〇
昆 布	一〇、〇四四八八八		五六、六八二四一〇
品 名	稅 額	價 分	格 百
生 鮭	八二八〇		一五三八九
生 鱈	二六九九		三七四一七
生 鮭	〇四三		六一七
絞 粕	一、五四五三七三		五、四〇九二八九
品 名	稅 額	價 分	格 百
生 鮭	一六五五九一		一、六五五九一
生 鱈	五三九七二		五三九七二
生 鮭	八六三		八六三
絞 粕	三〇、九〇七四六七		三〇、九〇七四六七

久遠水產物營業人組合			
品名	稅額	價分ノ格百	自二十一年一月至二十三年十二月平均產出枚數
雜魚絞粕	二〇四二		一一六六七
身欠 鯨	二、七七三〇二四		八、八一六九五九
胴 鯨	四、三一六六七一		一九、四九五二二五
二ツ割 鯨	一〇九九六三		六〇八一七三
乾 鮑	九四〇一八		一四、八一六六九三
乾 鮑	五一八二		一、四〇〇二三九
乾 鮑	四四五六五		一一一四三四
煎 海 鼠	六六八二五		二〇三二二
錫	一八一七一		一九八〇四
錫	一三〇四七		四三八八四
鹽 鮭	七六三〇三		二、五八六五五〇
昆 布	一〇、〇四四八八八		五六、六八二四一〇
品 名 <td>稅 額</td> <td>價 分</td> <td>格 百</td>	稅 額	價 分	格 百
生 鮭	八二八〇		一五三八九
生 鱈	二六九九		三七四一七
生 鮭	〇四三		六一七
絞 粕	一、五四五三七三		五、四〇九二八九
品 名 <td>稅 額</td> <td>價 分</td> <td>格 百</td>	稅 額	價 分	格 百
生 鮭	一六五五九一		一、六五五九一
生 鱈	五三九七二		五三九七二
生 鮭	八六三		八六三
絞 粕	三〇、九〇七四六七		三〇、九〇七四六七

奧尻水產物營業人組合			
品名	稅額	價格	上價
雜魚絞粕	三二二七	一一八七一	六二五四六
身欠鮫	七一五七二	二、四九〇四一三	一四、三一四四三
胴鮫	一、二四三四一六	四、九八〇五八五	二二、八六八三一
二ツ割鮫	一九九七七六	八二五九八三	三、九九五二四
乾鮫	二八六七八	六五九五五	五七三五六五
乾鮫	二二〇五三	五八六一六	四四一〇五一
乾鮫	〇六七三	六七二六	一三四五二
煎海鼠	四八四三一	二二〇六一	九六八六二四
煎海鼠	二〇一〇四	五三二五	四〇二〇八八
鰺	一一〇一七五	九二九三六	二、四〇三九九六
鹽鮭	一九一一九	五五二二二	三八二三八四
昆布	五五七六	九三二四八	一一一五一九
計	三、八八三二四五	一四、一六九五三	七七、六六四八七
品名	稅額	價格	上價
鮭絞粕	八四二〇七五	三、七四二五五七	一六、八四一五〇五
雜魚絞粕	二七八二五	一二三六六七	五五六五〇〇
身欠鮫	一八八七九二	七五五一六八	三、七七五八四二

太槽水產物營業人組合			
品名	稅額	價格	上價
鮭絞粕	四七一三六六	一、七九二四三九	九、四二七三二二
雜魚絞粕	〇七二九	二九一七	一四、五八三
身欠鮫	一〇二〇九九	四一九四一四	二、〇二一九七〇
胴鮫	一六五二二二	八〇二二三二	三、三〇四四四五
二ツ割鮫	一〇二二七二	四五二七一五	二、〇四五四三二
乾鮫	六二七八三	一八六五一	一、二五五六五三
煎海鼠	一一五二	三一五	二五〇四九
鮭絞粕	二九三九五五	一、六七七六八七	五、八七一九〇四
二ツ割鮫	二八一三一	一六〇七五〇	五六二六二五
乾鮫	〇四〇〇	一六〇〇	八〇〇〇
煎海鼠	三六六五七七	一四五二〇八	七、三三一五四七
煎海鼠	八一六五七	二二〇四五	一、六三三二三八
鰺	一六四一九	一〇〇六二	三二八三七九
乾海扇	三三七五〇	一六八七五	六七五〇〇〇
海扇殼	四九九四	一三八五二	九九八八一
計	一、八八四二二五	六、六六九四七一	三七、六八四三二一

品名	稅額	價格		同上	價格
		分	百		
鰻		二五三八五九		二四三九二二	五、〇七七 一八八
生 鮭		六六一三		二三八〇四	一三二二五六
鮭 鱈 鮭		三四三九二		一七一九六〇	六八七八四〇
計		六二五		二〇八三	一二五〇〇
		一、二〇〇二二		三、九三〇四五二	二四、〇〇四二二八
瀬棚水産物營業人組合					
品名	稅額	價格		同上	價格
		分	百		
生 鮭		一〇一六		二七三二八	二〇二二二八
生 鮭		三六九		一二二九	七三七六
鮭 鱈 鮭		一、六一七二七七		五、七二二〇一〇	三二、三四五五四六
雜魚 鮭 鮭		二七七三		一〇九八一	五五四五八
身 欠 鮭		四九〇三二六		一、六九〇七二五	九、八〇六五一〇
鮭 鱈 鮭		七一九一四六		三、一〇〇五七八	一四、三八二九二四
二少割鮭		一二二九八四		四七二七七	二、二五九六八三
乾 鮭		一七九七〇九		六二五〇〇	三、五九四一七〇
煎 海 鮭		五三二四九		一四三一四	一、〇六四九七七
鰻		八四二七二		八四二九五	一、六八五四三八
鹽 鮭		四四五五七		一八八五二六	八九一 一三二

島牧水産物營業人組合

品名	稅額	價格		同上	價格
		分	百		
鹽 鮭		〇六七七		二一一一	一三五三九
昆 布		一二二二九		二九九三八四	二四四五七七
鯨 鮭 鮭		七四一〇		四九〇七七	一四八二〇七
鯨 鮭 鮭		三〇五〇		一三五五四	六〇九九三
計		七六五		二三五〇	一五三〇〇
		三、三三八九〇九		一一、六七二七二三	六六、七七八一五八
島牧水産物營業人組合					
品名	稅額	價格		同上	價格
		分	百		
鯨 鮭 鮭		三、一九八二二〇		一一、一七三二八一	六三、九六四三九二
身 欠 鮭		一、二七九九八三		四、六四七六九〇	二五、五九九六五二
鮭 鱈 鮭		一、七二三八二八		八、四二二九九八	三四、二七六五六七
二少割鮭		六二三五三三		三、四二四九六八	一二、四七〇六六一
乾 鮭		四二二六		一〇〇七五	八四五一六
乾 鮭		三六二三		九八九〇	七二四六〇
煎 海 鮭		七三五六七		二三〇九一	一、四七一三三七
煎 海 鮭		五七〇二六		一五六二〇	一、一四〇五一三
乾 海 鮭		二八六一七二		八八〇〇五	五、七二三四四八
昆 布		一七九九		三六一八六	三五九七九

二十五年三月十日告示第九號及生魚類計更ス

品名	稅額	價格	同	價格
鯧魚	七〇五二四	六八七九三六	同	一、四一〇二七五
生魚	四八二五	二〇四三九	同	九六五〇〇
生魚	三三八	一二五三	同	六七六四
計	七、三八〇八九	二九、八三二七〇一	同	一、七四、六一六一五七
生魚	四〇七九	五四三三二	同	八一五七三
生魚	三〇五〇八	七七三三三	同	六一〇一六七
生魚	〇九〇八	一九四一一	同	一八一六〇
鯧魚	二、二〇六二〇六	七、七七一七四五	同	四四、二四二二七
雜魚	五三〇九八	一九五六三二	同	一、〇六一九六三
身欠	一、二一四七八一	三、一〇九四二九	同	二四、二九五六二二
胴	一、三四八三五二	五、九三五一二八	同	二六、九六七〇三五
二ツ割	一、六五六六五五	七、二九〇七九四	同	三三、一三三〇九八
乾鮓	一九六七	五〇二六	同	三九三三六
乾鮓	一七五九	五一	同	三五二八七
煎海鼠	一一〇二〇一	二七八九九	同	一一、〇二〇一一

壽都水産物營業人組合

自二十一年一月三十一日平均產出枚數

同

價格

二十五年三月十日告示第九號及生魚類計更ス

品名	稅額	價格	同	價格
鯧魚	八八八七五	一一三三三三	同	一、七七七五〇〇
生魚	七五九四	七四〇八七	同	一五一八七九
生魚	二六八	五五五二	同	五三五七
鯧魚	四六五九	三九〇二	同	九三一七〇
鯧魚	六一三	一七五〇	同	一二二五〇
計	一一七七三	二〇〇〇	同	五五四六四
計	六、七三三一九六	二四、七五三六二四	同	一三四、六六三九〇九

歌葉水産物營業人組合

自二十一年一月三十一日平均產出枚數

同

價格

品名	稅額	價格	同	價格
鯧魚	三六四五六	九五八八三	同	七二九二八
生魚	一、八一〇三二	七、二〇五〇一八	同	三六、二〇〇六三九
生魚	一、一〇九三七一	三、六七四六五四	同	一一、一八七四一九
身欠	一、二七三九七八	六、三九一一三一	同	二五、四七九五六七
胴	五七九一四五	三、〇九四七三七	同	一一、五八二八九三
二ツ割	一四三六八	五三九一	同	二八七三六五
煎海鼠	四六六六六	一一九五九	同	九三三三二七
昆布	三三八九九	五一〇七九	同	六七七九八九
鯧魚	七七九二	七六〇二〇	同	一五五八四二